

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

Orist流 折紙の広め方

Orist's Way of Re-Populization of Origami

西村光平・柏村卓朗

Nishimura Kohei, Kashiwamura Takuro

折り図 Diagrams

ビーグル犬

Beagle

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

15°-蛙

15 degrees Frog - with Thanks to Robert

西川誠司

Nishikawa Seiji

つまみおり Information

2011 ワールド・オリガミ・デイズ

2011 World Origami Days (WOD) Events

第12回折紙探偵団関西コンベンション開催決定!

The 12th Origami Tanteidan Kansai Convention WILL Be Held!



通巻 130 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

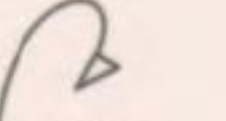
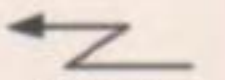
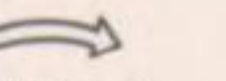
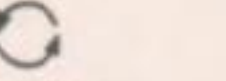
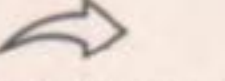
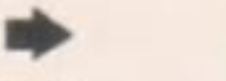
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

 谷折り線 Line indicating valley fold	 山折り線 Line indicating mountain fold	 手前に折る Fold paper forwards	 後ろへ折る Fold paper backwards	 折り筋をつける Making a crease line	 段折り Pleat fold
 裏返す Turn paper over	 引き出す Pull out	 図の見る位置が変わる Rotation	 図が大きくなる A magnified view	 見えないところ A hidden line	 押す、押しつぶす Push paper in
					 切る Cut

ビーグル犬
Beagle

作: 川畑文昭 (P.22)

by Kawahata Fumiaki (P.22)

■ピンと尖ったしっぽ、大きな垂れ耳が印象的。手足や鼻先の白い毛はインサイドアウトで表現されています。頭と胸部を広げて立体的にできるので、正面から見たときの表情にも気を遣って仕上げましょう。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi



Beagle : Kawahata Fumiaki

クローズアップ / Close-up

P.11 **Orist流**

折紙の広め方

Orist's Way of Re-Populization of Origami

西村光平・柏村卓朗

Nishimura Kohel, Kashiwamura Takuro

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 **ビーグル犬**

Beagle

川畑文昭

Kawahata Fumiaki



P.34 **展開図折りに挑戦!**

Crease Pattern Challenge!

15°-蛙

15 degrees Frog -
with Thanks to Robert

西川誠司

Nishikawa Seiji

カラーページ / Color

P.20 **オリガミ・フォトギャラリー**

Origami Photo Gallery

解説・北條高史

Comments : Hojo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 **知子の部屋**

Tomoko's Room

ゼラニウム

Geranium

布施知子

Fuse Tomoko

P.8 **おりがみ我楽多市**

Origami Odds and Ends

なす

Eggplant

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 **折り紙キャラバン 支援の活動報告**

Origami Caravan Activity Report

アン・ラビン、小方弘巳

Anne LaVin, Ogata Hiromi

P.16 **折紙図書館の本棚から**

From the Bookshelves of the JOAS Library

「折るころ」龍野市立歴史文化資料館発行

Oru Kokoro. (Folding with Heart)

西川誠司

Nishikawa Seiji

P.18 **気軽にはじめる 22.5 度系創作法**

Creating Models Based on 22.5° for Novices

基本形の推敲

"Proofreading" the Base Form

小松英夫

Komatsu Hideo

P.35 **ペーパーフォルダーの横顔**

Paper Folders on File

エルサ・チェン

Elsa Chen

取材：羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

コラム / Columns

P.7 **折り紙の周辺**

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.32 **おりすじ**

Orisuzi ("Fold-Creases")

梅本吉広

Umemoto Yoshihiro

P.33 **折紙三昧**

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.36 **つまみおり** Rabbit Ear

2011 ワールド・オリガミ・デイズ

2011 World Origami Days (WOD) Events

第12回折紙探偵団関西コンベンション開催決定!

The 12th Origami Tanteidan Kansai Convention WILL Be Held!

知子の部屋

布施 知子
Fuse Tomoko

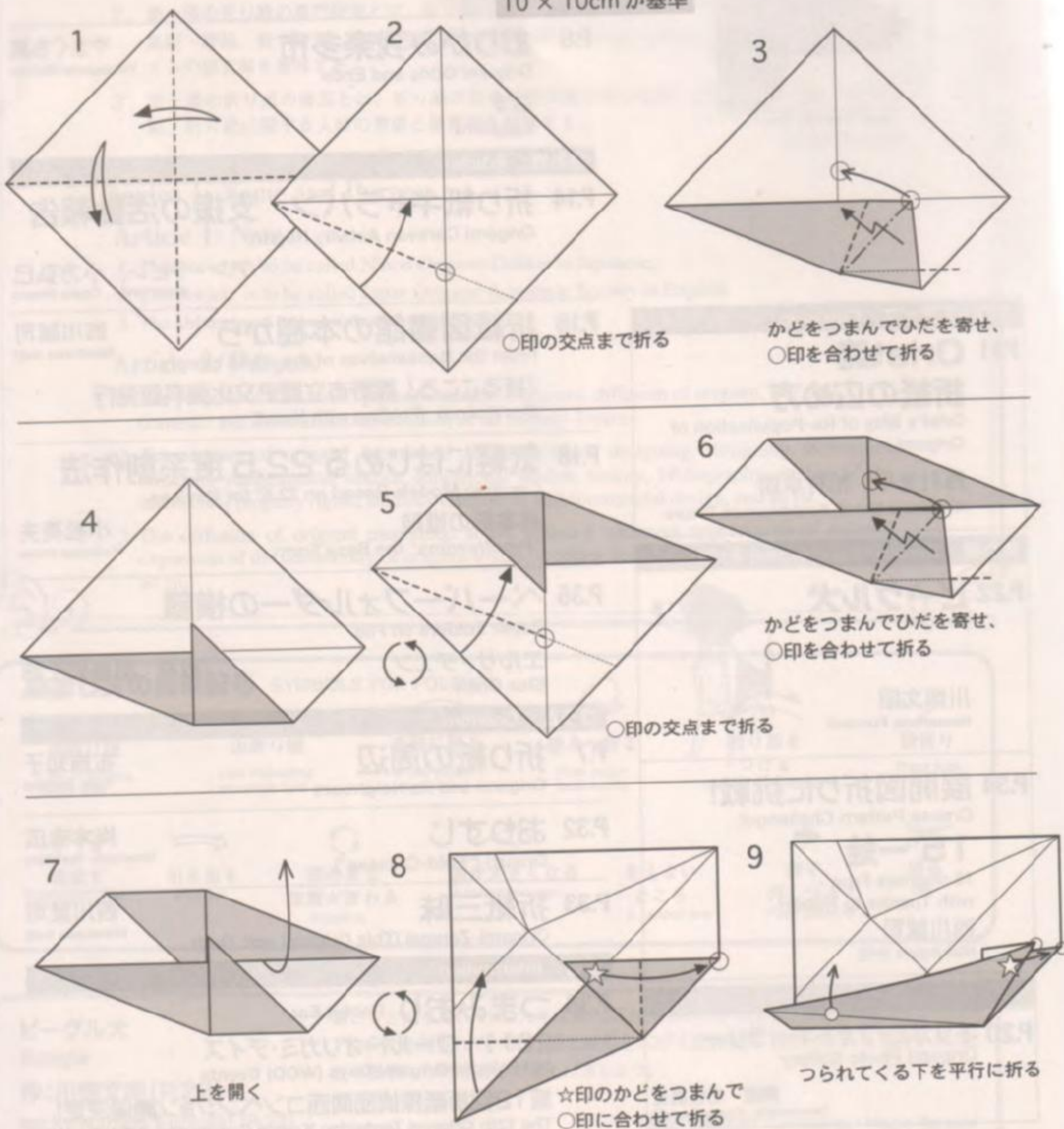
ゼラニウム

Geranium

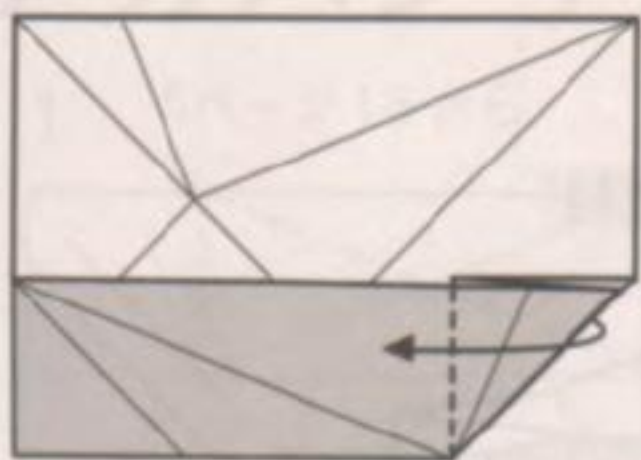
30枚組が楽しい「花くす玉」です。用紙は15cm角だと大きすぎて間延びした感じがします。この折り出しからたくさんの「花くす玉」ができますが、今回は2種を紹介します。しっかりした組み方です。ゼラニウムもアガパンサスも花の名前です。



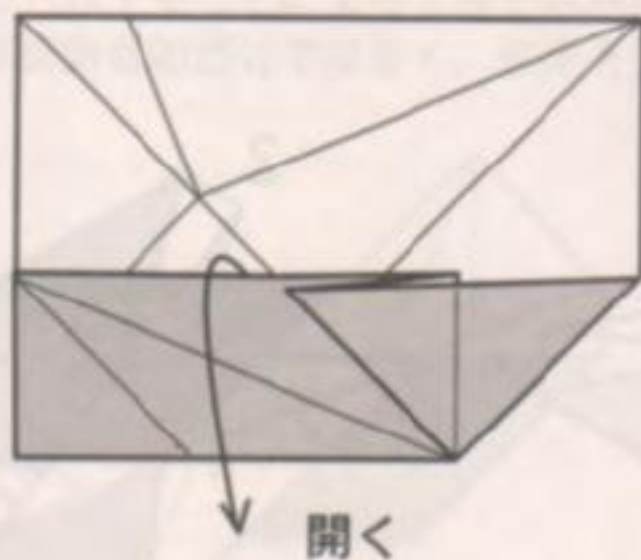
10 × 10cm が基準



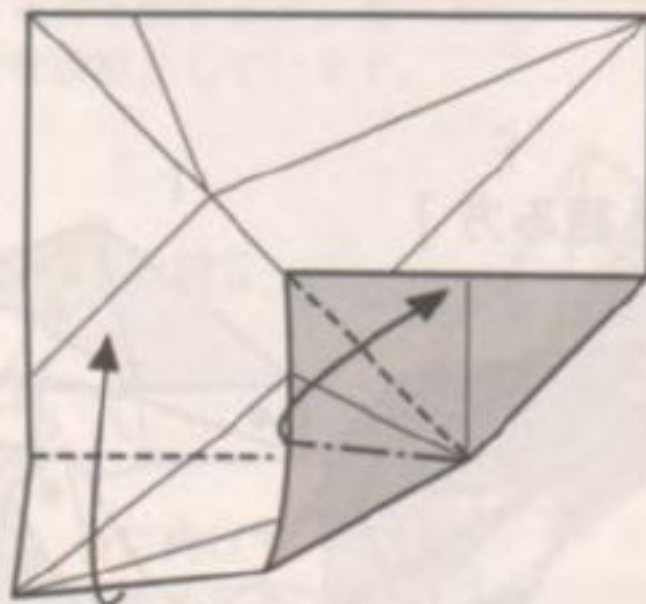
10



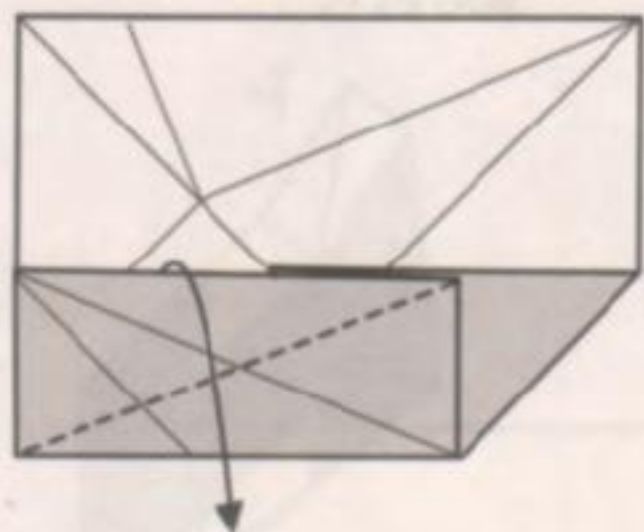
11



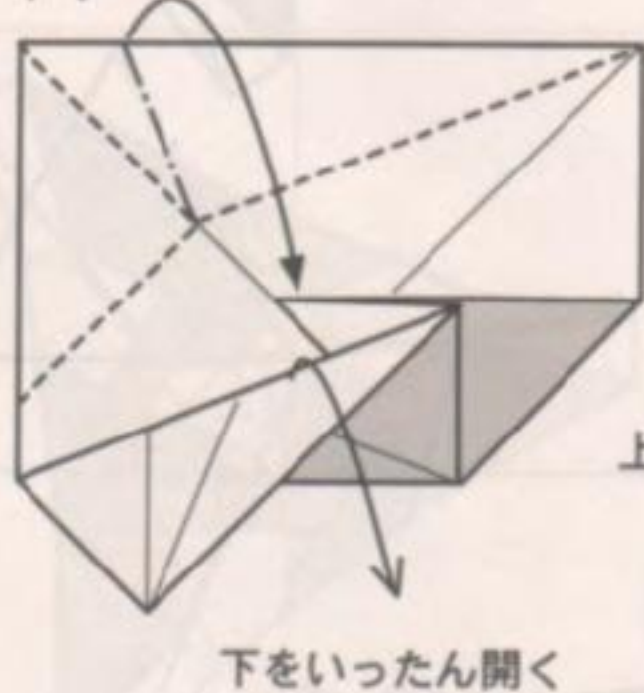
12



13

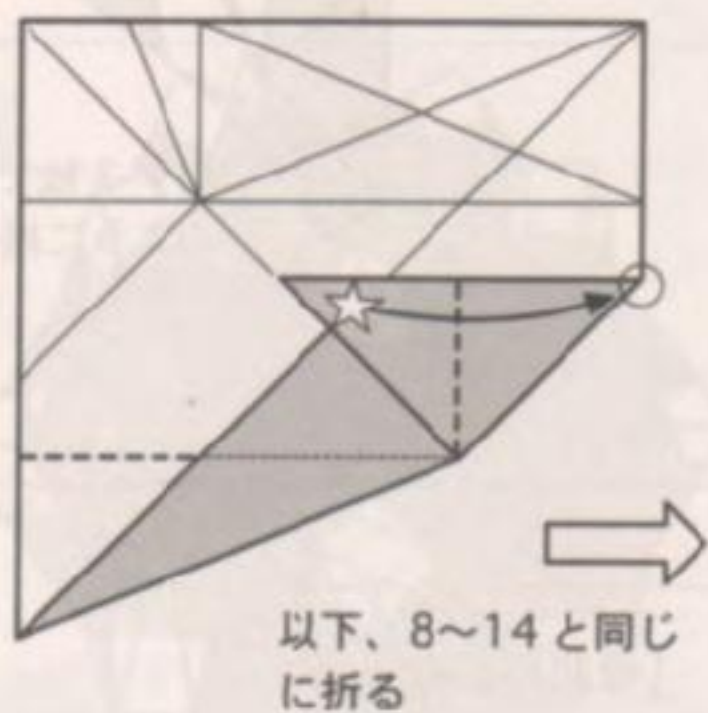


14

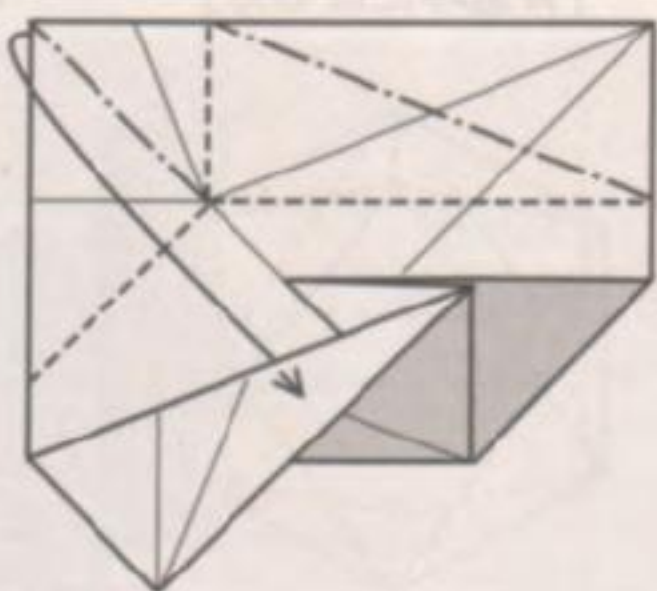


15

上下を変える
上下を変える

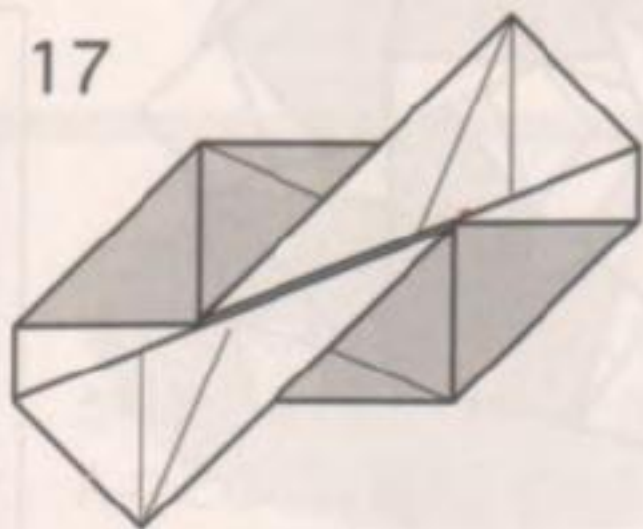


16

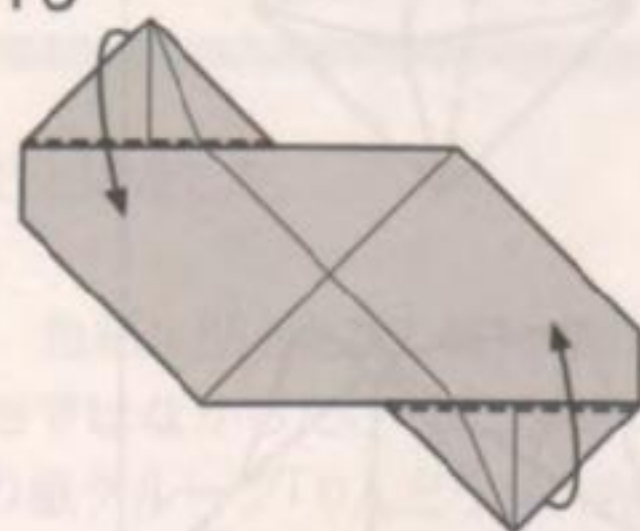


上の折りを14までもどす

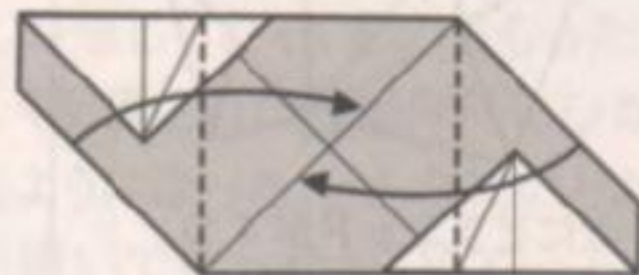
17



18



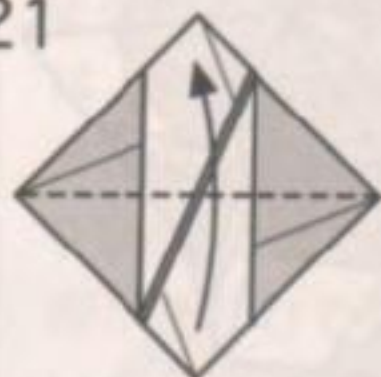
19



20



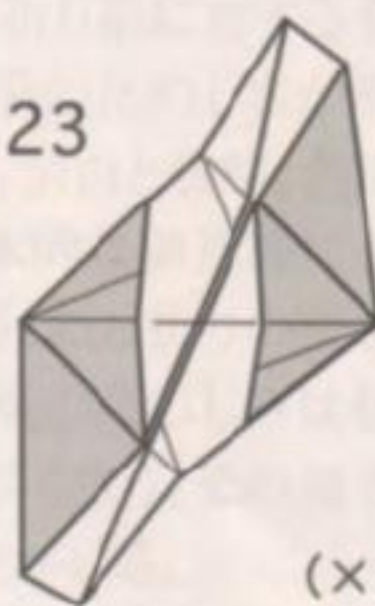
21



22

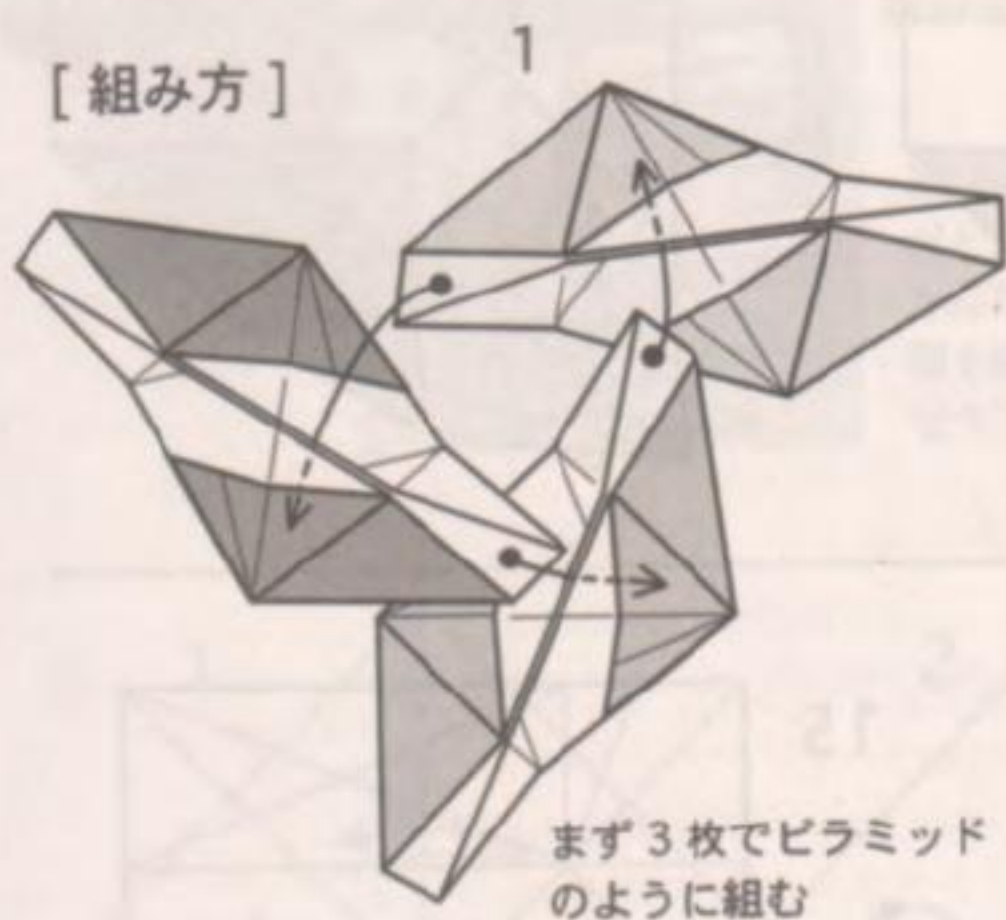


23

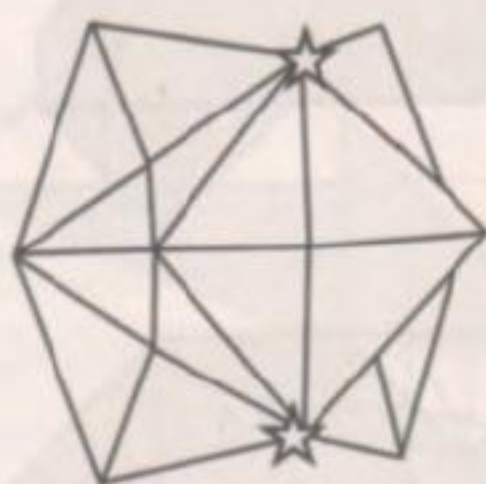
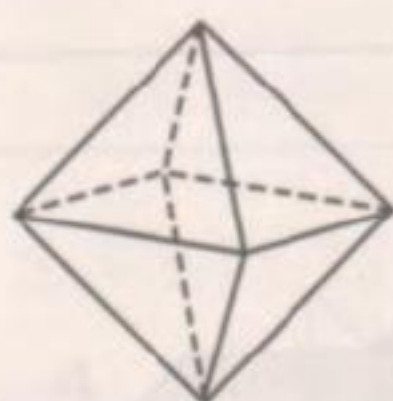


(x 30)

〔組み方〕



〔骨組みになる形〕

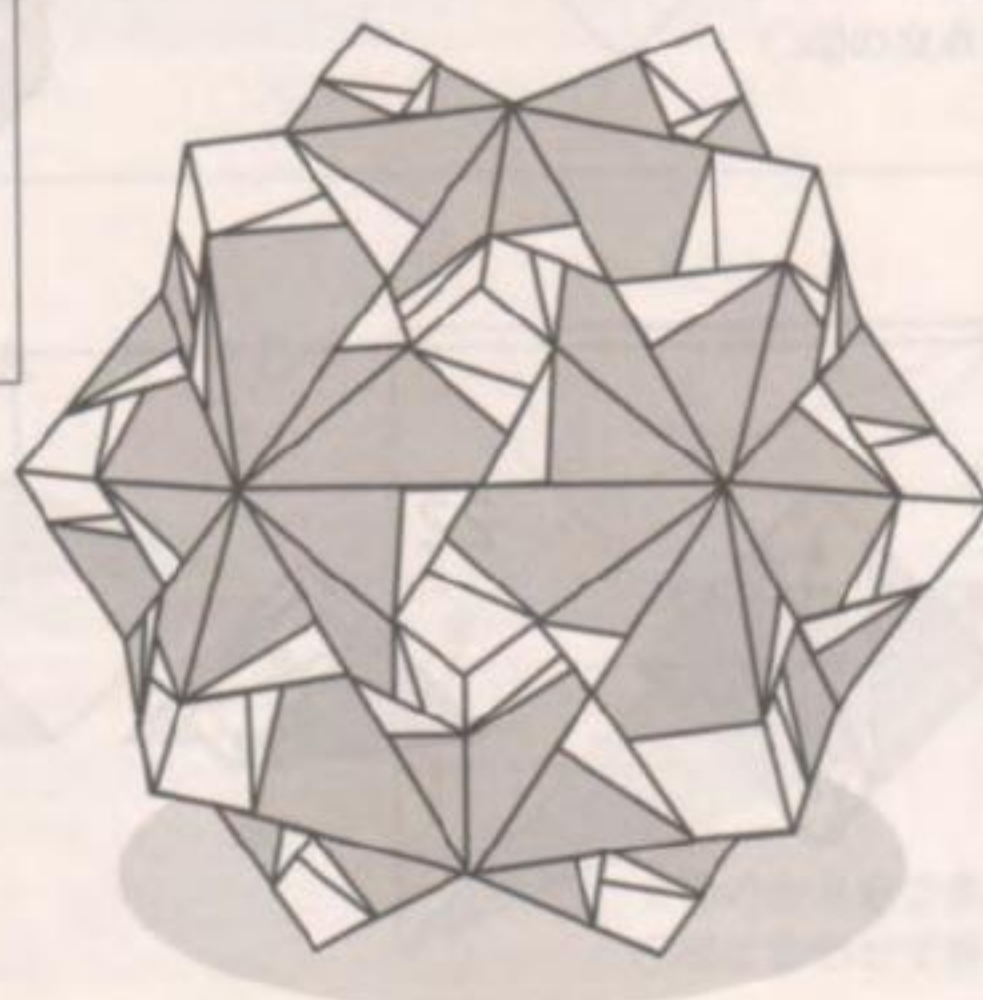


☆にピラミッドが4つ集るように組んでいく

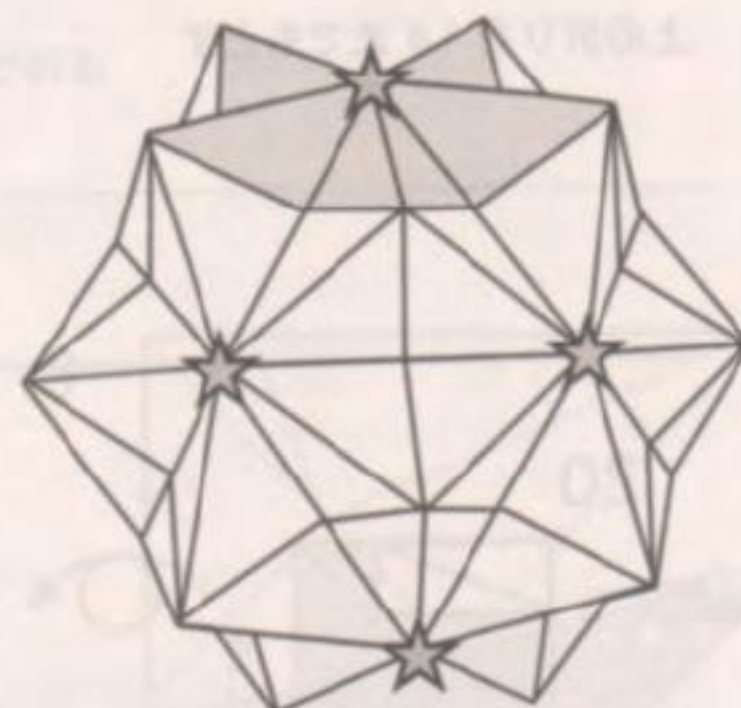
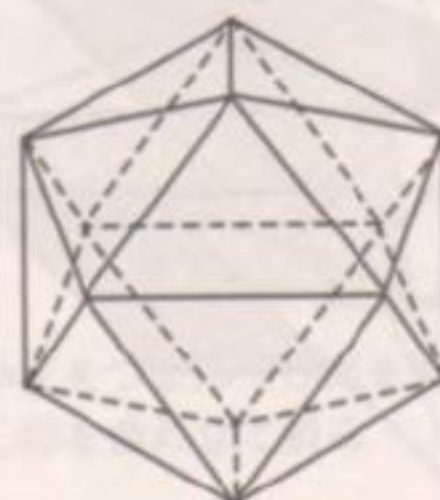
12枚組



30枚組



〔骨組みになる形〕

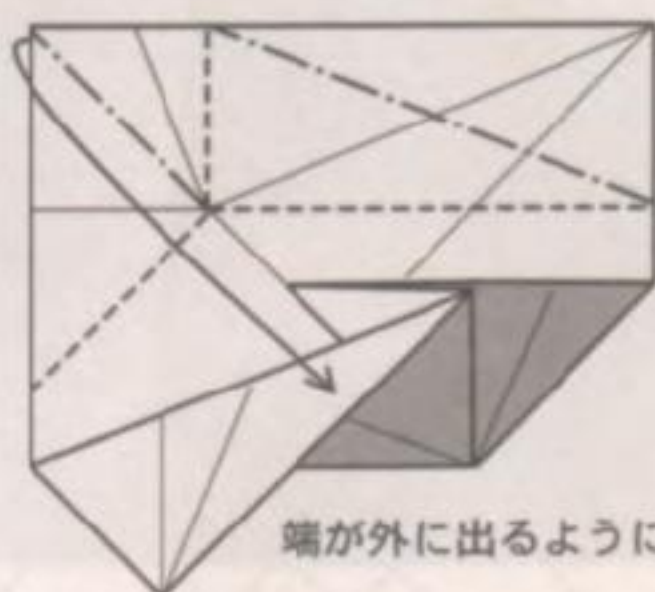


☆にピラミッドが5つ集るように組んでいく

アガパンサス

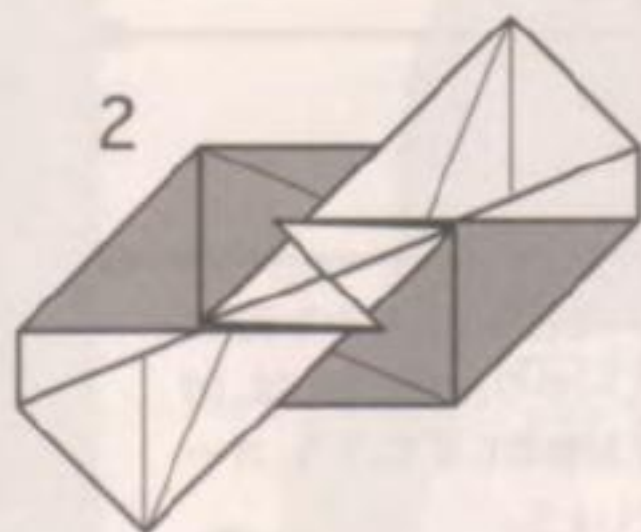
30枚組を花が玉になって咲くアガパンサスに見立てました。カールすることによって差し込み口がはずれるのを防ぎます。カールは装飾目的だけではなく、強度を強める重要な役割をしています。

1 5ページ16から

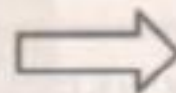


端が外に出るようにする

2



以下、18~22と同じに折る



谷に向けてカールする

3



4



(×30)



以下、組み方は「ゼラニウム」と同じ(6ページ参照)

30枚組



折り紙の 周辺

第50回
練達の士
Local Expertise

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

日課の散歩の途中、谷にかかる橋で、めずらしく人に出会う。路肩工事の看板を運び、そのまま一服しているらしい。遠くで機械音がする。こんなとき黙って過るのは作法に反する。こんなところで人に会うなんてうれしい、クマかと思った、というようなことを言うと「人に会いたくなくてこんなところに越してきたんでしょ」と切り返される。私たちのなりは、もう

土地の人とそっくりなのに、ここで育った人間ではないと、すぐにわかったらしい。そのことを言うと、「こんなところに暮らしているのは、よそから来た人ばかりだ、どうやって食っているのかなぞだ。地の者は仕事が無くて出ていったのに」と言う。「私たちはキツネかも知れません」とタロ氏が言って、みなで笑った。それからクマにあったらどうするか、イノシシが掘った穴がどれくらい大きいか、サルはどんな悪さをするか、それに対する撃退法は、などなど虚実折り混ざった四方山話をして、わかれた。途中で振り返ると、かの人はまだそこにいて、煙草をのむでもなく、ぼっと立っていた。仕事に戻らなくていいのかね、あの人はずっとタヌキだ、とタロ

氏とはなした。

色紙に貼った折り紙はあまり好きではなかったけれど、長野の折り紙グループ「りんどう」の作品展を見たりしているうち、やさしい眼差しの感じられる、心のこもった、美しく配置された色紙作品にひかれるようになった。どんなにいい思い出で作ったか、見ているうちに心がなごみ、あたたかい微笑みが出る。折り紙に対する愛を感じる。作り手のたのしさが直に伝わってくる。余白と省略。色紙の小宇宙は日本的な美意識に裏打ちされている。紙と折りの美しい出会い。折り紙のたのしみは幅が広い、とつくづく思う。その道その道に練達の士がいる。

おりがみ 我楽多市

Origami Odds and Ends

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

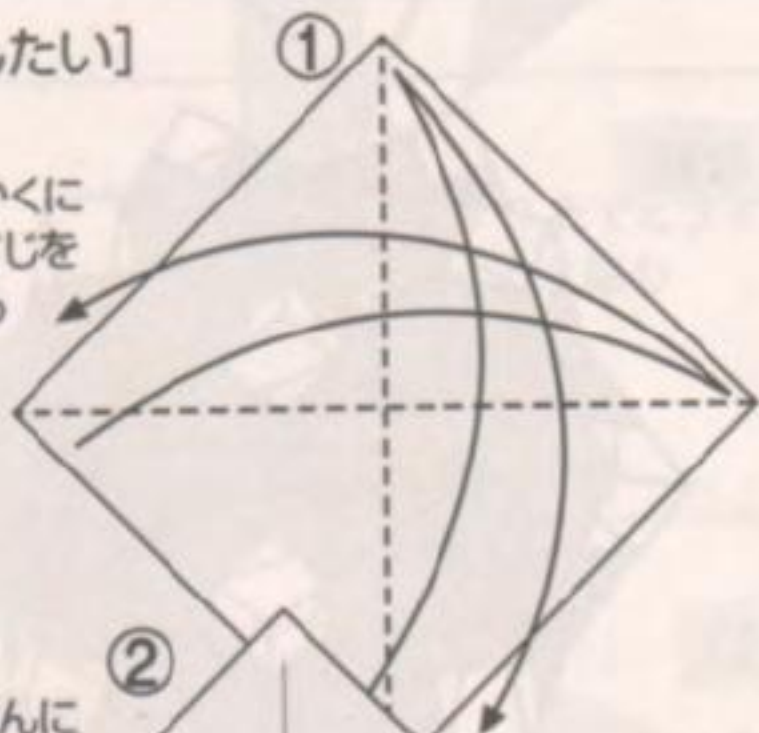
第51回 なす Eggplant

海外でよく折られているオーナメントにストッパーをとりつけてみたら、まるで野菜のようなイメージの作品になりました。しっかりと留めるには、凹凸のテクスチャのある紙のような、滑りにくい紙をお勧めします。また、オーナメントに使う時は、へたをのり付けするとよいでしょう。

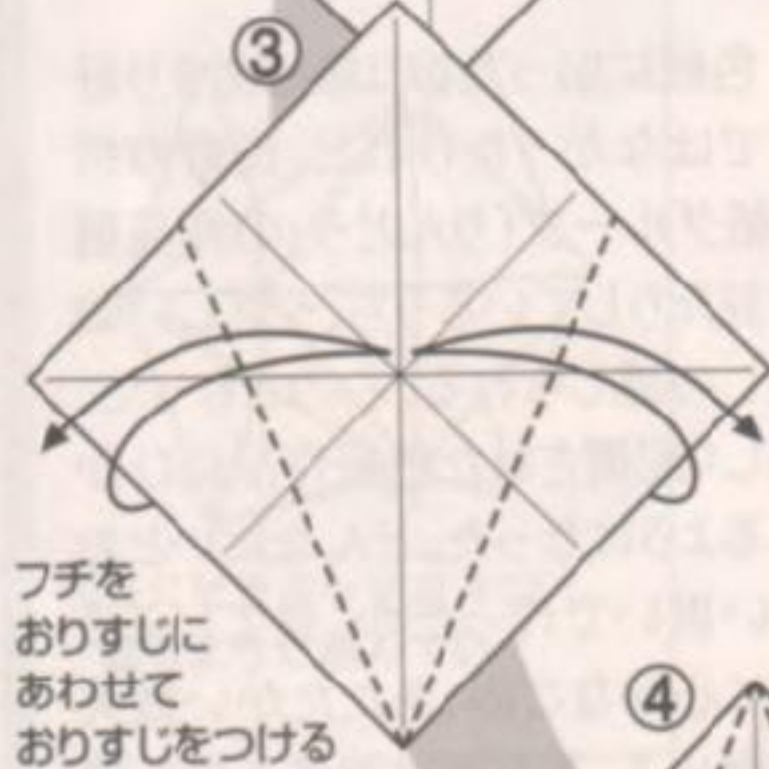
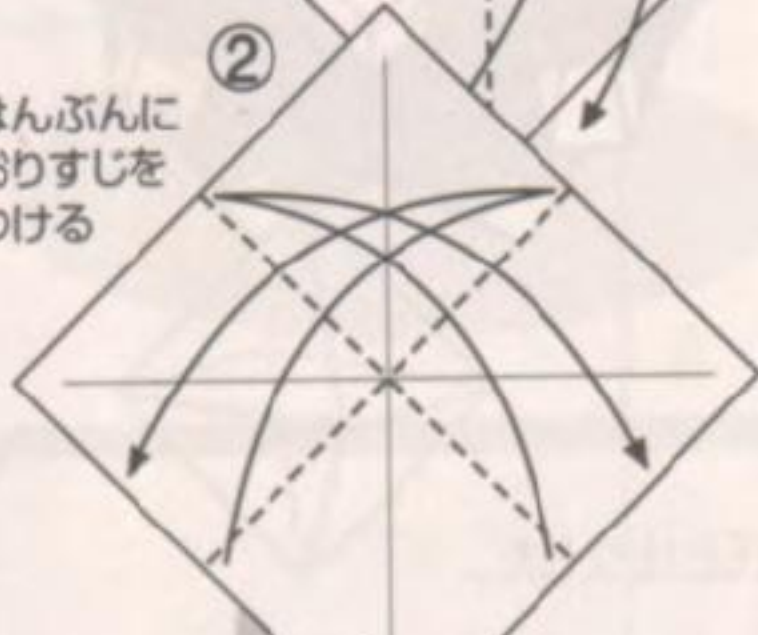


【ほんたい】

さんかくに
おりすじを
つける



はんぶん
おりすじを
つける



フチを
おりすじに
あわせて
おりすじをつける



のこりも
おなじように
おりすじをつける

かるくおしこむ
ようにして
たにおりの
おりすじをつける



【ほんたい】
できあがり



とちゅうのす
カドをあわせる



そのまま
カドをおこす



つけた
おりすじで
フチをおこして
りたいてきにする



[へた]

①

さんかくに
おりすじを
つける

②

はんぶん
おりすじを
つける

③

カドを
ちゅうしん
にあわせて
おる

④

うしろへはんぶん
におる

⑤

フチとフチを
あわせて
おりすじを
つける

⑥

フチをおりすじに
あわせておる

⑦

⑧

はんたいがわも⑤～⑥とおなじ

⑭

のこりのフチも⑫～⑬と
おなじようにおる

⑮

[へた]
できあがり

したからみたず

やじるしのすきまに
[ほんたい]のカドを
さしこむ

くみあわせ

①

[ほんたい]の
カドを[へた]の
すきまにそれぞれ
さしこむ

②

とちゅうのす
おくまでさしこむ

③

できあがり

⑬

カドをうしろへ
おる

⑫

まんなかをくぼませる
ようについている
おりすじでだんおり

⑪

かみのむきをかえて
④～⑨とおなじよう
におる

⑩

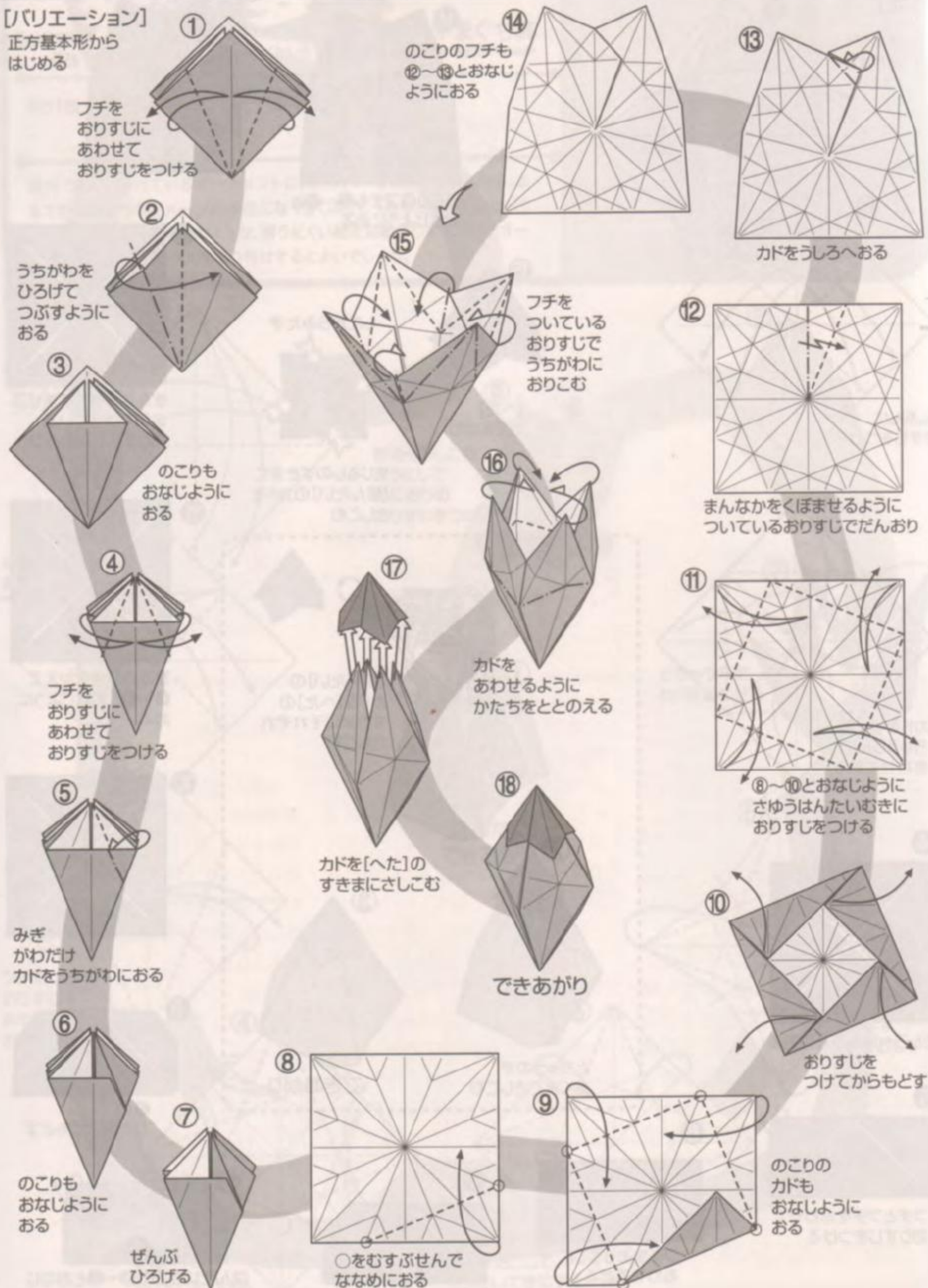
⑨

④の
かたちまでもどす

⑧

【バリエーション】

正方基本形から
はじめる



Orist流 折紙の広め方

Orist's Way of Re-Populization of Origami

西村光平・柏村卓朗

Nishimura Kohei, Kashiwamura Takuro

0. はじめに

折紙サークルOrist (オリスト) とは、2008年春に東京大学で発足した学生のためのサークルである。サークルの目的として「現代折紙の普及・発展、そして何より折紙を楽しむこと」を掲げている。今回はOristが行なってきた折紙の普及活動について焦点を当ててみたい。

1.1 創設

Oristの社会に向けての活動としては年2回の学園祭をはじめとして、各種メディアへの出演、出版物の製作、折紙教室の開催などが挙げられる。この記事ではそれらの中でも主な活動である学園祭とトイレットペーパー折紙が始まった背景を眺めた後、活動ごとの考察を行うことにする。

創設は2008年4月、当時入学直後の西村光平(初代代表)と宮下令央(初代副代表)を中心に行われた。社会への折紙普及活動はこの時点で西村によって、サークルの目的の1つとして提示されている。折紙と書いたが、メンバーの中ではほぼ「現代折紙(いわゆるコンプレックス系をはじめとする近年の折紙)」として認識されており、着実に広がっている折紙の技術、芸術性と社会の折紙に対する認知のギャップを埋めるという意識があった。インターネットで調べてみると折紙の同好会というのは非常に多いが、現代折紙を愛好しつつ、普及活動を行おうとする団体は珍しい。

1.2 学園祭

先に述べたが、東京大学では年に

2回の学園祭が行われる。5月下旬に本郷キャンパスで行われる五月祭と、11月中旬に駒場キャンパスで行われる駒場祭である。部員募集とサークルの認知度上昇を兼ねたビラの掲示やホームページ制作といった下準備の後、Oristは2008年の駒場祭にて初の展示会を行った。全く無名の状態から始まった展示だが大盛況を収め、多くの方々に足を運んでいただいた。こうした駒場祭の成功を受け、サークル内では年2回の展示会がOristのメインイベント、そして折紙から離れた一般人との交流の場として認識されるようになる。

1.3 トイレットペーパー折紙の開始

2009年5月頃、「トイレットペーパーで折紙をしてみないか」という声がかかった。トイレットペーパーの端で折るいわゆる「三角折り」。これは日本では清掃済みのサインとしても用いられるが、本来紙をすぐに取り出せるよう、アメリカの消防署で始まったと言われている。ゆえに、次の人が取りやすいようにと、思いやりの気持ちをもって折る人も一定数いる。では、

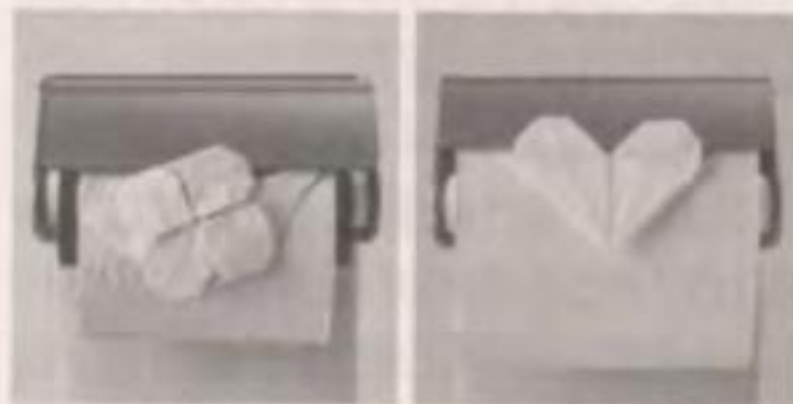


2008年の駒場祭展示の様子。川村みゆきさんの「ジオスフィア」が多くの観客を呼び込んだ

三角の代わりにもっと色々なものを折れば、もっと様々な気持ちを伝えられるのでは? そういった考えから来た企画である。

普通の折紙が好きな者からすれば異端であり、多くのメンバーは乗り気ではなかったが、数人のメンバーは折紙の普及という目的の一致を感じ、また単純な興味から活動を始めた。その後、その熱意に負けてサークルが一致団結するなどというドラマは特になかったが、一般層には非常に受けがよく、Oristによる普及活動の一角となった。

内容は、一般の人でも折れるよう、簡単な作品を10~20程度創作し、SNSや専用のサイトで発表するというものである。いくつかは無料で折り図を公開し、毎月その月に合った作品を創作したり、時には真似できないような大作を出したりもした。その後、折り方の印刷されたトイレットペーパーの販売などもあって話題となり、結果として20回ものテレビ出演をはじめとし、新聞、雑誌、Webメディアなどでの紹介、遂には書籍の出版に至った。



トイレットペーパー折紙の簡単な作品

2.1 普及の段階区分

各活動ごとの考察に移る前に、物事が社会へ普及するまでの段階を考えてみたい。特に折紙に関しては、下の

Orist流 折紙の広め方

Orist's Way of Re-Popularization of Origami

西村光平・柏村卓朗

Nishimura Kohel, Kashiwamura Takuro

ような4つの段階が考えられる。

1. 視界に入る
2. 記憶に残る
3. 実際に折る
4. 趣味にする

折紙が普及したとみなすためには、2もしくは3が必要となる。両者が前後することはあるが、世間の認識を改めるには「2. 記憶に残る」ことが、楽しさを知ってもらうには「3. 実際に折る」ことが、それぞれ重要である。「4. 趣味にする」に対しては導入こそできるが、多くの場合は各人の趣向によるものであり、こちらがどうこうするのは難しい。そもそもここまで考えて行動したわけではないが、結果的にOristは、1〜3を満たすことになったと考えられる。

まず「1. 視界に入る」ためには、展示会などの一般向けのイベントや各種メディア出演、本の出版などの機会が必要である。例えば折紙探偵団はいわばトップクラスの集まりであり、イベント参加者の多くは愛好家、すなわち顔見知り同士であるように思う。折紙好きの憧れではあるが、目的は普及ではなく、なかなか一般の人の目に触れることはない。非常に勿体無いことである。

次に「2. 記憶に残る」ためには、過去に見たことのないような複雑な作品や美しい作品、素材の意外性、話題性などが必要である。これは同時に、メディアが取り上げる条件とも言える。それに対し「3. 実際に折る」ために重要なことは、多くの人にとって、「面白そう」「自分でもできそう」とい

う親しみやすさである。現在これを読んでいる中にもいるであろう「難しそうなので挑戦してみたい」という人は「4. 趣味にする」まで達する可能性は高いが、少数派であるように思う。

「難しそう」から「折りたい」に至るのは男性に多い傾向だろうか。メディアで世界トップクラスの折紙が紹介されれば男性を中心に、トイレットペーパーや紙幣などの折紙が紹介されれば女性を中心に愛好家が生じるようにも思う。ここで気付かれた方もいるかと思うが、これは2の条件と相反するところがある。シンプル系の作品だけでも、コンプレックス系の作品だけでも、両者を満たすことは難しい。この辺りを幅広くカバーするのも、Oristの特色であると言える。

2.2 学園祭の考察

さて次はそれぞれの活動ごとの考察に移りたいと思う。まずは学園祭について見ていきたい。学園祭での展示を社会へのアプローチと見なす理由はその入場者数にある。平均的な駒場祭全体の入場者数は10万人を超え、他の学園祭と比べても上位に位置する。2008年の駒場祭では400以上の企画がある中、Oristの展示に来場された方はおよそ3000人に上った（配布物からの概算）。展示場での来場者の反応も良く、全く無名の状態からの人気投票では部門優勝を頂いた。人気投票自体は学園祭のおまけのようなものだが、企画しているのが学園祭の運営委員会であるため、以後運営委員会から一目置かれるようになったという点で重要である。「お

すすめ企画」として推薦され、パンフレットでも目立つページに掲載されるようになった。カウントしていないため人数を把握していないが、以降の学園祭でも毎回多くの来場者を迎えることができています。

このように多くの来場者を迎えることで「1. 視界に入る」ことには成功している。肝心の内容の方はどうだろうか。来場者の様子を見る限りでは「2. 記憶に残っている」ように見える。また、一般書店ではお目にかかれないおりがみはうすの本も置いてあり、興味の湧いた人々にその場で読んで（折って）もらえるようになっている。鑑賞と体験をつなげることで、興味ある方々が「4. 趣味」の段階へと踏み込んでもらえればと考えている。

手前味噌を並べ続けてしまったが問題も多い。例えば、作品の著作権表示を怠る、忘れる場合が時折見受けられる。折紙の著作権に対する認識は折紙に親しみ深い人と一般人との間で隔たりが大きく、一般の目に触れる場だからこそ守らなければならない。サークル内で基礎的な知識が十分に周知されていないことの表れである。

2.3 トイレットペーパー折紙はなぜ受けたか

先にも述べたように、トイレットペーパー折紙は非常にメディア受けがよく、連日取材が続いたような時期もあった。さらに商品や本の出版も合わせて、多くの方の目に留まることができた。

トイレットペーパー折紙が各メディアに受けた理由は、大学のネームバ

○柏村卓朗(かしむら・たくろう)=社会への折紙普及が将来の折紙需要創出につながると信じる大学4年。文章では大まかな構成と学園祭関連担当。知った顔でOrist創設を書いているが、参加は2008年10月から。



○西村光平(にしむら・こうへい)=[趣味は折紙です]と胸を張って言える社会を作りたい大学4年生。文章では普及のモデル化とトイレットペーパー折紙担当。Orist初代代表。趣味は折紙。



レビューもあったが、まさかのトイレットペーパーで、という意外性や適度なサブカル感、さらに大作のインパクトもあったように思う。また、出演者や視聴者が一緒に折れるという点も、メディアが使いやすい上、こちらの目的とも合致した。Oristは多くのメディア出演の際、シンプルなトイレットペーパー折紙から大作に誘導し、さらにサークルの作品として、一般の折紙作品までを紹介している。これにより、段階1~3の全てを満たしたのだと思われる。

ちなみに書籍第1弾『トイレットペーパーおりがみ』(講談社)が好評だったため、この度第2弾の出版に至った。今回はトイレットペーパーに留まらず、紙袋やおみくじ、ラッピングペーパーなど様々なものを折る。ぜひ一度、前作と合わせてご覧頂きたい。

3 まとめ

以上で大まかにOristの活動につい

て解って頂けたかと思う。お気付きになられた方も多いと思うが、どちらの活動も明確な計画があって推し進めているものではない。その場でのメンバーの意向、提案で自然とこの形になってきた。それでも比較的有名になりえた理由を述べていきたい。まずは東京大学という母体である。東大生というネームバリューの他に、その基盤の強さ、つながりの幅広さは活動を支えてきた。駒場祭の規模が大きくなれば来場者も相対的に少ないであろう。また、活動を続けていくうちに他サークルとの合同企画やキャンパス内での常設展示のお話を持ちかけて頂いた。次に初代メンバーでの折紙愛好家の割合が挙げられる。第1回目の駒場祭展示を迎える時点の14人中7人が既にコンプレックス折紙に親しんでいた。そのために一般の方に意外性を感じられる展示でスタートすることができ、持ちかけられる企画に対して

納得してもらえ、質で応えられたと思う。最後に学生サークルとしての機動力を挙げたい。折紙という側面で社会を捉えた場合にはJOASやNOAは重要な核をなしており、Oristの立ち位置は外側にあると認識している。それは規模や影響力の違いを理由に



不切トイレットペーパーによる「井財天」
(西村光平制作)

しているわけだが、どちらが良いという話ではない。Oristは学生サークルとしての側面を持ち、フットワークが軽い。この機動力の高さゆえに折紙界では異端に見られるだろうトイレットペーパー折紙を始めることができたと考えている。

現在、Oristは創設代が学部卒業の年になり、丁度移り変わりを迎えようとしている。下の学年が社会への折紙普及活動が続けていくかは分からない。もちろん、内輪で楽しむことは大切だが、外への発信も忘れないで欲しいという気持ちはある。できるだけ創設当時の思いを伝えていきたい。

※興味を持った大学生、大学院生の皆様、orist.ut@gmail.com までご一報下さい。東京近辺であれば大学問わず、随時メンバー募集中です。



不切トイレットペーパーによる「龍」(西村光平制作)

Origami Caravan 折紙キャラバン Japan↔USA

支援の活動報告

折り紙キャラバンオークションレポート

Anne LaVin

この春、大きな成功をした折り紙キャラバンの活動(折紙探偵団MAGAZINE No.127で報告)を受け、June Sakamoto氏とVicky Mihara-Avery氏はカリフォルニアのMountain Valley Paper Companyで、数回に渡って義援金を集めるための活動を行いました(同つまみおりで報告)。

しかしこの活動の後、June氏とVicky氏はもっと多くの義援金を集めるために、もっと多くの人々に連絡を取る必要があると考えました。そこで、折り紙キャラバンオークションのアイデアが生まれました。

彼らは世界中の多くの折り紙作家に連絡を取り、今秋までに、オークションを開催するのに十分な数の折り紙作家の参加表明を得ました。私はこのプロジェ

クトのウェブマスターとして働くことを志願し、オークションのためのウェブサイト“<http://origamicaravan.org>”を制作し始め、このプロジェクトのためにオンライン競売システム(eBay)を利用できるよう準備をしました。

しかし、私達にはこのイベントの準備のために時間が必要でした。最終的に、私達はこのオークションをWOD(World Origami Days)の大きなイベントの1つになるだろうと考えました。なぜなら、このオークションは、折り紙作家にとっても、入札者にとっても、折り紙によって全ての人が一緒になって、今回の震災の被害に遭った子ども達への支援をするのに最適だったからです。

そして、この記事が編集されている現在も、この過去に例のない初めての折り

紙のネットオークションは行われている最中です。折り紙のコミュニティーには、このネットオークションのことをメーリングリスト、ブログ、ウェブサイトおよびFacebookのようなソーシャルネットワークを通じて宣伝の協力をしてもらい、現在オークションのウェブサイトには1日当たり約1000人の訪問があります。

作品を寄贈してくれた折り紙作家達、そしてこのオークションを成功に導いてくれた全ての寛大な入札者達へ、私達の心からの感謝を贈りたいと思います。

また、私達は来年の春にもう一度オークションを行いたいと考えています。もし作品を寄贈することに興味がある折り紙作家の方がいましたら、ウェブサイトを経由し連絡をして下さい。

<http://origamicaravan.org/>

オークションには作家お手折りの作品が出品された



Peter ENGEL - Great Horned Owl



Bernie PEYTON - Polar Bear



Joseph WU - Owlbear



Jun MAEKAWA - Tiny Devil in Snub Cube



Jason KU - Nazgul 8.1



Michael LAFOSSE and Richard ALEXANDER - Makoto-Cho (a butterfly for Makoto Yamaguchi)



Nicolas TERRY - Cartoon Frog



Brian CHAN - Red Mantis



Robert LANG - Quezadan Pot, opus 603



Tomoko FUSE - Box to the 4th Power



Toshikazu KAWASAKI - Rose



Nick ROBINSON - Crab and Toad



Charles ESSELTINE - "May the Force Be With You" (framed CP art)



Goran KONJEVOD - Discus



Makoto YAMAGUCHI - Ren-Jishi (Kabuki Lion Dancers) and Makoto Rose



Satoshi KAMIYA - Dragonfly 1.1B



学校の入口で看板が出迎えてくれた

サンフランシスコ折り紙キャラバングループ、韓国折紙協会、OrigamiUSA、おりがみはうす、日本折紙学会、川畑文昭氏はじめ学会員の皆様、Tシャツ売り上げはじめ、多くの方から義援金をいただきました。

義援金総額715,380円はあしなが育英会の東日本大震災・津波遺児支援に贈られました。

また、折り紙キャラバンオークションの売り上げは11月15日現在、3336ドルとなっております。

折り紙キャラバンに賛同して、多くの書籍、折り紙用紙が寄せられました。これらをボランティア活動をされている方やグループなどの、活動の中で活用して下さる方を募集しています。

活動の内容、予定などお書きの上、メールでinfo@origamihouse.jp宛てにお送りください。尚、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

第3回折り紙キャラバンレポート

小方弘巳

8月、東京コンベンションの2日目、折り紙ボランティアなる教室に入り折り紙キャラバンの報告を聴く。これからの震災復興支援に折り紙でどんな事が出来るか誰が何をすればいいの、具体的な考えが私には無かった。折り紙キャラバン有りとの連絡を受けた後、ネットに心のケアに折り紙を利用しているアートセラピスト、ブロンクス精神医療センター勤務の小林利子氏の記事を見つけ、子供たちにどのように接すればいいかアドバイスを求めメールをした。すぐに丁寧な返事を頂いた。「……上手下手を言わずに、忍耐強く、やさしく、判りやすく、教えてあげるのが一番かと……」と、私には欠けてるものばかりだ。

10月11日(山口真、福島邦幸、松浦英子、小方の4名の参加)

朝、現地でコーディネートしていただいた福島氏(仙台市立南光台中学校校長)と合流し山口氏の車で岩沼市立玉浦小学校へ向かう。玉浦小学校は、仙台市から南に20数キロ、仙台空港を過ぎ阿武隈川の手前、仙台東部有料道路と太平洋の間にあり、震災時は校庭まで津波が押し寄せ周りの集落は水没したとのこと。

汚泥が取り除かれた校庭に面した校長室で大沼校長先生と話しながら、山口氏が1時限に1クラス、午前中の4時限を使いマコトコマの講習をすることになった。何もなければ不審者にも見えるおやじのギャグにも明るく乗ってくる小学生達に山口氏は絶好調、福島・松浦両氏が絶えず机の間を移動してヘルプ、私はビデオカメラを担当していたが電源を入れっぱなしで、全てを忘れて懸命に紙を折る子供の顔に見入っていた。

学年が上がると折り上げるのも早く、紙トンボを追加講習。椅子に立ち上がり、歓声を上げ、紙トンボを飛ばす子供たちは楽しそうだった。

10月12日(山口、福島邦幸、福島明星、松浦、小方の5名の参加)

2日目、車2台で亘理町立荒浜小学校へ向かう。昨日の玉浦小学校よりもさらに南、阿武隈川を渡り10キロ程いった逢隈小学校を間借りしてる。

震災時、学区全てが津波で流されたが学童は学校の最上階に留まり全員が無事。一夜明け、教職員一丸となって水

浸しの瓦礫の中を何キロも安全な場所に向かって徒歩での移動を開始、空腹と疲れ、余震に怯えながらの避難をした、と、高橋校長先生は、頑張った子供たちを誇らしげに語った。現在は学童の全員が仮設住宅からの通学とのこと。

キャラバンは前日と同じように折り紙教室をすることになり担当を決め講習内容は各自が考えることにした。

2時限目3年生2クラス(山口、松浦/福島邦幸、明星親娘)、4年生1クラス(小方)。私の受け持った4年生は28人、折り紙キャラバン用に簡単に折れそうなもの(折り筋は3本だけ、紙の中心から底辺の両端へ2本の谷折線、上辺に平行な辺の2分の1の長さの山折線を中心と上辺の2分の1の所に折るだけ。http://masiko-dobin.blogspot.com/2011/10/blog-post_05.html)を創作、がこれが失敗だった。

紙の一部分だけ折ることは、あまり折り紙をしない人には理解しづらいことだと気づいた時、何とも言えない空気が流れ始めていた。

笑顔が素敵な子ども達



私がパンクしているのを察した担任の先生が助け舟を出してくれ、何人かの生徒からグッとくる感想を引き出し、講習のお礼にとクラス全員で地元の民謡を聴かせてくれた。落ち込んでる私には励ましの歌に聞こえる。「逆だろ」と思ったが、小なりとも被災者の私、ありがたく拝聴。

3時限目5年生1クラス(山口、松浦)、6年生1クラス(福島親娘、小方)。

6年生は、1、2、3号車(グループを何号車と呼んでいた)に分かれコトンコン(竹川青良作)のドミノ倒し競争をすることに。福島邦氏が折り方の指導をしてその後10分程度号車毎に作戦会議、さすがに最上級生すぐにコトンコンの改造に取り組んだり転がる距離を計測したり。勝利者賞は折り紙作品。

短い時間だったが折り紙を使った楽しいゲームが出来たことが素直に嬉しい。そして、みんな元気だ。

岩沼市立玉浦小学校、亘理町立荒浜小学校、亘理町立逢隈小学校。以上3校にみなさんの支援物資を手渡すことができました。

今回の折り紙キャラバンは無事終了。締めめに牛タン食って帰ろう。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

西川誠司 Nishikawa Seiji

27 冊目 『折るころ』 龍野市立歴史文化資料館

Oru Kokoro.(Folding with Heart)

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

発行

<はじめに>

『折るころ』(写真)は、現・たつの市立龍野歴史文化資料館(兵庫県たつの市龍野町上霞城128-3、註1)で、1999年10月9日～11月28日に開催された「折るー折り紙の歴史ー」展の図録である。本書の構成、資料解説などは日本折紙学会の顧問でもある岡村昌夫氏を中心になって手がけた。構成は9章からなり、資料解説が巻末に詳しい。本書は、最古の熊野速玉大社古神宝類(くまのはやたまたいしゃこしんぼうるい)の中に遺された紅帖紙(べにたとうがみ、国宝(1390年))から明治初期のフレーベル式幼稚園教育法導入期、江戸期から明治期中期の錦絵、風俗画資料類まで、500余年にわたる日本に於ける中世～近世の折り紙に関する重要な史料が紹介された大著と言える。資料のほとんど全てが美しく大きなカラー写真で紹介され、実寸法も記載されているのは図録であることがなにより幸いしている。これだけ、網羅的にかつ資料写真も豊富に折り紙の歴史をまとめた書籍は未だ類を見ない。

<各章概要>

9つの章は、表題に著されたテーマに沿って史料が紹介されている。以下に、各章の概要を簡単に紹介しよう。

・第1章 折り紙の流れ

岡村氏による本展覧会資料に依った通史的解説。また、「折り紙」という用語の変遷の歴史的考察も詳細に述べられており、是非本書を通読していただきたい。

・第2章 江戸時代の千羽鶴

『秘伝千羽鶴折形』(寛政9(1797)年版、寛政12年版)をはじめ、『秘伝…』以前から連鶴が江戸吉原の風俗を彩る様子が伺い知れる錦絵史料が紹介されている。

・第3章 鶴を折る娘

娘が折り鶴を今まさに膨らませようとする様が同様の構図で葛飾北斎、歌川国貞(豊国3代)、歌川国明らによって繰り返し描かれた。画本の挿絵や錦絵で、同様の構図から複数の絵師達により様々な異なる豊かな表情が描き出されている。

・第4章 折り紙遊びをする人たち

18世紀前半から明治期中期にかけての折り紙が描かれた様々な風俗画が紹介されている。折り紙史上記念碑的と岡村氏も解説する『けいせい折居鶴』(享保2(1717)年)は、寺子屋で師匠が褒美に折り紙を与える場面や折り鶴に願い事を書いて飛ばす場面などが実に生き生きと描かれている。また、18世紀から19世紀にかけての種々の風俗画から鶴、船、薦僧、三方がこの頃の折り紙の定番であったことがわかる。

・第5章 人物折り紙のさまざま

「鶴、薦僧、三方など、正方形の紙をそのまま切り込みなしで折る遊戯折り紙が広く折られていた一方で、「人物折形」はまた独特の世界を作っていた。」(本書p.30冒頭解説文より)。19世紀に入ると『折形手本忠臣蔵』(展示品は明治の再版、初版成立は享和(1801～1803)ごろ)、『森脇家資料』(1800～1825年頃、9章で高木智氏が詳細に解説)、『かやら草』(～1845年)に芝居人物やひいな折形、六歌仙など人物のディテールに拘った作品が見つかる。『かやら草』の「ひいな折形」、「六歌仙」は色刷りであり、原本の彩色全ページがカラーで紹介されたのは本書が最初とのこと。

・第6章 折り紙の種々相

「これら[鶴、船、薦僧]の遊戯折り紙が文献の上にさかんに登場するのは、1700年前後(元禄末期)の「ひいながた」(衣装のデザイン集)が古い例[本展覧会では時代の下がったもののみ展示]で

ある。それらは最新流行の着物柄なので、素材となった折り紙類もその頃急速に流布してきた新鮮な魅力を持つものだったに違いない。つまり、遊戯折り紙は17世紀の後半に育ち広まったものと思われる。」(本書p.36解説文より引用、[]は筆者註) 本章では錦絵の中に見られる折り紙をデザインした着物の例が多数紹介されている。

・第7章 実用折り紙・礼法折り紙

本展覧会最古の資料である熊野速玉大社古神宝類の『紅帖紙(国宝)』を含む、包みや贈りものにまつわる折り紙類を実用折り紙、礼法折り紙として多数紹介している。先の国宝『紅帖紙』に続き、原本成立1500年頃という七十一番職人歌合『ななじゅういちばんしよくにんうたあわせ、原本は現存せず、展示品は江戸初期の写本)では、化粧道具を包む「たとうがみ」を売る女性が描かれている。これらは遊戯折り紙の史料に2～3世紀以上先んずることになる。包みなどの実用折り紙としての「帖紙」が、平安後期以降の装束の一具として発展し室町初期に成立することや武家の贈答包みや目録が様式化して、いわゆる「折紙付き」の語源となる「折紙」が鎌倉～室町期成立することなどは、第1章の通史や第9章の穴戸忠男氏の項でも非常に詳しく述べられており読み応えがある。

・第8章 西洋から伝わった折り紙

明治期に入って、フレーベルの保育法とともに西洋の伝統的折り紙が日本に入ってくる。このように輸入された折り紙が、導入当初「摺紙」と別名で呼ばれながら比較的早く日本化される様子が史料で示されているのが非常に面白い。本図録の本分は日本の折り紙史であるが、本章は、フレーベルを生んだ欧州の伝統的な折り紙の存在など第9章のアン・ヘリング氏の項にちりばめられた記述も含め、西洋の折り紙史への興味をそそる導入ともなっている。

○西川誠司(にしかわ・せいじ)
=1963年生まれ。奈良県出身。
日本折紙学会評議員代表。



・第9章

本章は、3氏がそれぞれのテーマで寄稿している。
「森脇家旧蔵のおりがみ資料について」
(高木 智)

本資料は、高木氏が1980年代末に得た19世紀初頭の折り紙の新資料であり、折った実物が50点遺されていたという極めて希少かつ重要な資料である(註2)。遺物の詳細が紹介され、『かや草』や『別本忠臣蔵』と比較検討されている。「宮廷・公家の「折り紙」」(穴戸忠男)、「折り紙の文化史考」(アン・ヘリング)は上記、第7章、第8章でも若干触れたので略す。

・資料解説

106点の展示史料について詳しい解説がある。第9章と、その主な関連の資料解説以外は、岡村氏の執筆による。森脇家資料は高木氏、高倉流の公家関係資料は穴戸氏が、龍野の資料館所蔵の資料解説は同館の学芸員市村氏が担当されたとのこと(註3)。

＜資料の所蔵元＞

本展示会に展示された資料は20余の博物館、個人所蔵品から集められた。本図録の構成、主執筆者の岡村氏による

と、所蔵元によっては長期の貸出に応じられないところがあり諦めた資料もあったとのこと。岡村氏や収集を手配した博物館学芸員の努力には頭が下がる。諦めた資料や入れておけば良かったと思う資料は幾つかあるとのことだが、それは本書を手にし、歴史に興味を持った読者にとっての宿題のようなものだろう(註4)。

折り紙史料の研究家であり、収集家であった高木智氏の訃報は本誌129号でもお知らせした。さて、ここで紹介した図録『折るころ』でも実のところその3分の1が高木コレクションであり、ダントツに多いのだ(註5)。新発見の「森脇家旧蔵のおりがみ資料」をはじめ、本書を手にとって確認いただければ、それが量だけでなく史実を追う質においても重要なものであることが知れる。改めて高木氏の研究への情熱が偲ばれる。

＜おわりに＞

主執筆者の岡村氏によると、本図録は3版を重ねる売れ行きだったとか。本誌読者の中にも既にお持ちの方も多いかも。これだけの図録は、折り紙愛好家としては手元に持っておきたいものかもしれない。まだ、ご覧になっていない方は是非、JOAS図書館等で閲覧い

ただければと思う。

＜謝辞＞

本記事を作成するにあたって、岡村昌夫氏には筆者の質問に素早くお応えいただき、また、筆者の理解の不明な部分を正していただきました。感謝いたします。

註1) たつの市は2005年に旧龍野市と周辺町が合併し、現在の名称となった。従って、「折るころ—折り紙の歴史」展開催時は、歴史資料館は龍野市立歴史文化資料館と称した。たつの市は、姫路市の西北西およそ10kmにあり、そうめんで有名な揖保川が市内中央を流れる。人口8万の閑静な町並みは、江戸期の龍野城の城下町の風情を残す。醤油の一大産地でもある。

註2) 森脇家の遺物が遺されたころ、1812年に現在の広島県福山市で生まれた全盲琴師、葛原勾当が実物の折り紙作品を多数遺している。これもまた、19世紀の重要な実物の折り紙新資料であり、このことについて2008年から岡村昌夫氏が詳細に検討している(例えば、「勾当さんの折り紙 連載12回」岡村昌夫、月刊『おりがみ』(日本折紙協会)2008年10月号〜。「葛原勾当が遺した折り紙-全盲琴師の人と作品」岡村昌夫、日本人形玩具学会誌20号、2010年3月)。

註3) 資料解説の各担当は本図録を見ても明確には記されていない。今回、この記事を書くにあたって岡村氏に取材した。

註4) 例えば、岡村氏によると活字本でもよいから出せば良かった本に『和漢船用集』(1761年刊)があり、また友禅染の意匠、いわゆる雛形本の古いものをもう少し展示したかったとの思いもあったようだ。『和漢船用集』には「紙船」の項が有って、大船(宝船)や「二艘舟」(ただし「豚」の基本形から)などの図があり、これらがヨーロッパから輸入されるよりかなり古く日本にも有ったことが証明される重要資料とのこと。

註5) 吉徳資料室、アン・ヘリング氏、龍野市立歴史文化資料館(主催)、神戸市立博物館、岡村氏などがそれに続く。



「折るころ」初版(1999年10月)の表紙と裏表紙。後に、裏表紙中央の絵が「摺紙」でないことが分かり、第2刷以後はカットして空白となっている。

22.5度系創作法

Creating Models Based on 22.5° for Novices

小松英夫 Komatsu Hideo

第5回 基本形の推敲

"Proofreading" the Base Form

■作品に仕上げる

前回までで、頭+胸+6本の脚+腹+αのカドを持った基本形の候補がいくつかできているので、以降は、試行錯誤によって昆虫らしく仕上げていく作業です。作り手の感性が直接的に反映される工程であって、「これが正解」というものはありませんが、今回は、筆者が推敲時に検討したポイントについて解説してみたいと思います。

まずは、完成したモデルをご覧ください(写真1)。これは第3回(126号)図5の展開図(図1)からの作例です。第3回で思い描いていたコガネムシのイメージとは少しずれて、いわゆるリアル(写真)からも離れた造形ですが、まとめるにあたって「昆虫っぽさ」に気を払ったつもりです(図2、写真2、3)。

造形にあたっては、輪郭(シルエット

ト)と細部(ディテール)の2要素を意識するとバランスを取りやすいかと思っています。22.5度系の創作には、揃った角度が自然と適度な調和を生み出すという利点があり、折り込みすぎると、かえってバランスをとるのが難しくなる場合もあります。もちろん好みの問題もありますが、基本形の素材の味を活かすような造形を作ってみることをお勧めします。

■推敲ポイント2つ

さて、元になった基本形には大きな内部カドが3つあり、そのうち1つが胸、2つが前脚になっています(図1、EとF)。一般的に内部カドは、厚みのために仕上げの際に苦労させられることが多く、この作品でも工夫のしどころです。問題となる、①胸を造形しにくいこと ②脚を細く折りにくいこと、この2点を解消する方法がないか探したくなります。

それぞれ図3、図4のような解法も考えられますが、ここで取り上げるのは別の方法です。

<45度を混ぜる>

長方形分子の紹介のとき、沈め折りしたものとしていないものの2種類がありました。これらの違いは設計(分子の配置)時には無視されて、同一のものとして扱われることが多いのですが、造形的に見た場合にはまったく異なる印象を与えます(図5)。

同様に、22.5度のカドが主体の標準的な展開図を、部分的に45度のカドを用いた構成にしてみると、新たな見立てに繋がります。作例では、図6のようにカドEを45度のカドへと変形させ、得

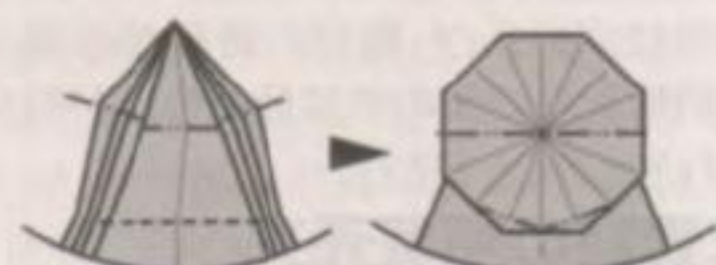


図3: 内部カドを正8角形につぶす素直な方法。しかし、折り筋が目立つ印象です(写真4)



写真4

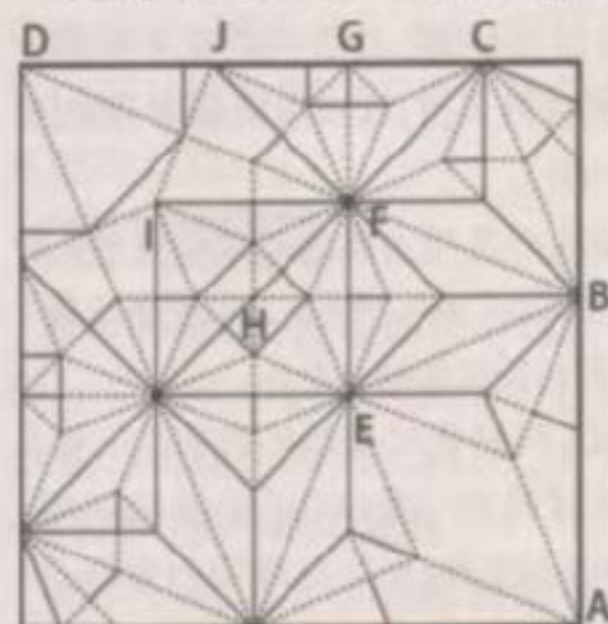


図1: 126号図5と同じ展開図です

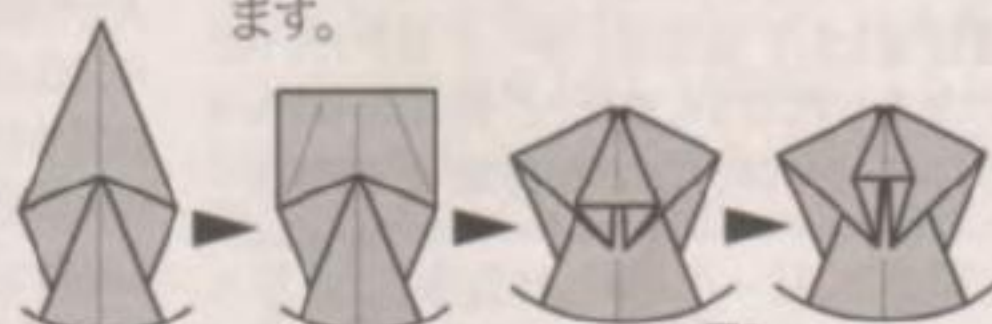


図2



写真2

図2・写真2: 頭部デザイン。図1は複数考えた頭部の展開図パターン候補の中では一番単純なものですが、これを加工して頭部を作ってみました。(カド分け(point splitting))の技法で、触角のカドを出しています。このような触角の生え方をしている甲虫はあまりいないようでしたが、昆虫のイメージとして悪くない表情になっていると判断しました



写真3: 頭部造形の別案。こちらの方がリアルに近づいていそうですが、なんとなく性悪そうな顔つきで×



図4: 内部カドFをグレーのすき間を通して表側に出し触角にするアイデア。前脚はカドJになります。前回の図7からの発展です



写真1

○小松英夫(こまつ・ひでお) = 1977年生まれ。日本折紙学会評議員。今回までで、演習形式での解説は一応おしまいです。次回は、補足として紹介しきれなかったテクニックなどをご紹介して、このシリーズの最終回としたいと思います。



られた広い面を、前胸背板の造形にあててみました(図7)。

＜山谷を変える＞

第2回で書いたとおり、通常、カドを構成する放射状の折り線は、山・谷・山・谷……と交互にして折り畳むのが基本ですが、このように折られた内部カドを半分に折るのは紙に負担がかかってしまいます。図8の変化は、同様の形状を維持しながら、カドFの山谷が交互にならないように折り変えたものです。その結果カドFの重なりが分散され、特に図9の丸で囲んだ部分で紙の負担が軽減されているほか、基本形の折り畳みが非常に容易なものに改善されています。

以上見たような、すでにある構造を崩しながらの基本形の改良は、〈設計〉と〈仕上げ(成形)〉の中間的な工程と言えます。解説では展開図を用いましたが、形状の変化を直接確かめつつ行える点から試行錯誤の方が効率

的です(とは言え、構造的な思考を捨てるわけではありません)。基盤である〈22.5度のメッシュ〉を意識し、ヒダ/折りフチの重なり方の違いがどのような影響・効果をもたらすかを考えながら折り進めます。手早く折り変えていくには経験が必要な面もあるため、慣れないうちは難しく感じられるかもしれませんが、紙に教えられるつもりで取り組んでみてください。そして少しずつ、頻出するパターンを覚えていきましょう。

■22.5度の世界

第1回で“適当に分子を組み合わせた”展開図から、(曲がりなりに)ひとつの作品が無事にできあがりました。はじめはたった2種類の折り紙分子の組み合わせでしたが、基本形から仕上

げに至るまで、それぞれの段階でいろいろな選択候補がありました。紹介できなかったパターンもありますし、筆者が思いついていないパターンもあるはずです。

この創作演習で紹介できたのは、22.5度系折り紙の世界の一部に過ぎませんが、さまざまなパターンの例を通して、その豊かな可能性が少しでも伝わったなら幸いです。ぜひ「気軽に」そのドアを開けてみてください。



図9: 図1のカドF(通常の内
部カド)と、図
8のカドFを断
面図で比較

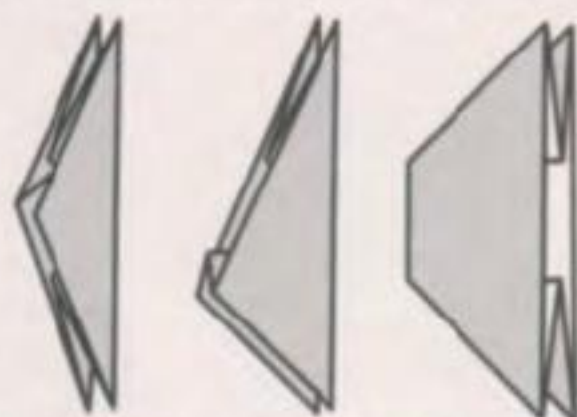


図5: 22.5度と45度。それぞれから受ける
イメージの違い

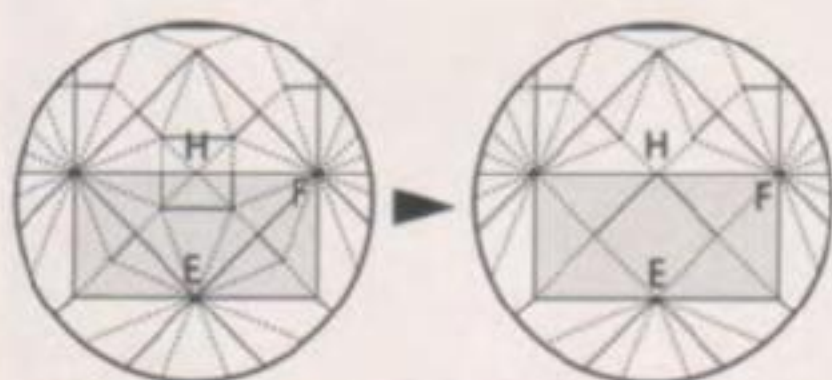


図6: カドHが造形上不要であることを見越した上
での变形になっています

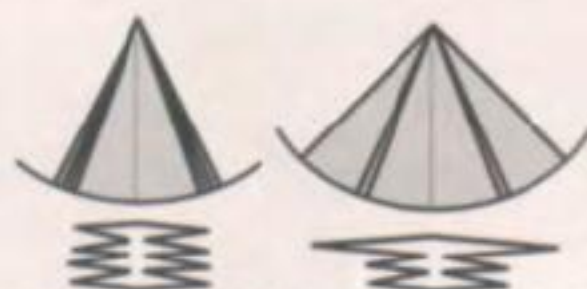


図7: 図1のカドE(通常の内
部カド)と、図6の
カドE。下は断面図で、広い面と同時に、厚み
の低減にもなっています

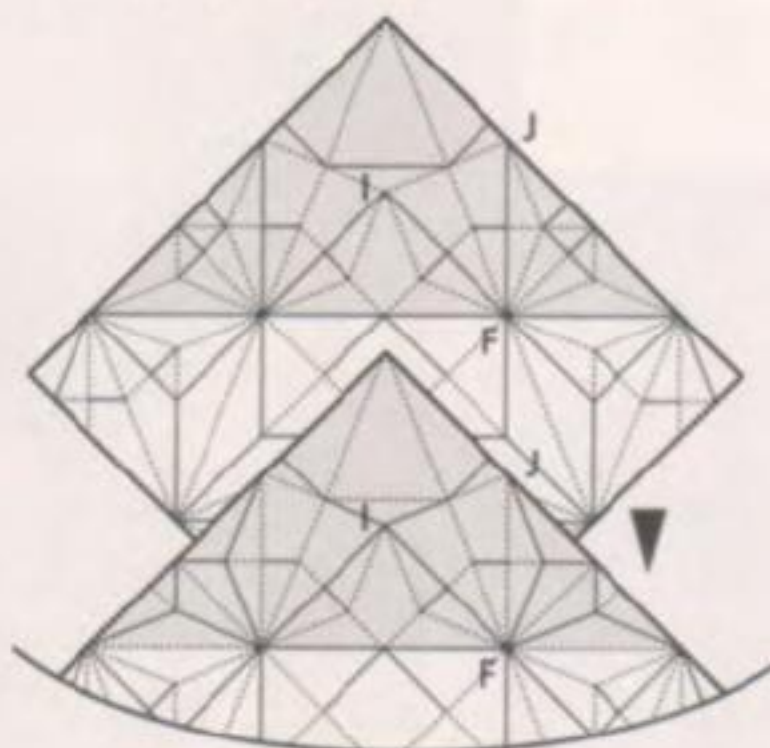


図8: 図6右の展開図からの変化。これもカドIと
カドJが造形上不要であることを見越した上での
变形になっています

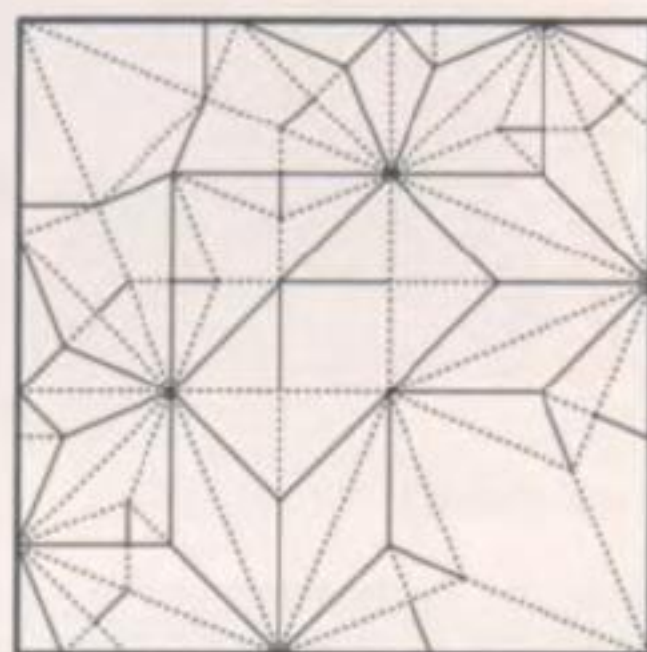


図10、写真5: 最終的な展開図と基本形

本連載で登場した展開図のデータを公開しています(高画質の画像やORIPAファイルなど)。URL: <http://origami.gr.jp/~komatsu/kigaruni/>

あまりにもたくさんのが一度に起こり、ほとんど片付かないまいつの間にか年末。
今後も長丁場にじっくり腰を据えて挑むべく、さまざまな思いの形を指先から放出しながら、
日常との間を行き来する毎が続きます。

「ゼラニウム」・「アガパンサス」

作：布施知子 (P.4)

Geranium, Agapanthus:
Fuse Tomoko (P.4)

■5つの部品がつながった頂点に現れる色で花を表現。それが複数集まって、モコモコと固まった花のような雰囲気になるユニット多面体です。好みの品種を思い浮かべながら紙を選ぶのも良し、絶対にありえない色の組み合わせを考えてみるのも楽しい作業です。



「なす」

作：やまぐち真 (P.8)

Eggplant:
Yamaguchi Makoto (P.8)

■宇宙船から切り離されて大気圏突入？ 帰還カプセルのような形の、ちょっと不思議な幾何物体。紫と緑の紙で作ると茄子以外のナニモノでもないのですが、違う色や突飛な質感にしたときに印象がどう変わるのか、いろいろと実験してみたいくなります。

「15°-蛙」

作：西川誠司 (P.34)

15 degrees Frog -
with Thanks to Robert:
Nishikawa Seiji (P.34)

■普通に折り紙をしていると自然にあらわれてくるのは「22.5度」を基本単位とした角度構成。そこで敢えて「15度」に集中することにより、見慣れないデザインバランスに遭遇する機会を増やしてゆく。西川氏が近年精力的に取り組んでいるこの手法で、「気になるかたち」が次々に発掘されています。



WODドラゴンズ展より WOD Dragons Exhibition

■さまざまな世代からの自信作が、web投稿とリアル展示の双方に集結。なかでも若手の学生軍団が、いつも以上のノリの良さで圧倒的な力作を寄せてくれました。最先端技術にも果敢に取り組み、振り回されながらも手なずけてゆく様子は非常に頼もしい。今後どのように変化してゆくのか、楽しみな人材も多く出現しています。



Kimura Yoshihisa



Kashiwamura Takuro



Takeda Naoki



Komura So



Watanabe Kei



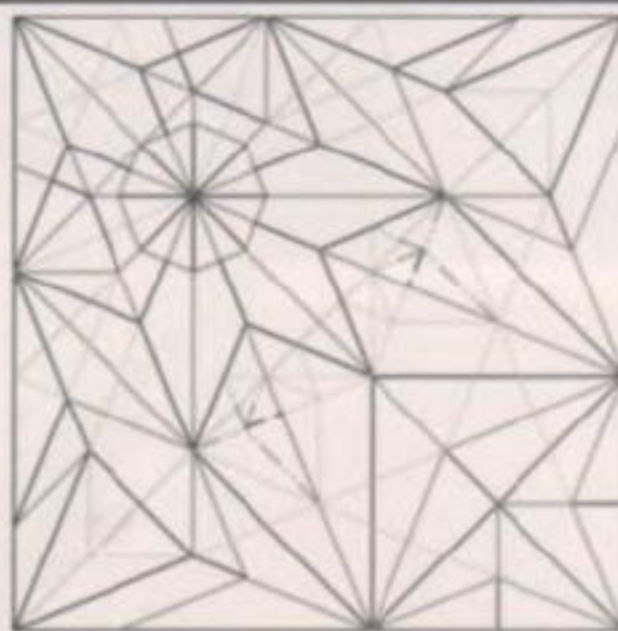
Nakamura Kaede

ビーグル犬 ♂
BEAGLE

川畑文昭

September 1, 2011

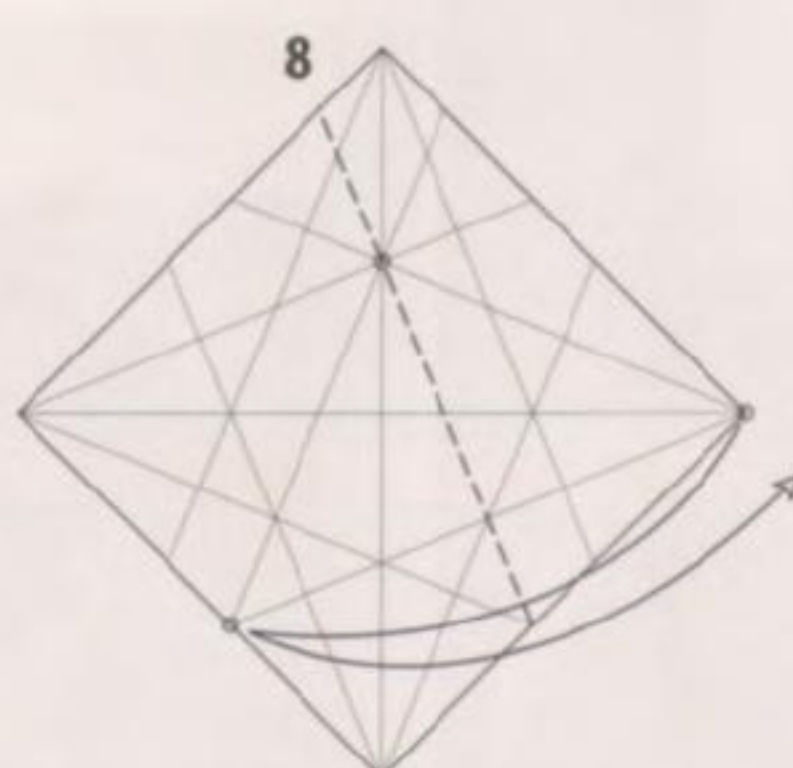
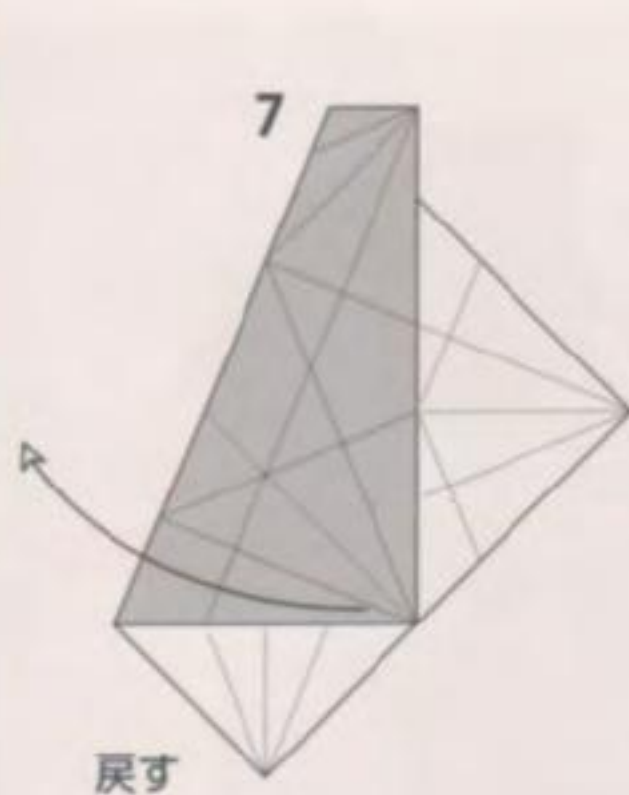
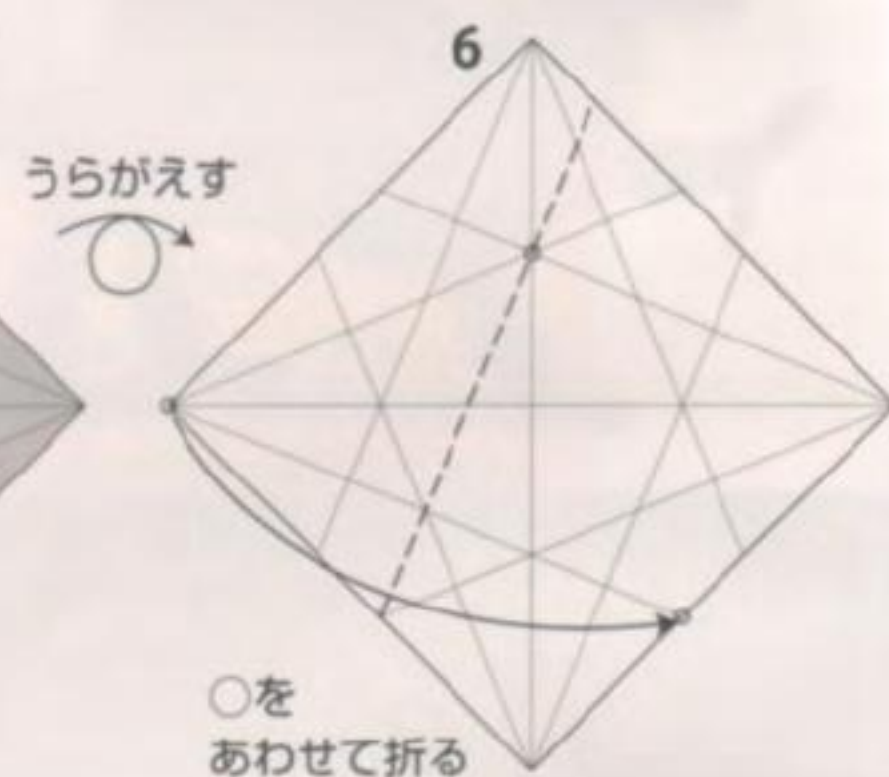
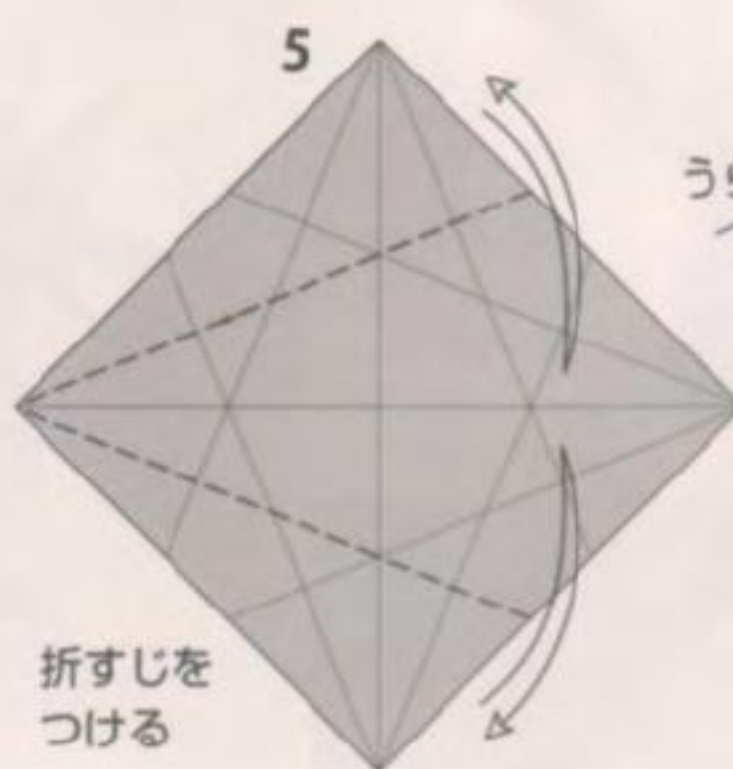
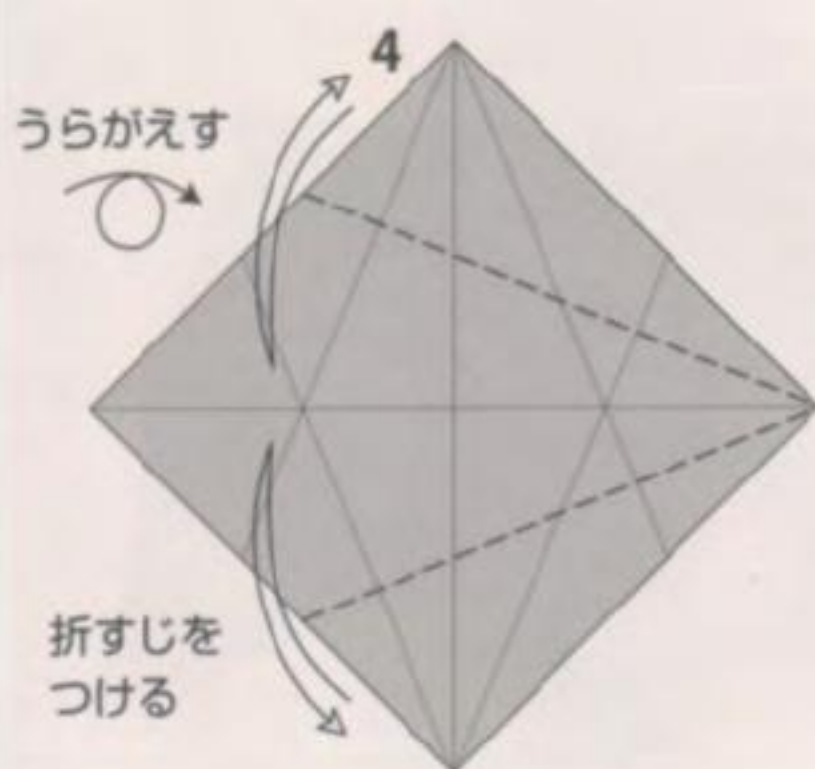
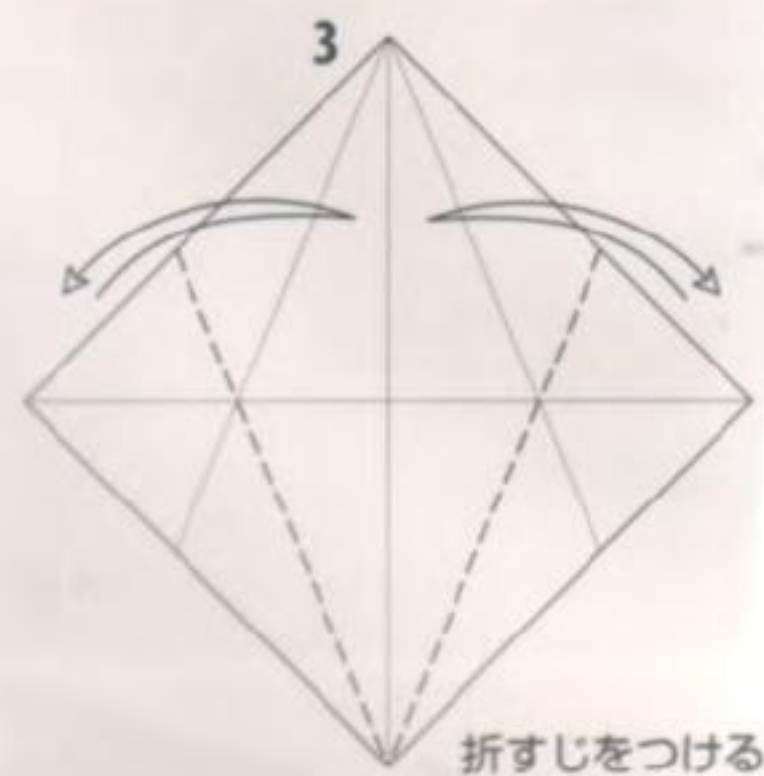
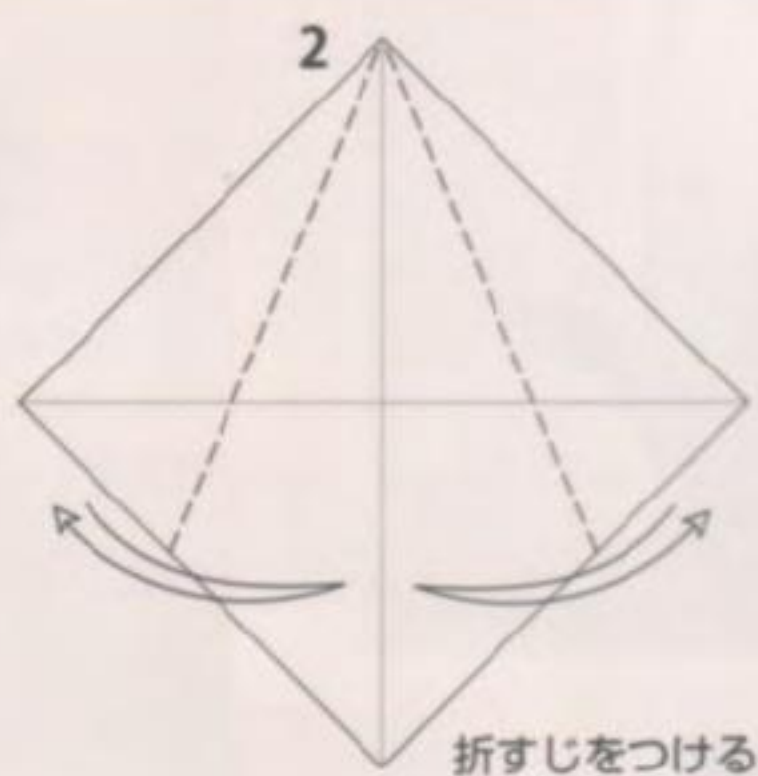
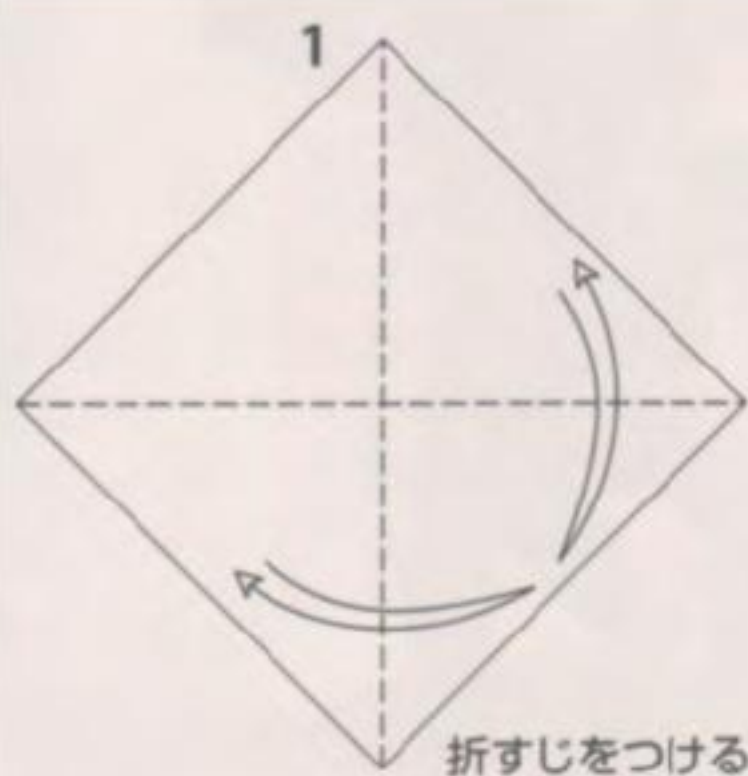
Kawahata Fumiaki



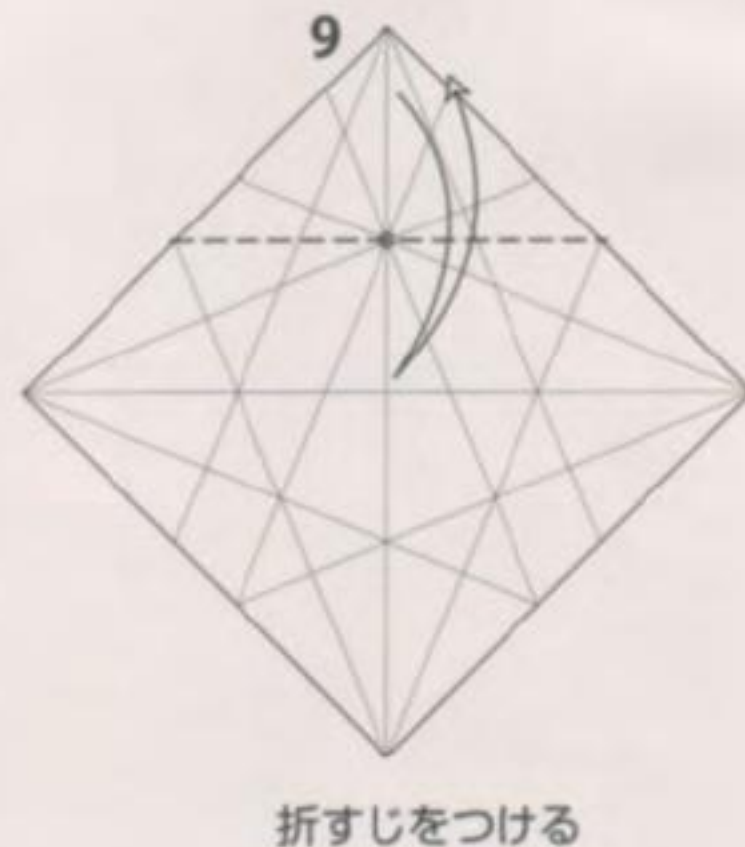
Beagle Copyright By Fumiaki Kawahata 2011

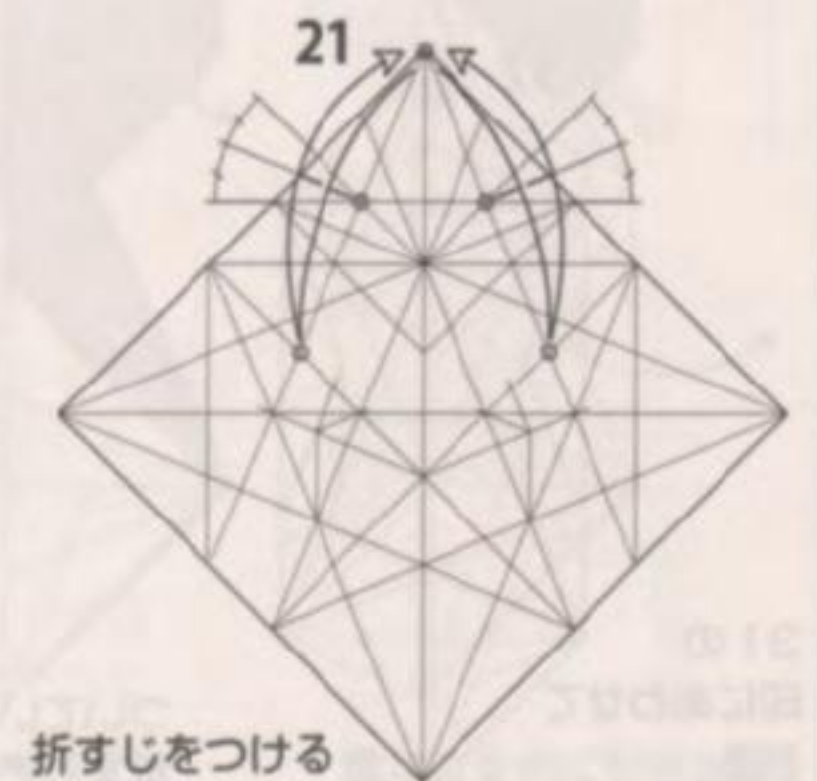
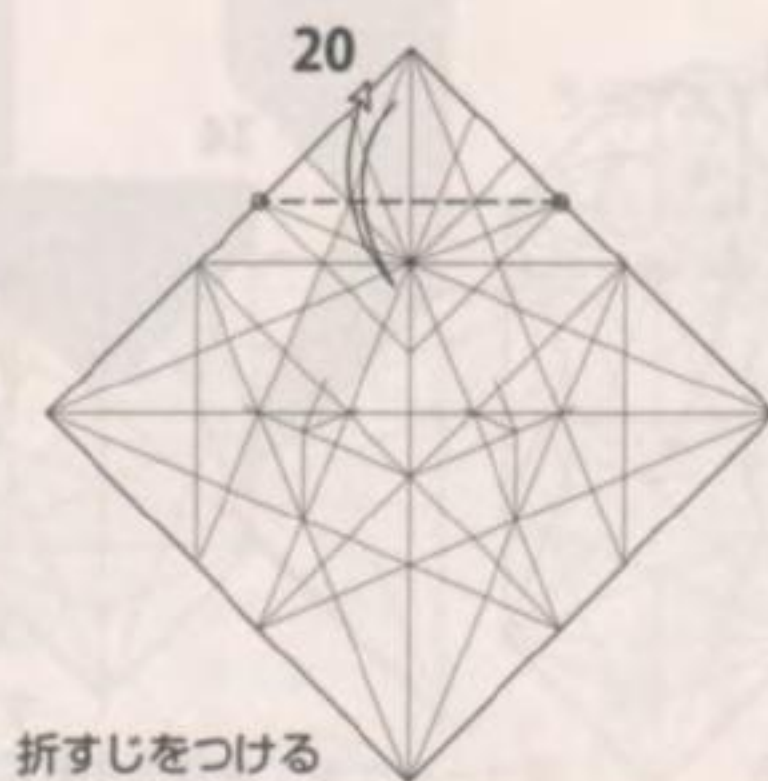
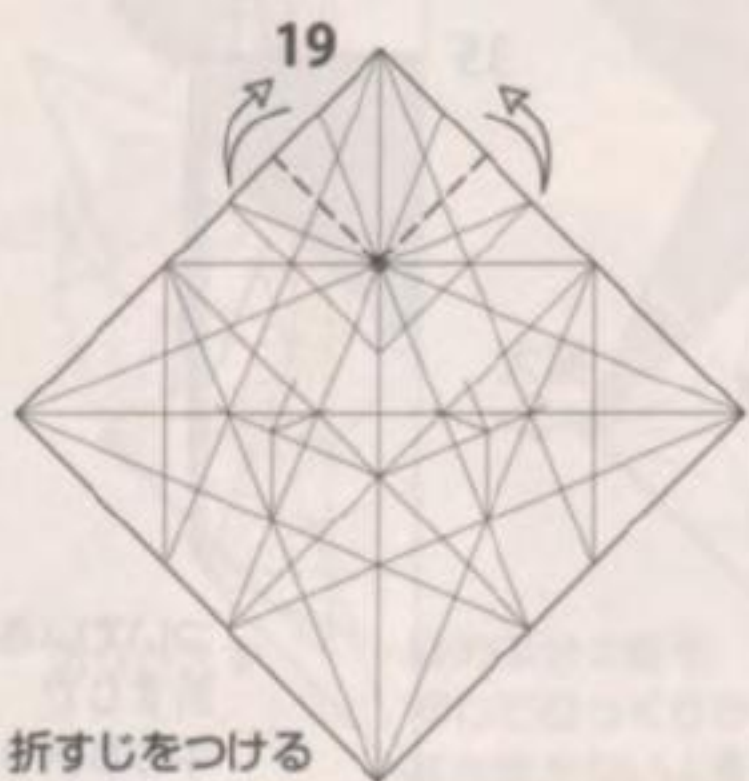
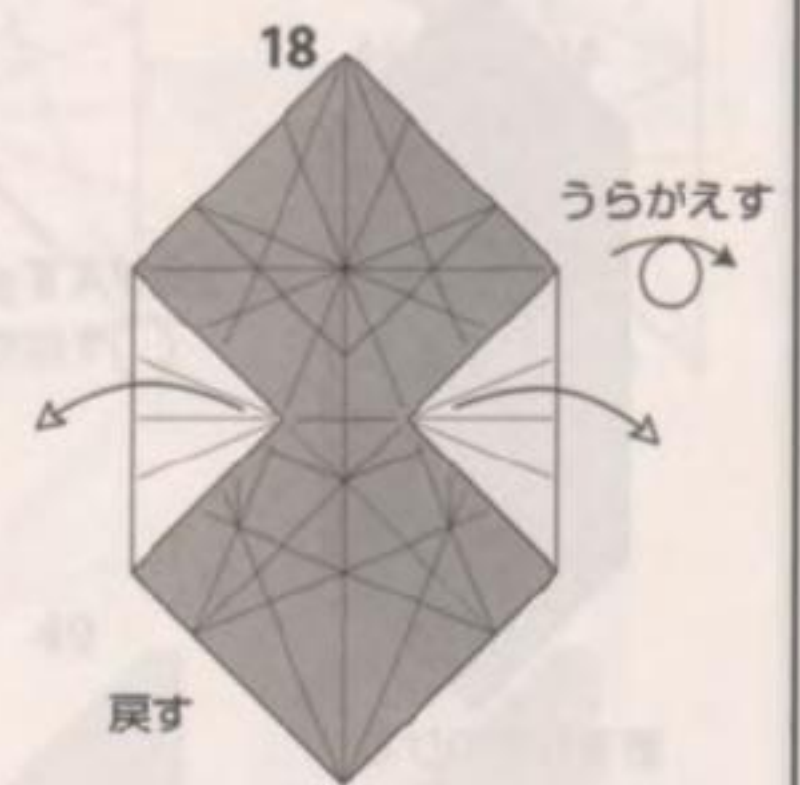
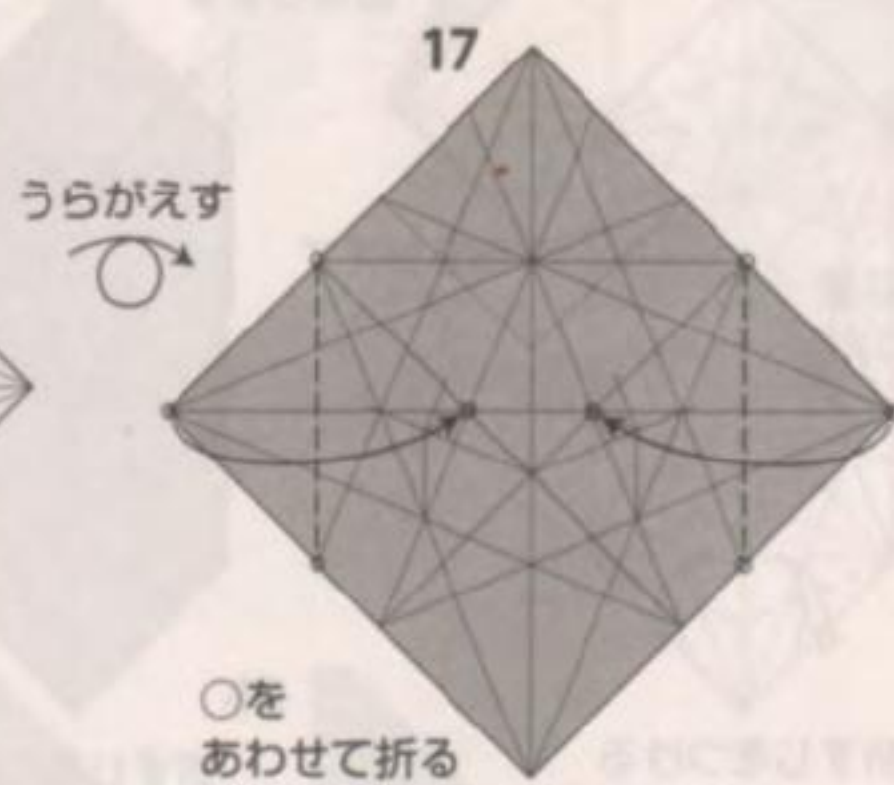
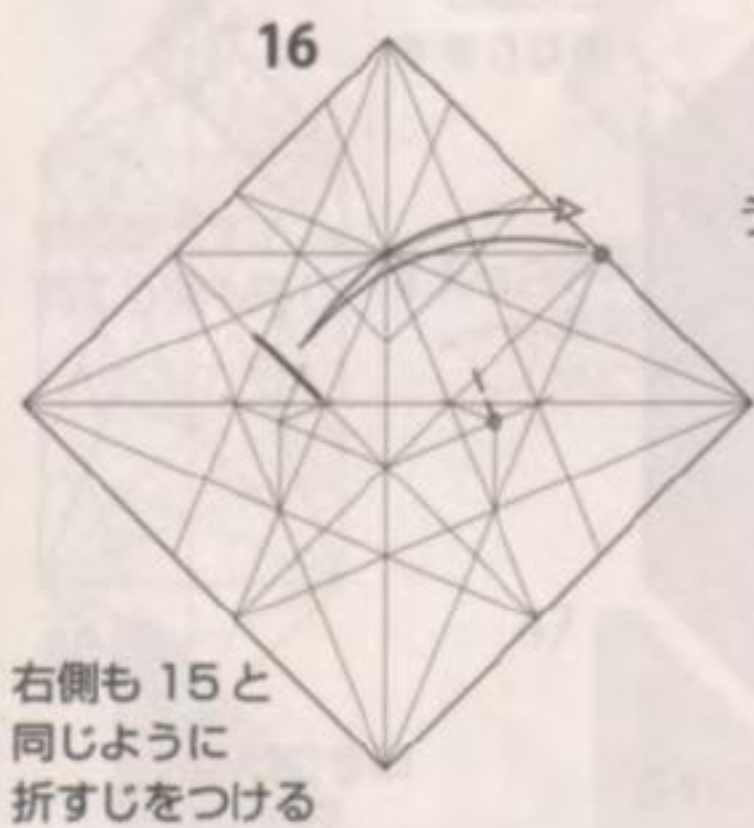
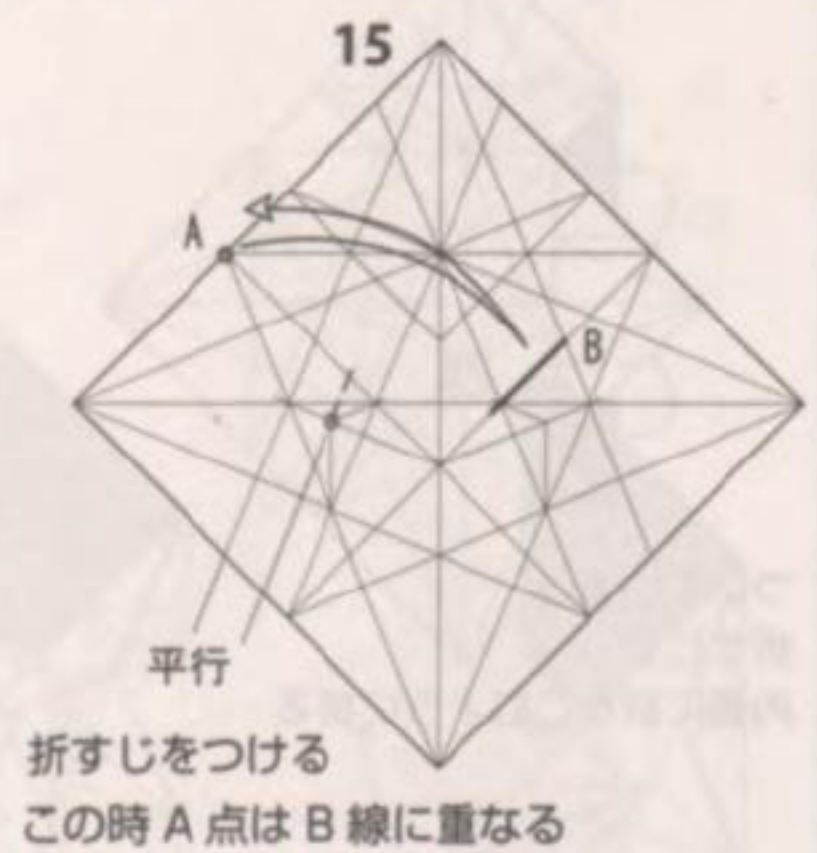
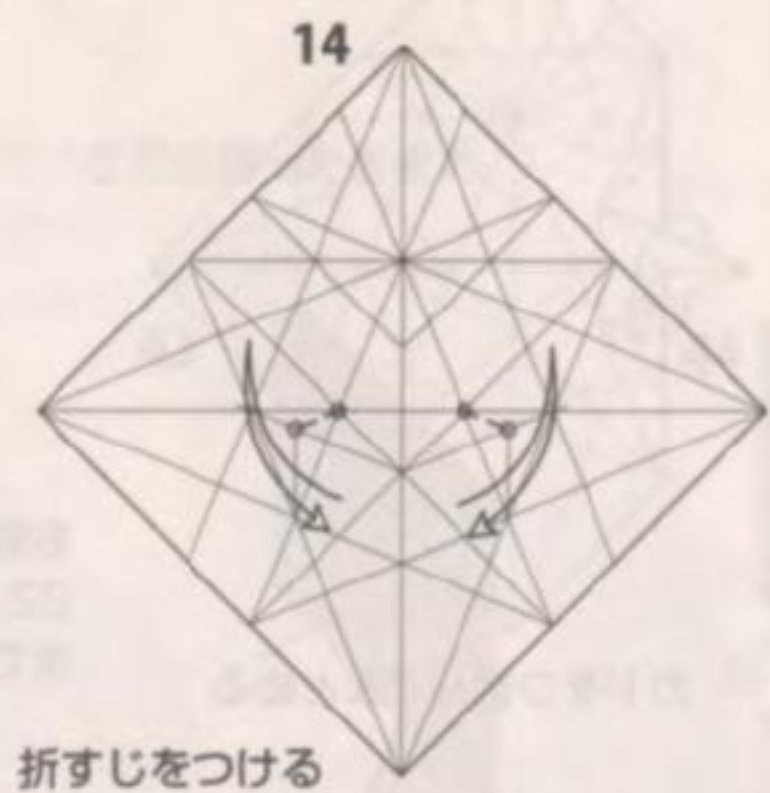
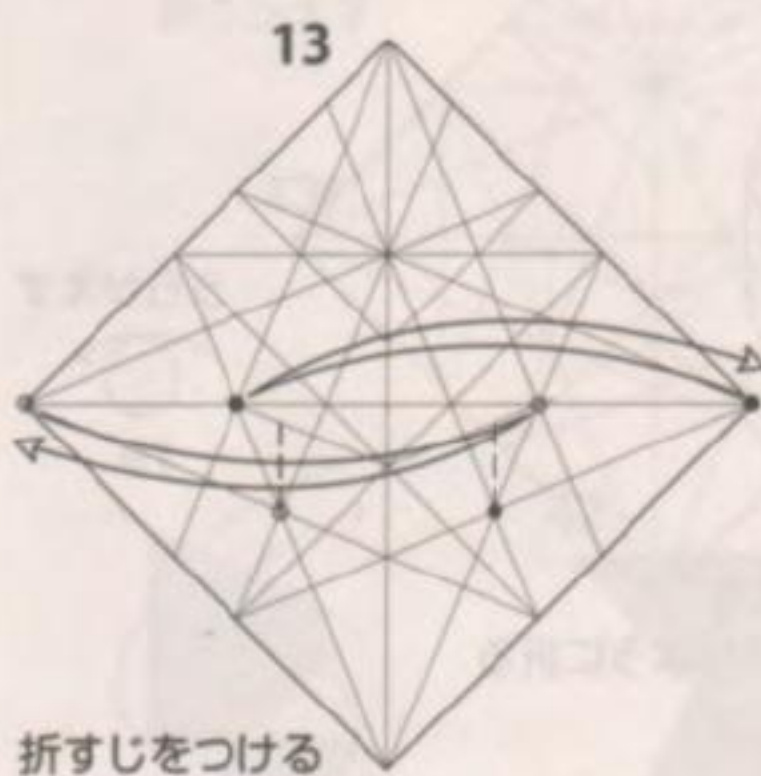
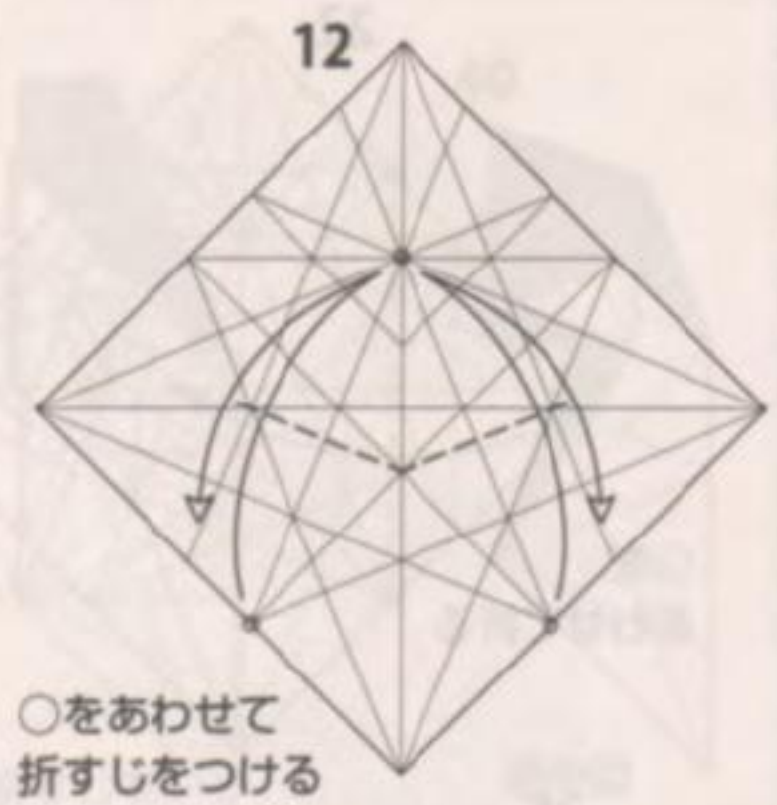
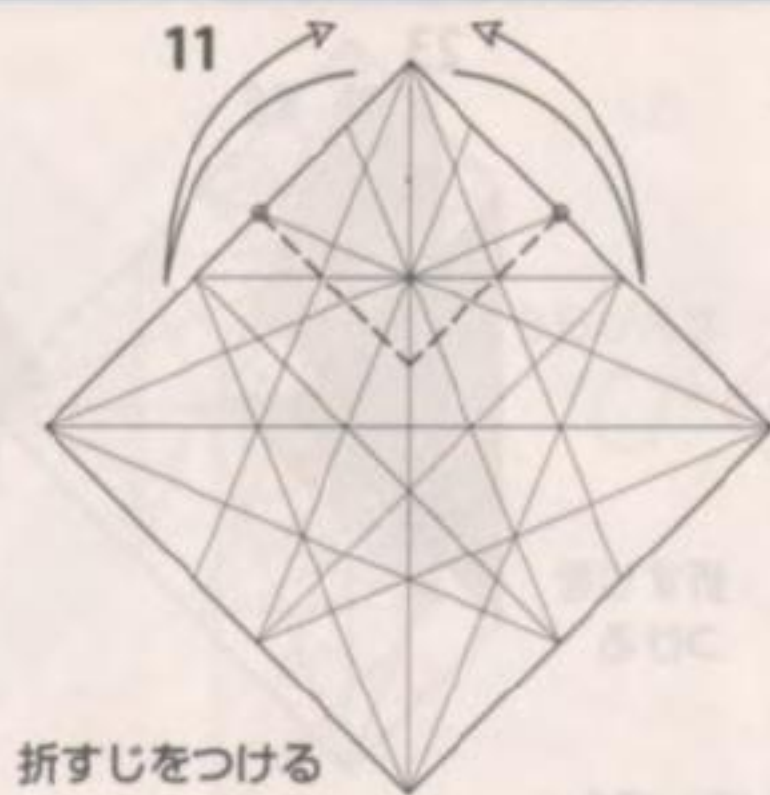


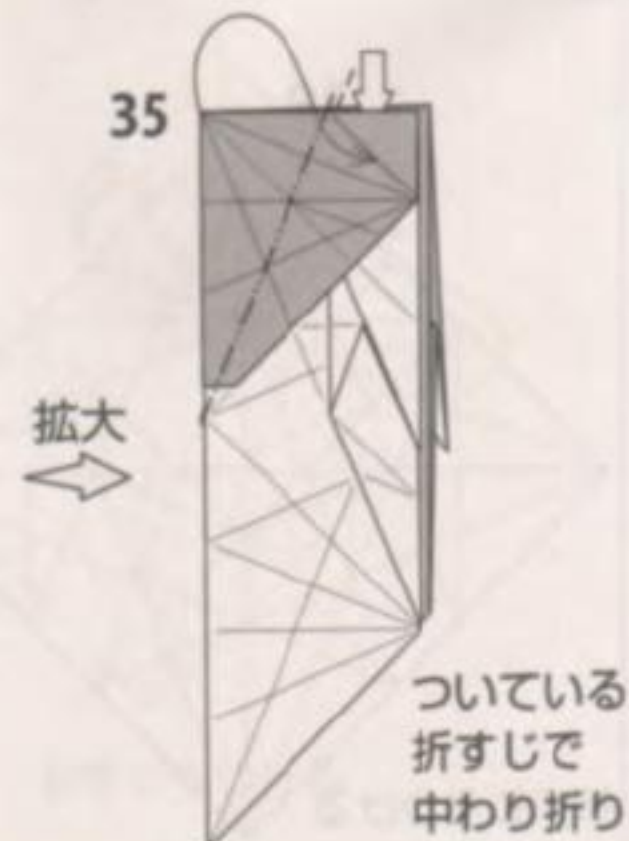
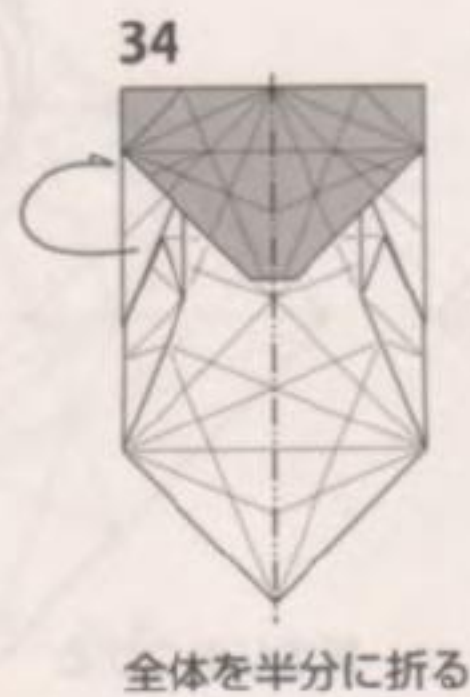
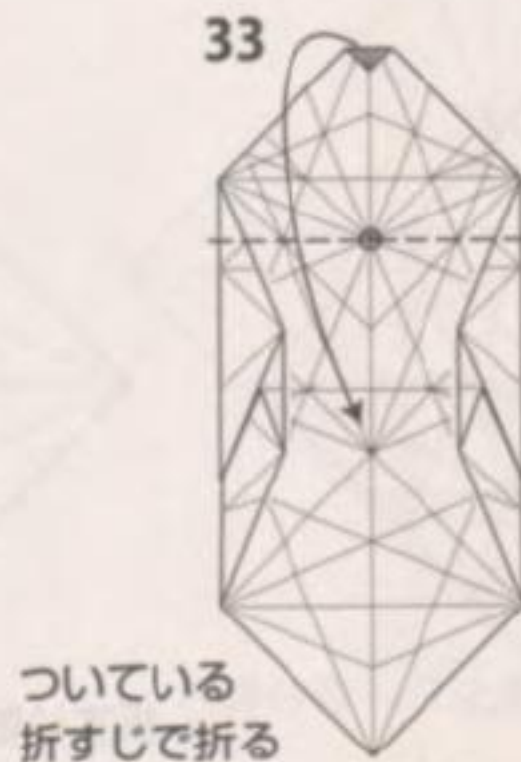
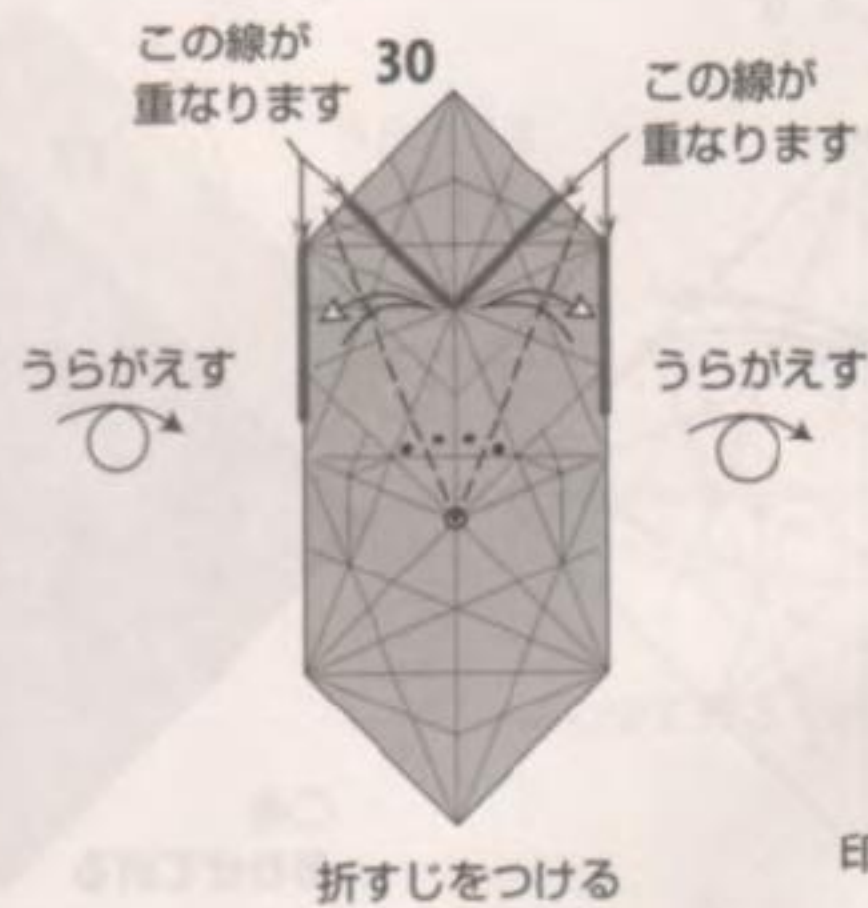
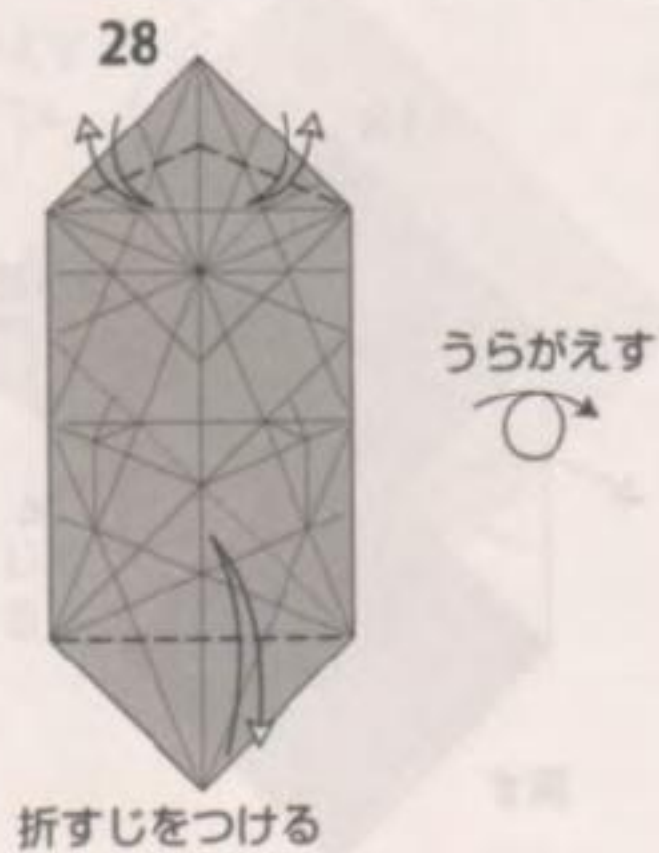
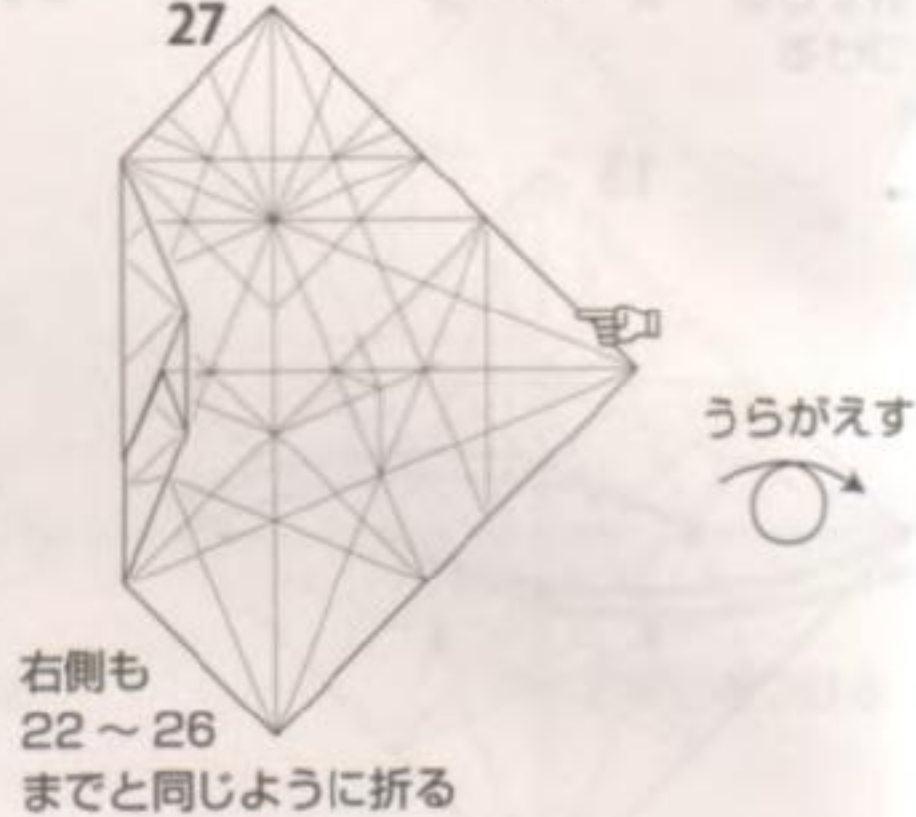
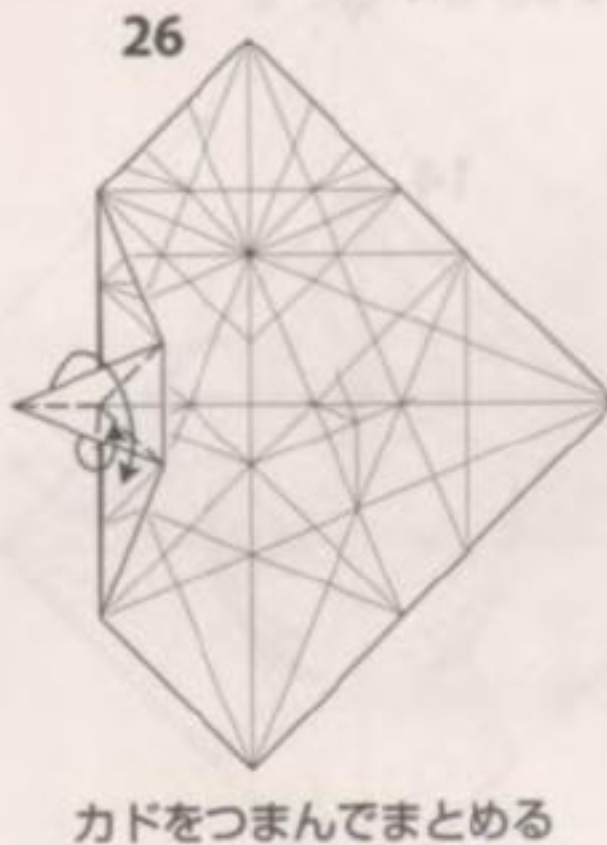
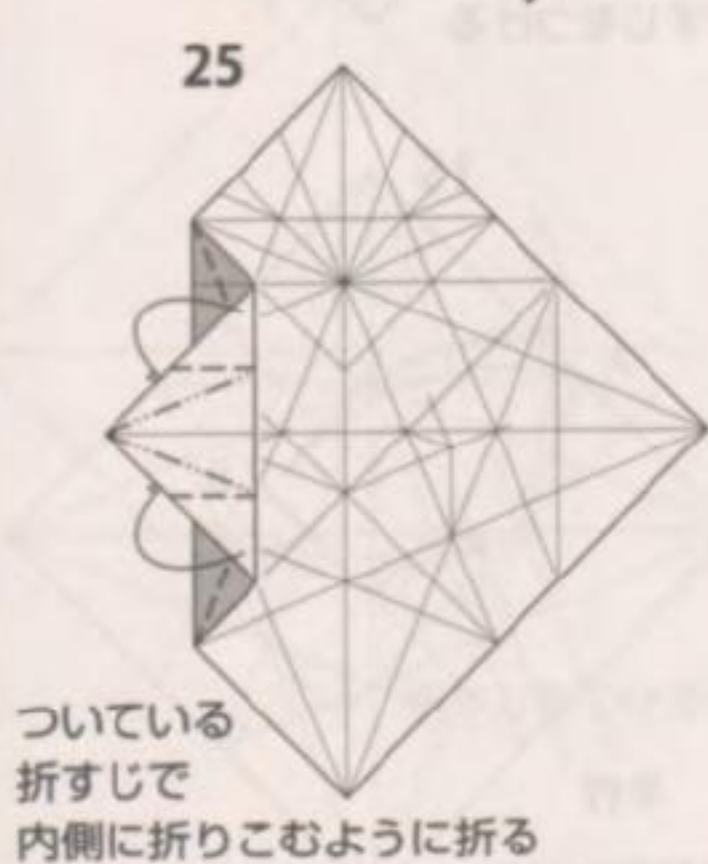
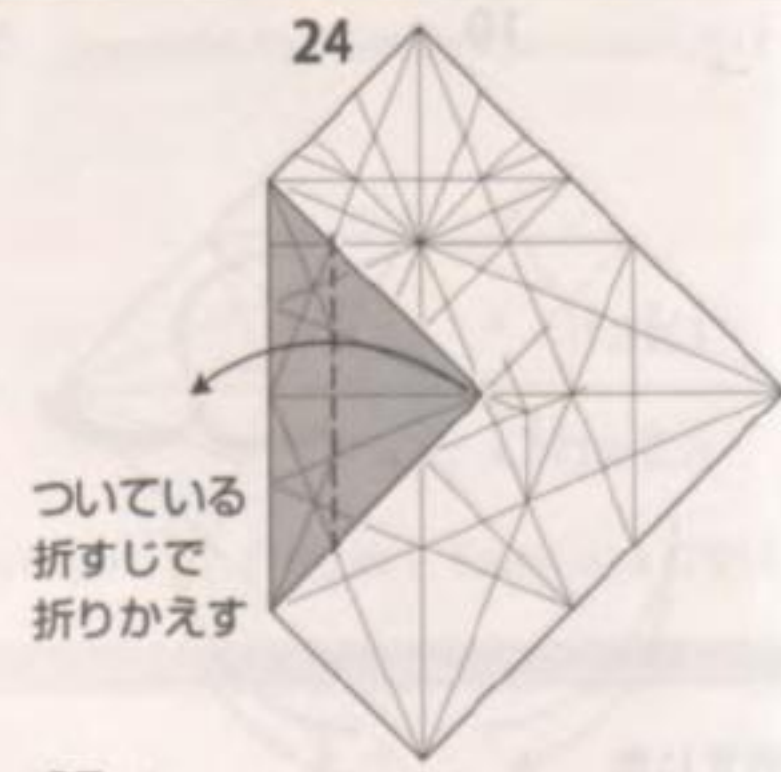
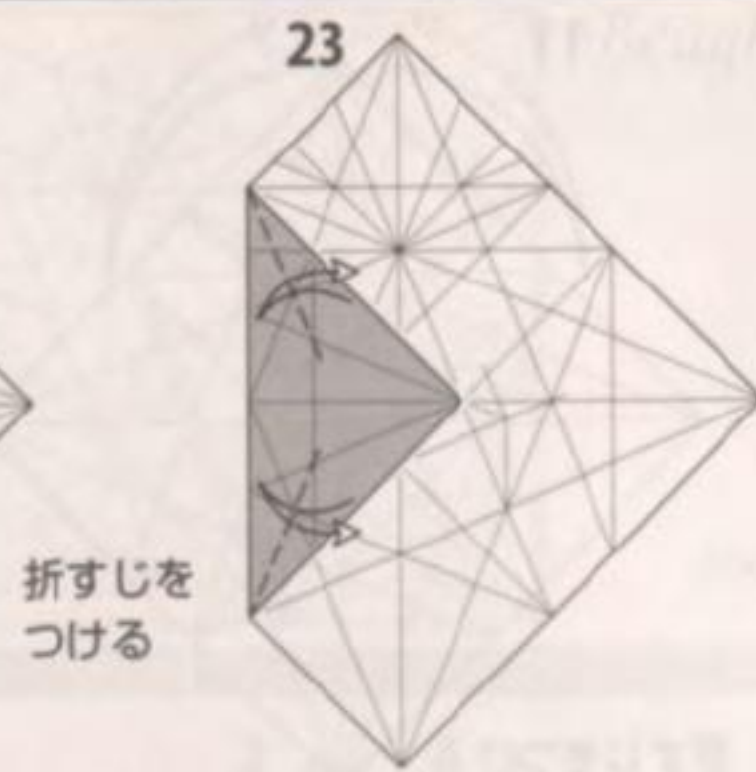
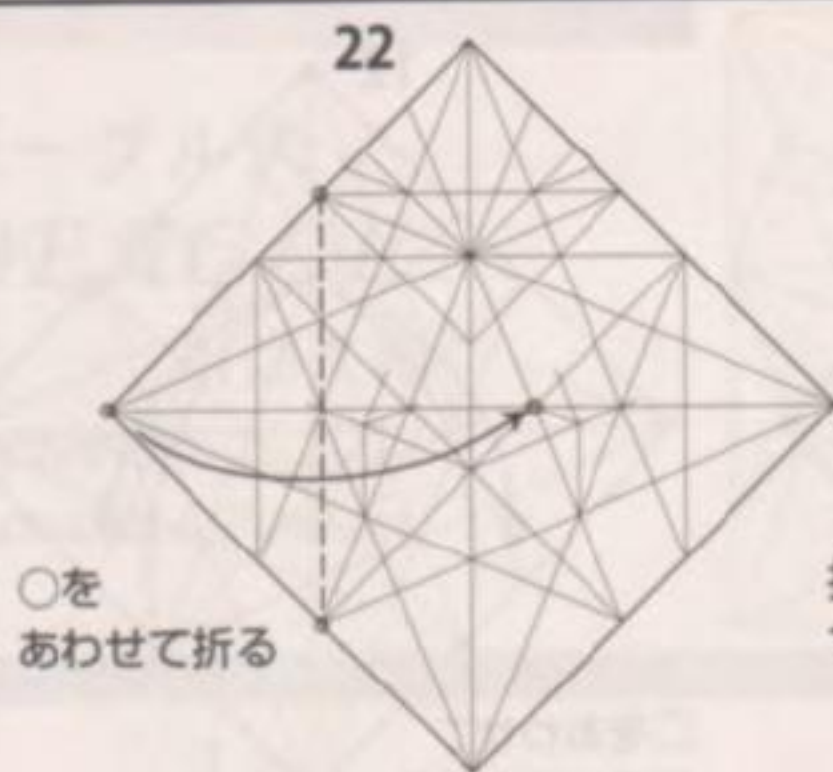
Copyright By Fumiaki Kawahata 2011



右側も6～7と同じように折る









36
ついている
折すじを使って
折りかえす



37
途中図



38
うらがえす



39
ついている折すじを
使って折りかえす



40
途中図



41
折りかえす
向こう側も同じ



42
内側の
重なりを
外に引き出す



43
ここは折ったままで
折りかえす



44
重なりを
外に引き出す



45
カドを
三角に広げる



46
折りかえす



47
袋の部分の底を
押してひっくりかえす
紙を破かないように注意



48
47 まで折った形

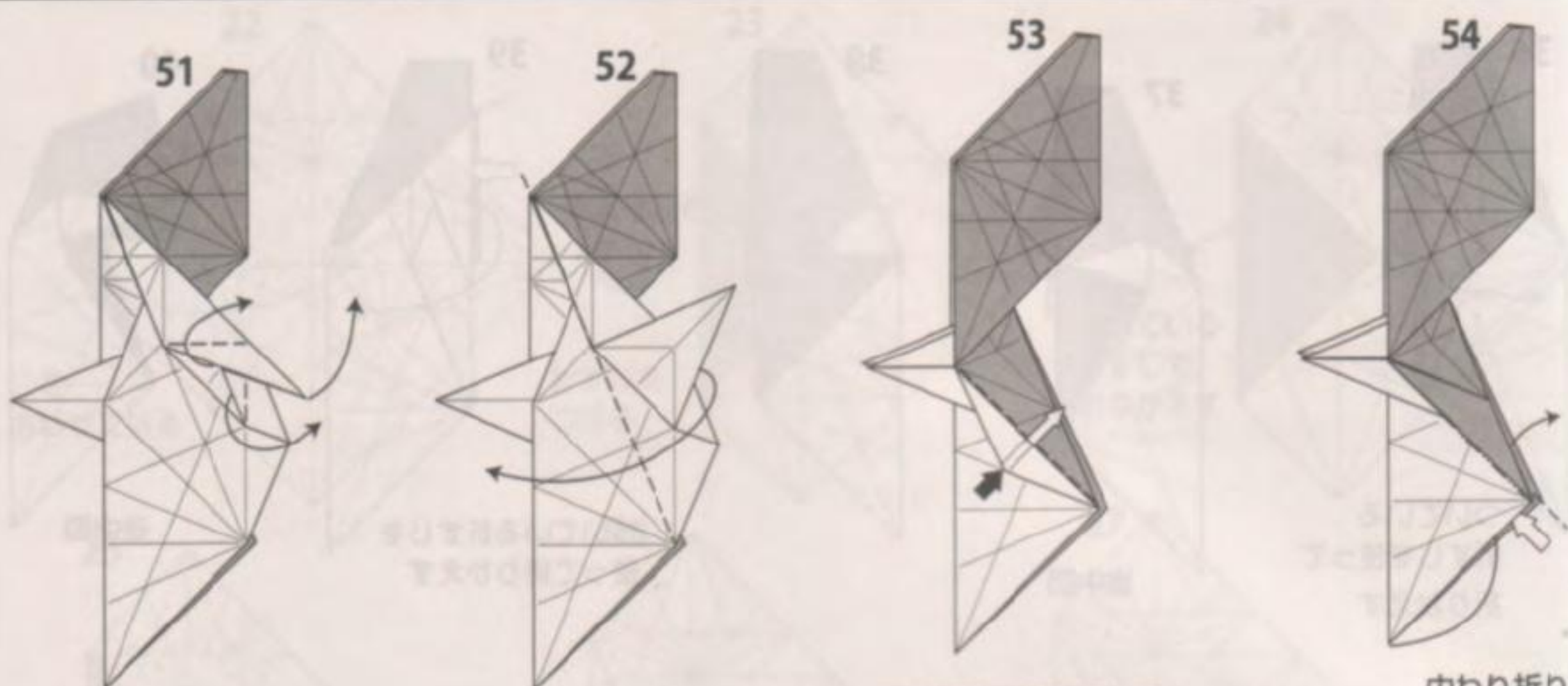
49
うらがえす



49
折りかえす



50
重なりを外に引き出す

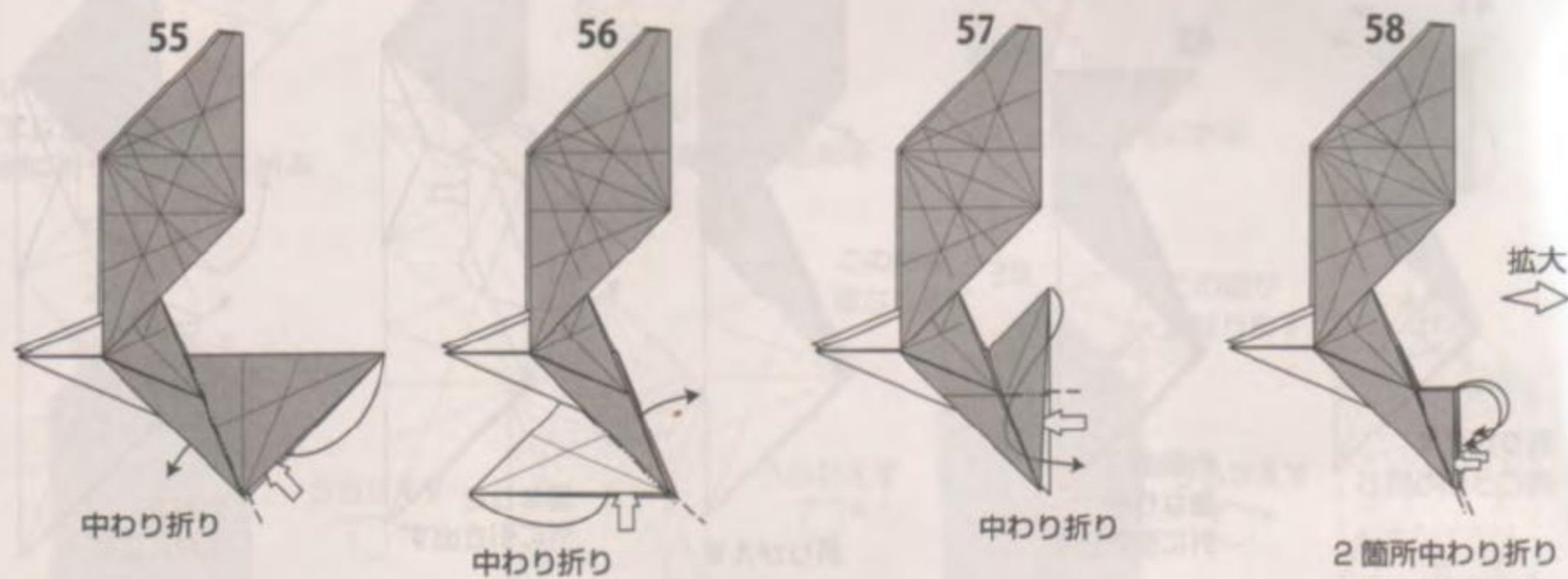


51 カドを三角に広げる

52 折りかえす

53 袋の部分の底を押して
ひっくりかえす
紙を破かないように注意

54 中わり折り



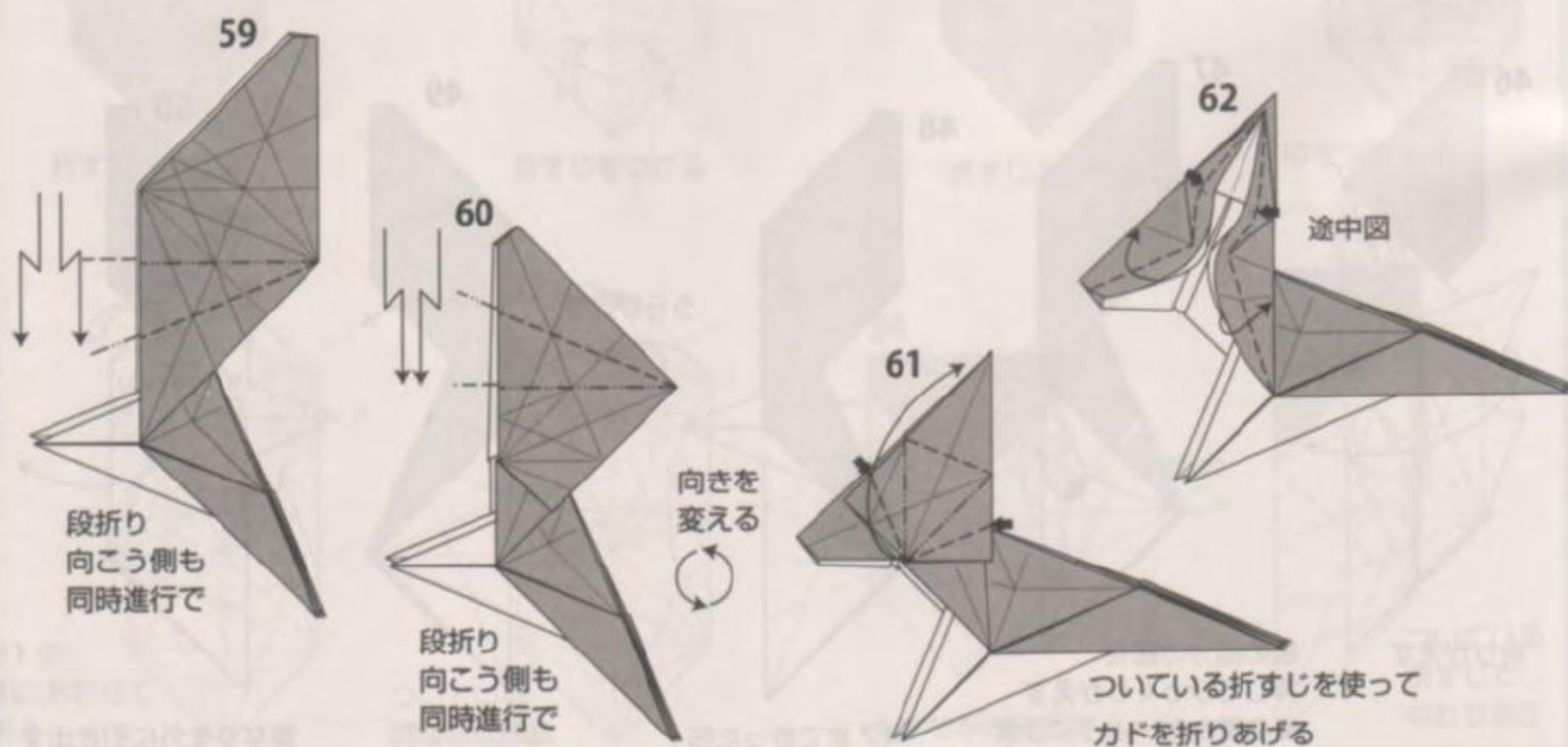
55 中わり折り

56 中わり折り

57 中わり折り

58 2箇所中わり折り

拡大

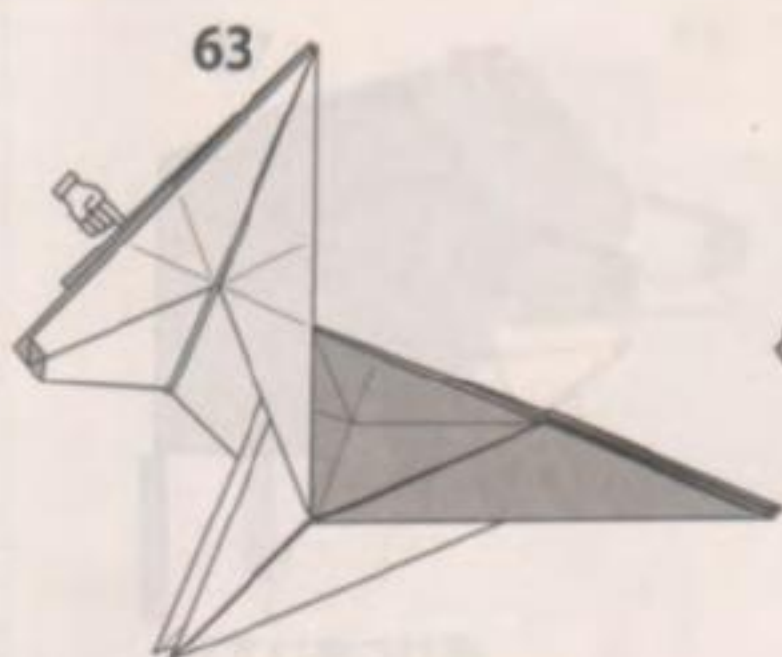


59 段折り
向こう側も
同時進行で

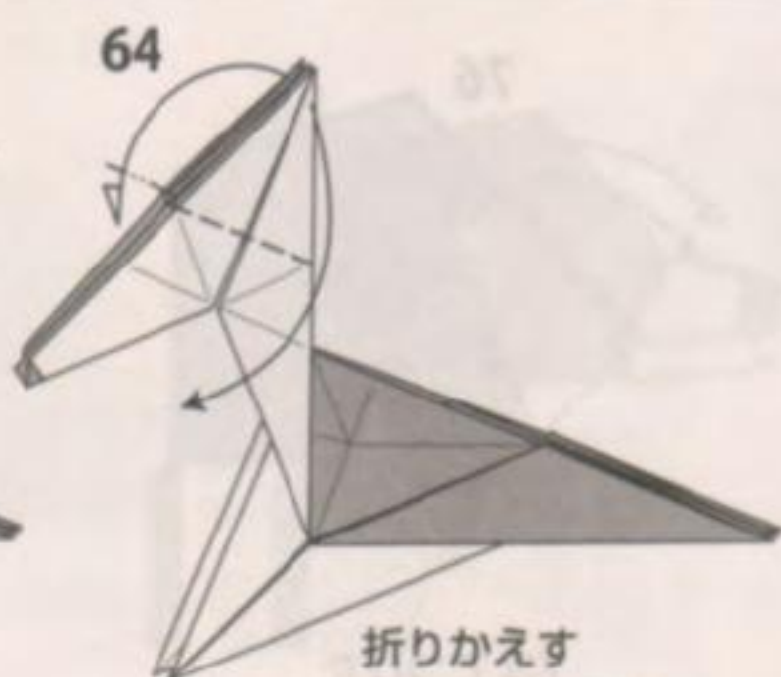
60 段折り
向こう側も
同時進行で

向きを
変える

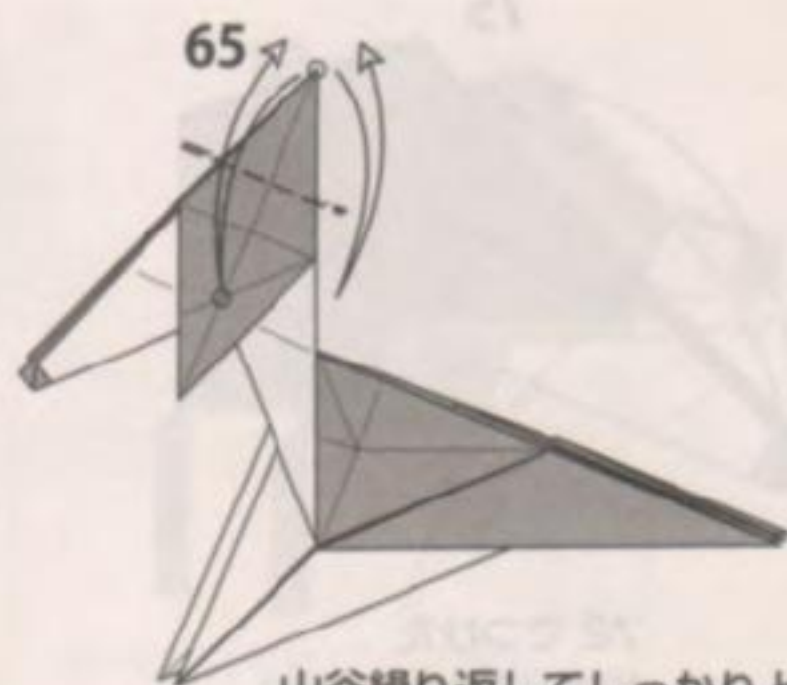
61 62 途中図
ついている折すじを使って
カドを折りあげる



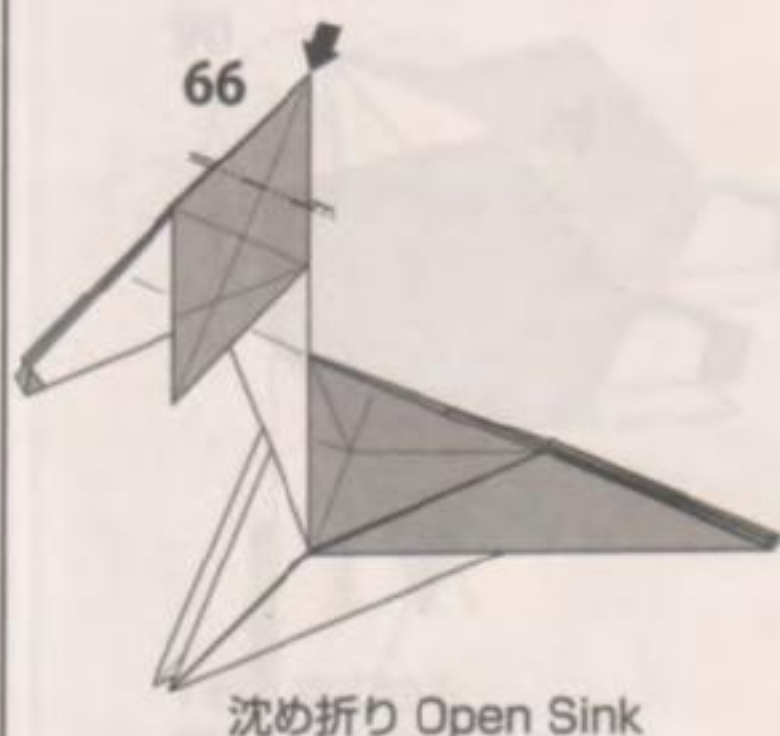
向こう側も61～62までと同じように折る



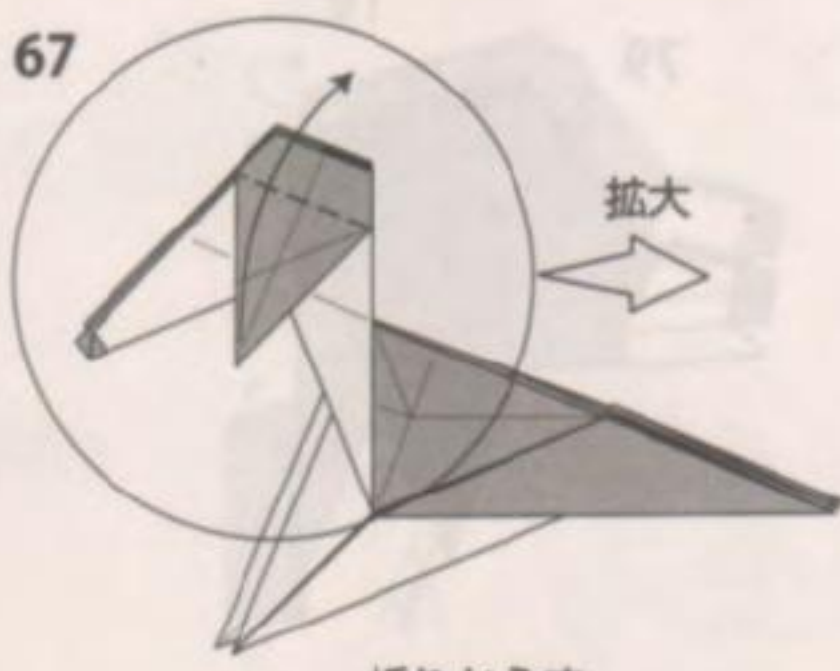
折り返す
向こう側も同じ



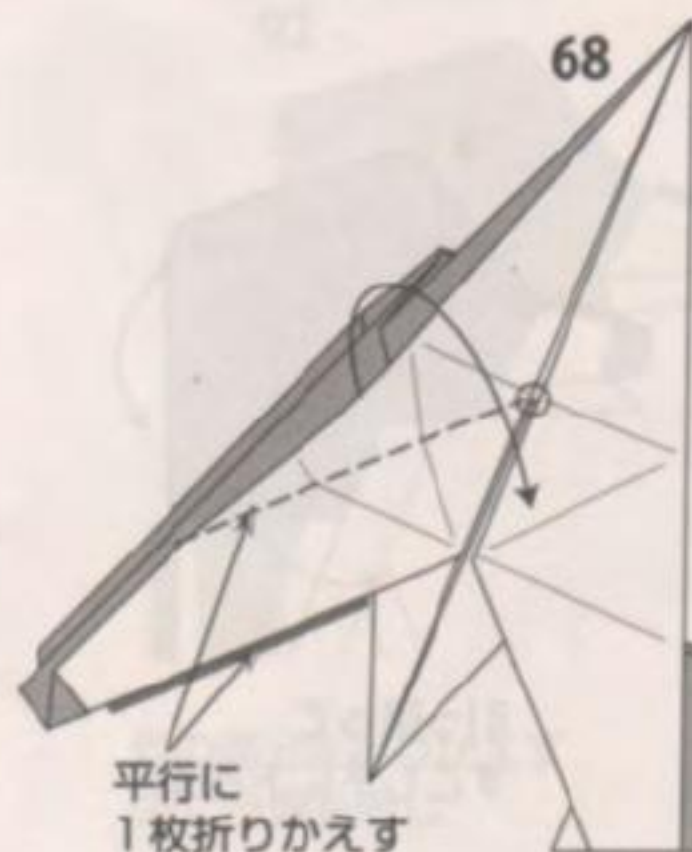
山谷線り返してしっかりと折すじをつける



沈め折り Open Sink



折り返す



平行に
1枚折り返す

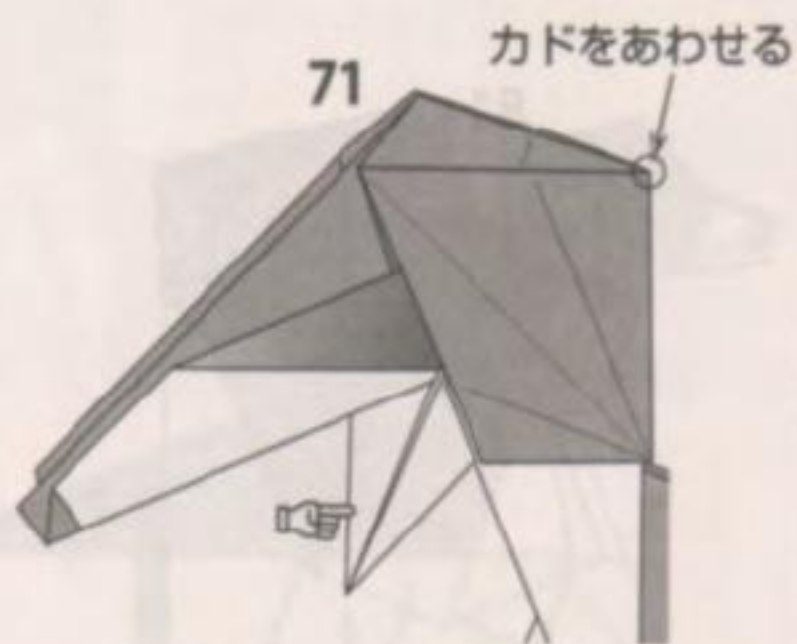


ついている
折すじ

ついている折すじを使って
耳の部分を広げて平らにする

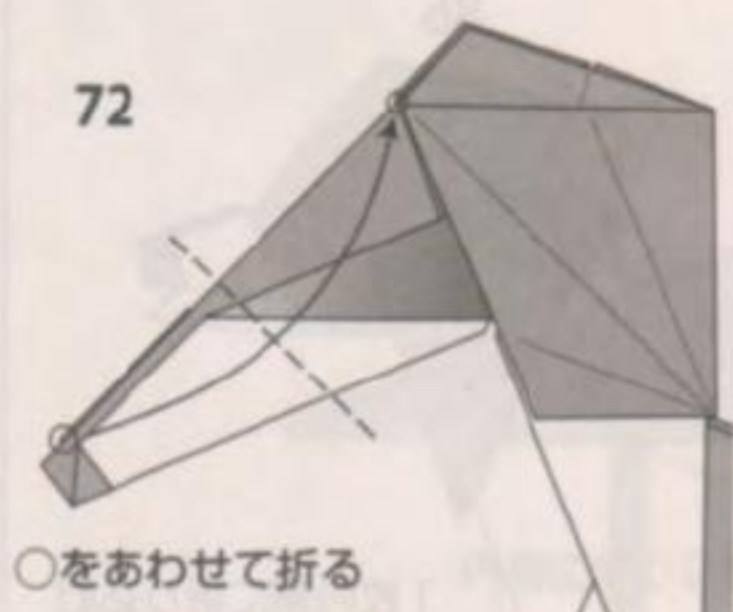


途中図



カドをあわせる

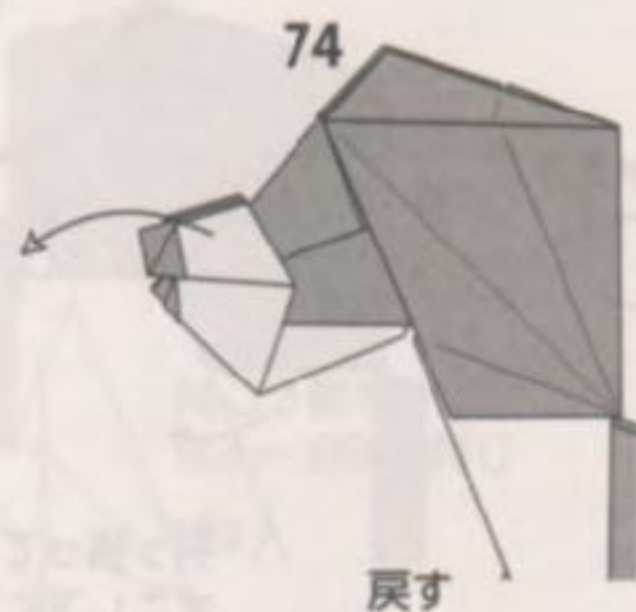
向こう側も67～70までと同じように折る



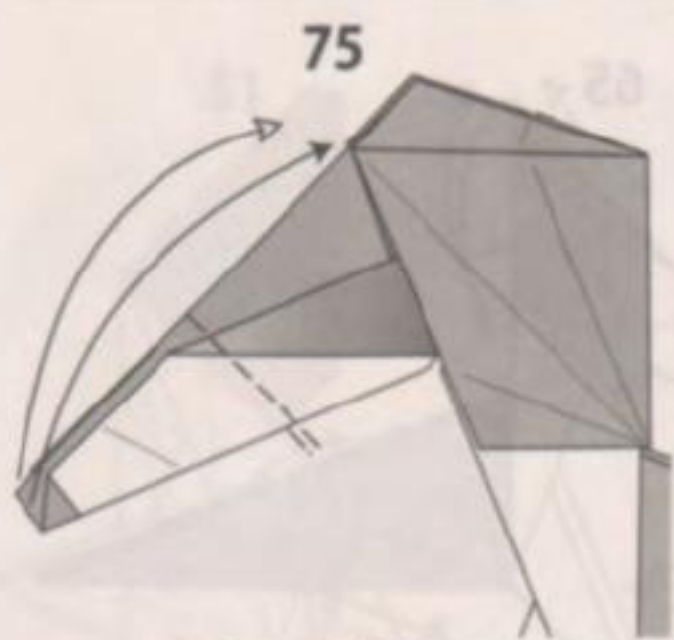
○をあわせて折る



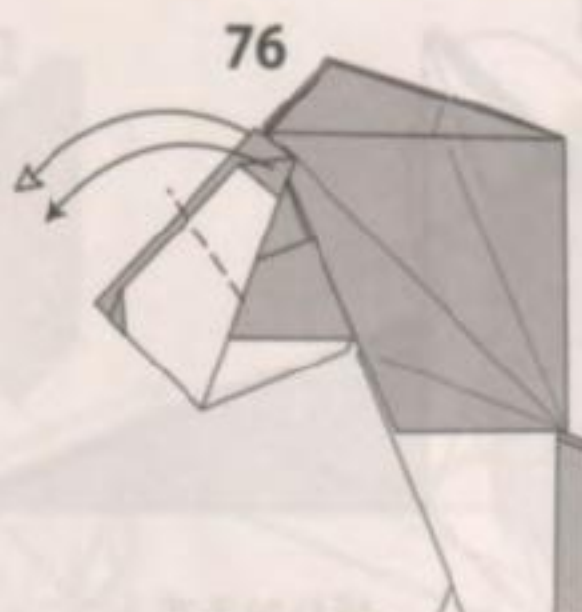
折り返す
気に入った
鼻の角度でどうぞ



戻す



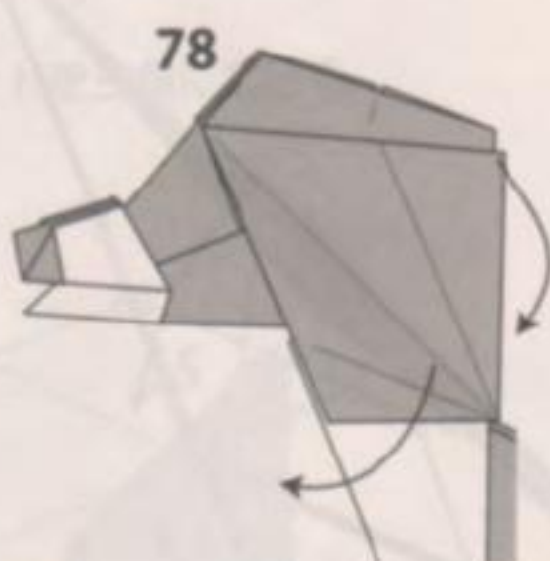
75
72 でつけた
折すじでかぶせ折り



76
73 でつけた
折すじでかぶせ折り



77
内側に折り込む



78
引っ張って
すこし下に下ろす



79
1 枚内側に折り込む



80
1 枚内側に折り込む



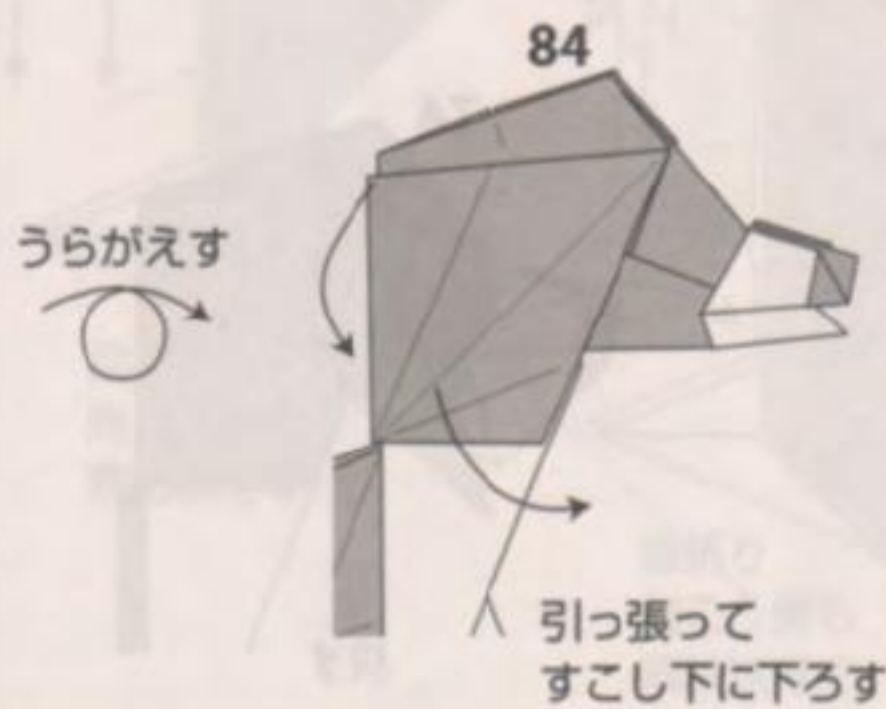
81
折すじをつける



82
78 で下げたところを元に戻す



83
82 まで折った形



84
引っ張って
すこし下に下ろす



85
1 枚内側に折り込む



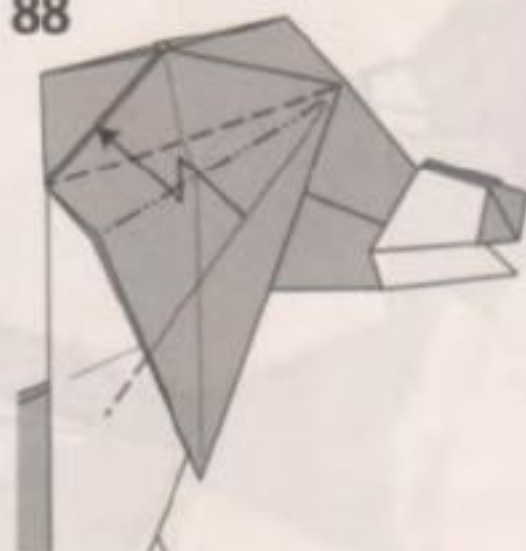
86
1 枚内側に折り込む

87



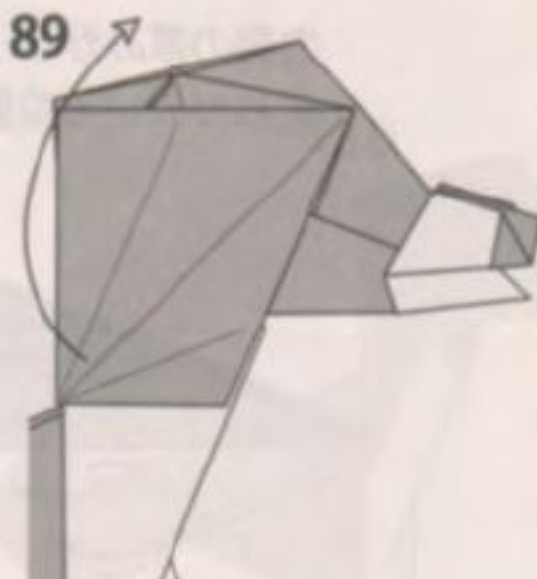
折すじをつける

88



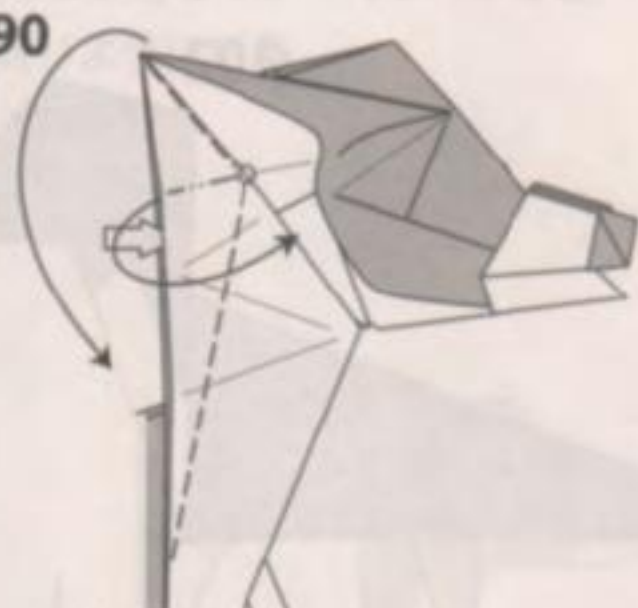
84 で下げたところを元に戻す

89



耳をあげる

90



1枚、首の色を
変えるために折るかえす
向こう側も 89 ~ 90 と同じ

91



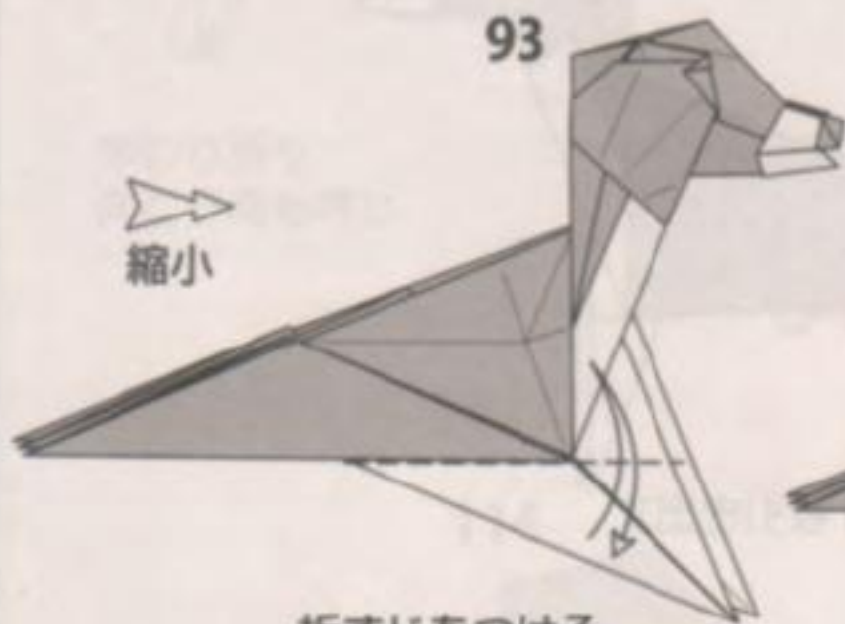
内側に折り込む
向こう側も同じ

92



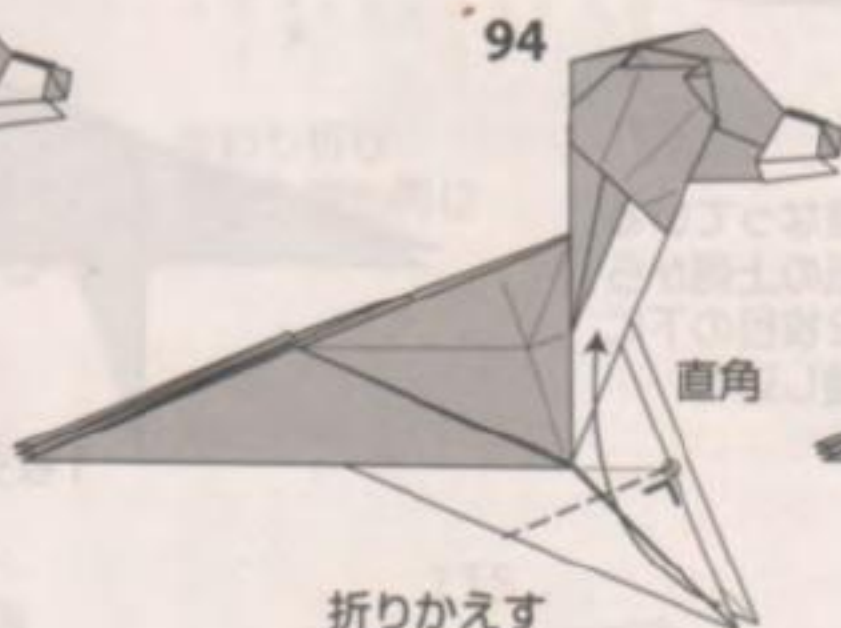
目の部分を折るかえす
向こう側も同じ

93



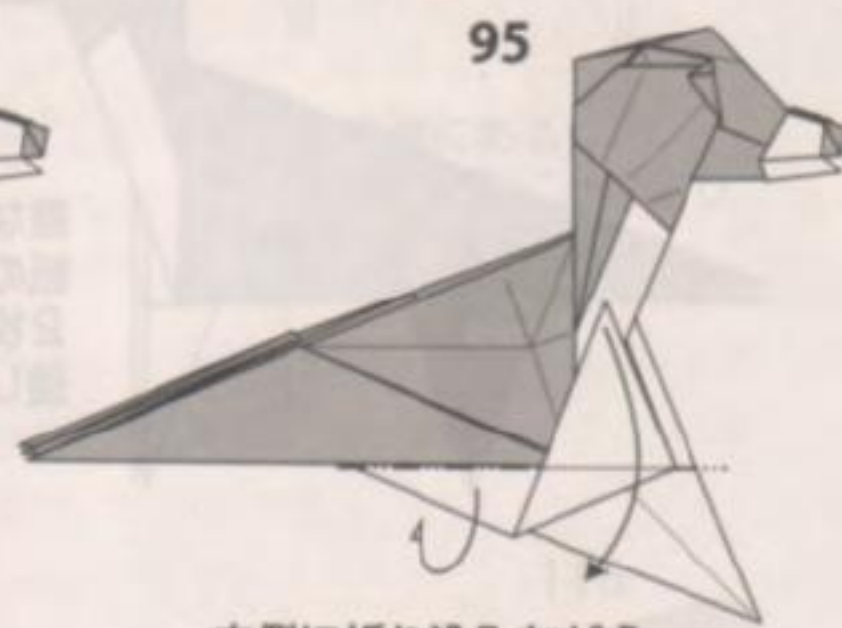
折すじをつける

94



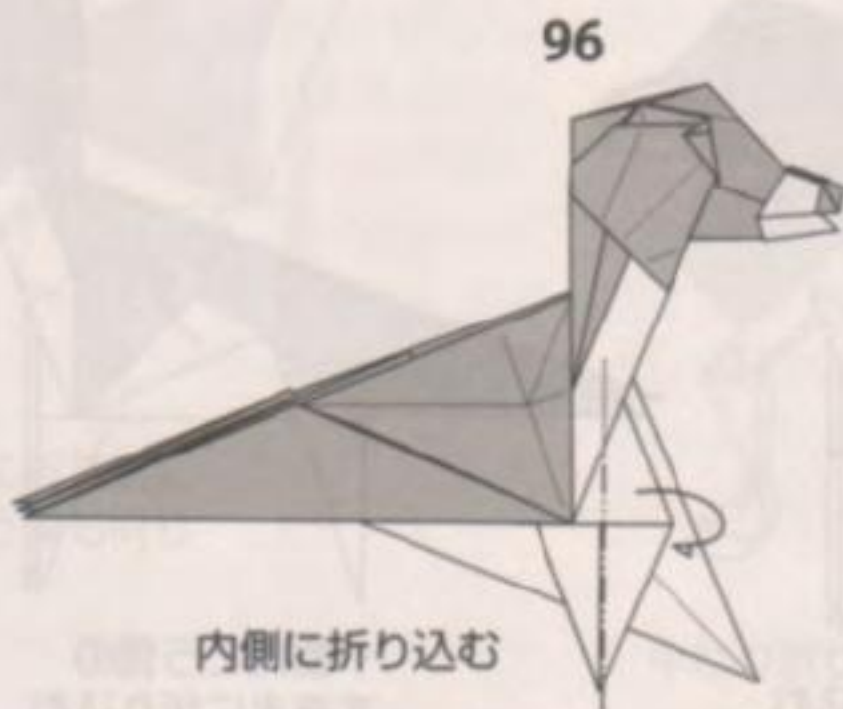
折るかえす

95



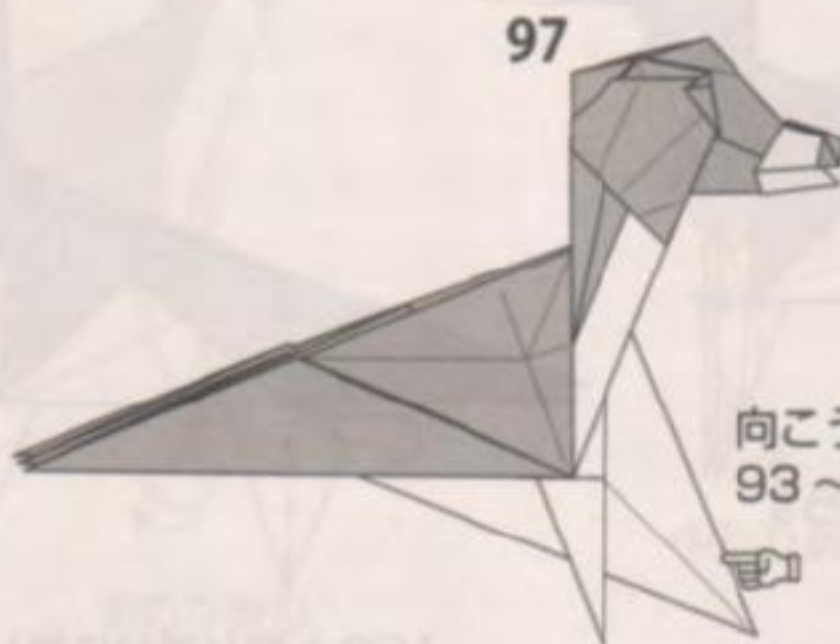
内側に折り込みながら
94 で折ったカドを下に下げる

96



内側に折り込む

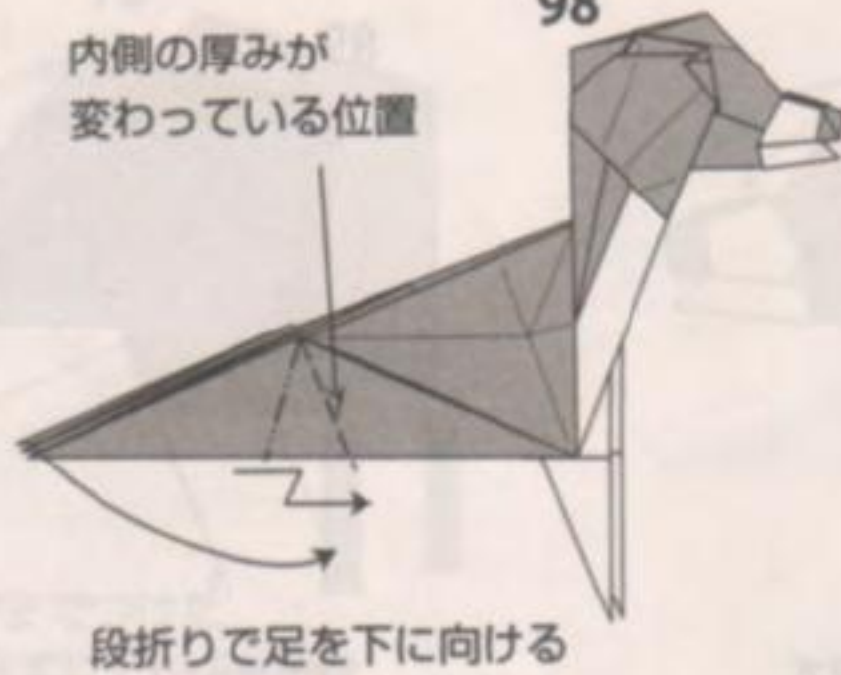
97



向こう側も
93 ~ 96 と同じ

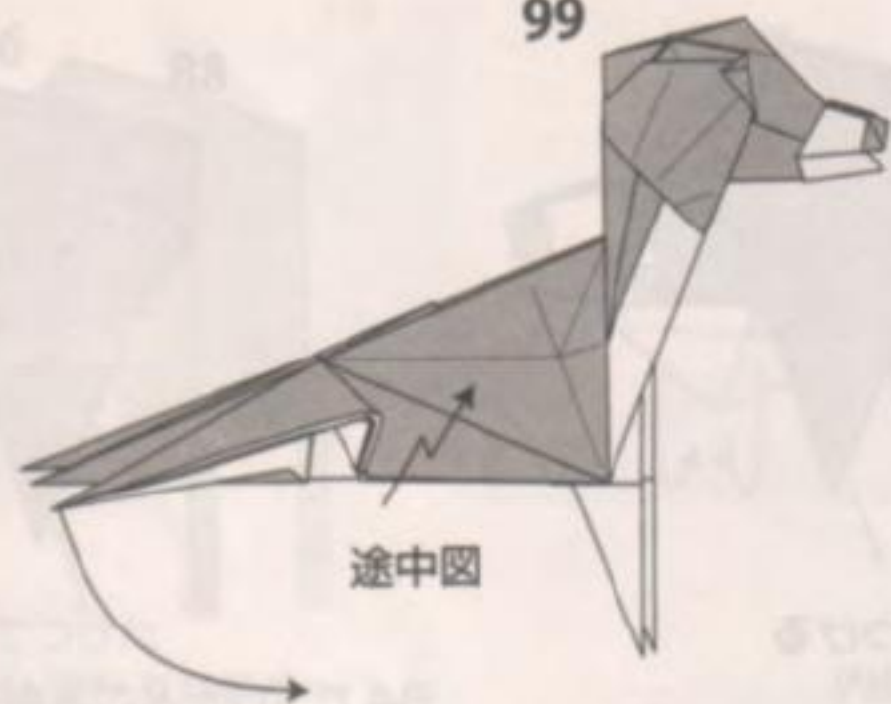
内側の厚みが
変わっている位置

98



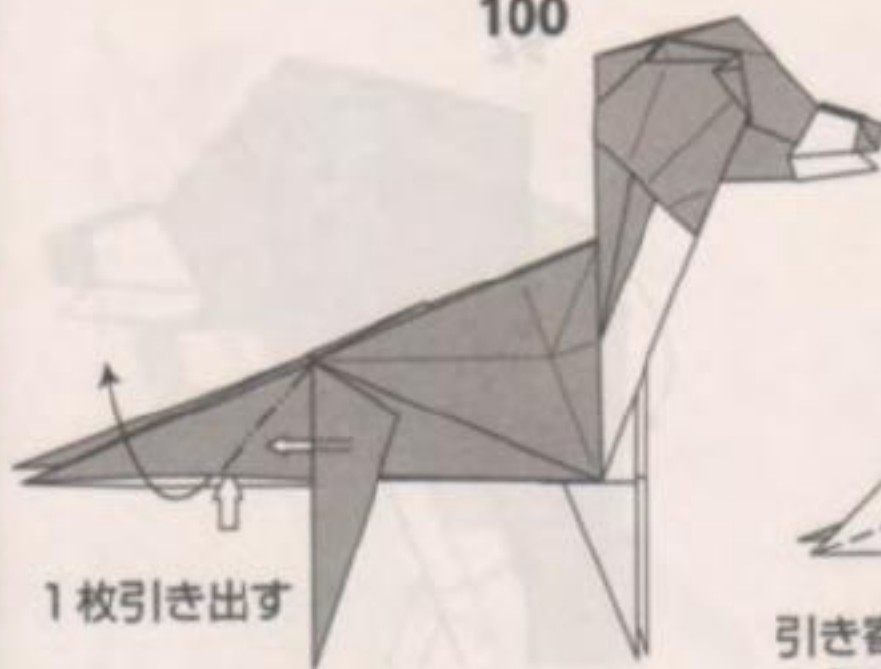
段折りで足を下に向ける

99



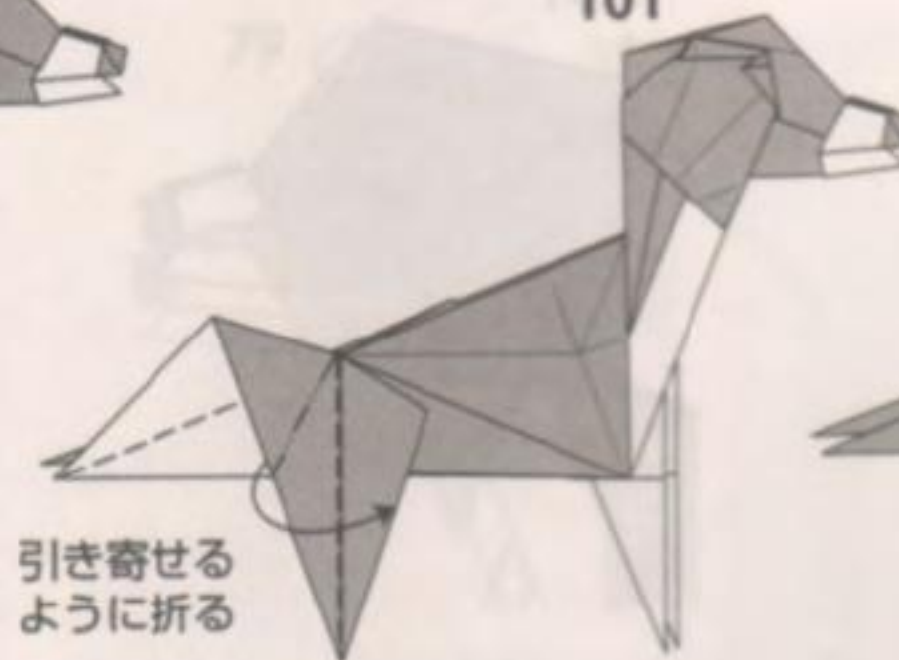
途中図

100



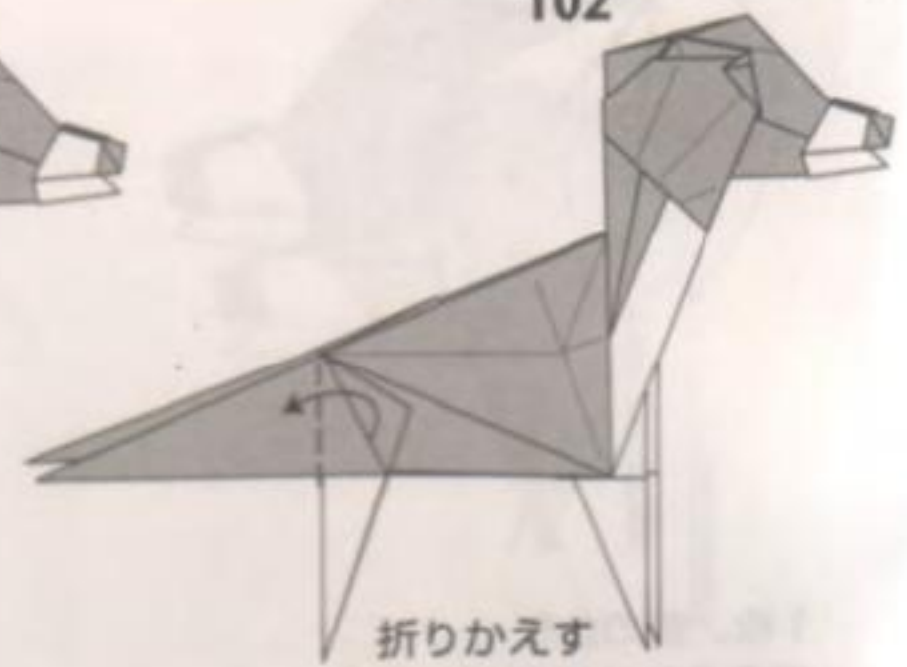
1枚引き出す

101



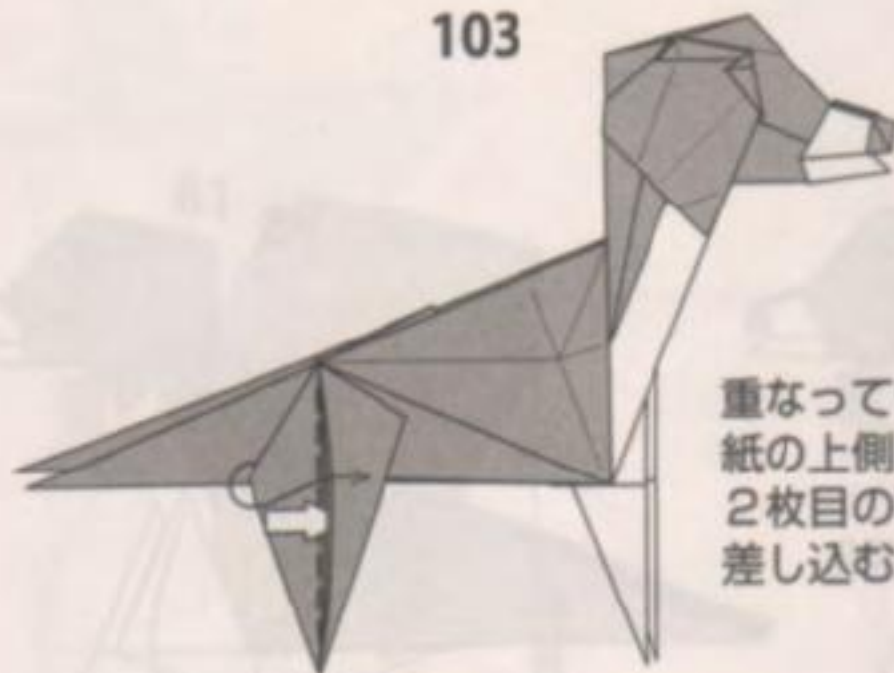
引き寄せる
ように折る

102



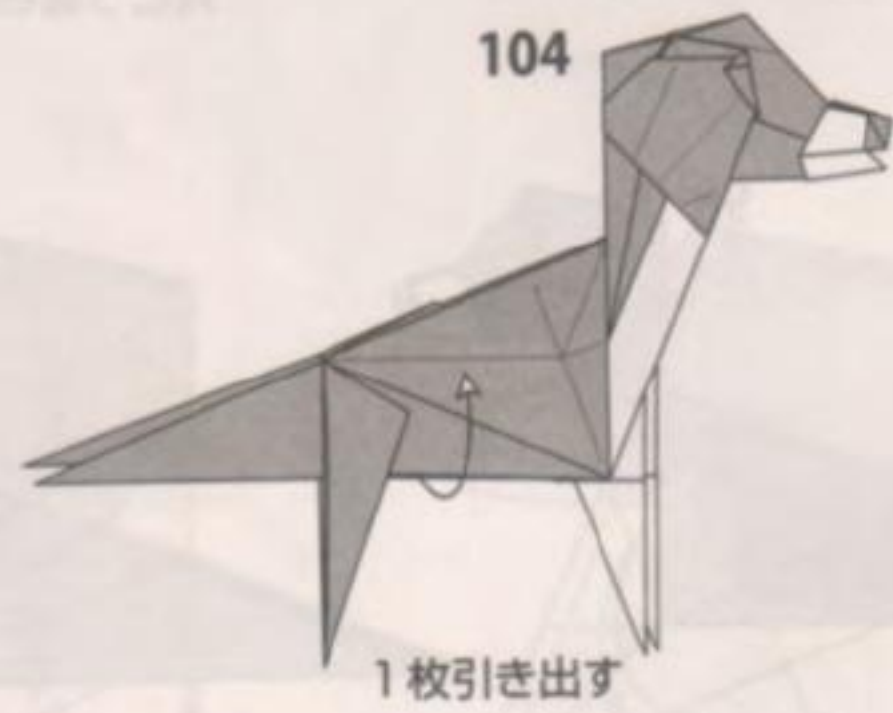
折りかえす

103



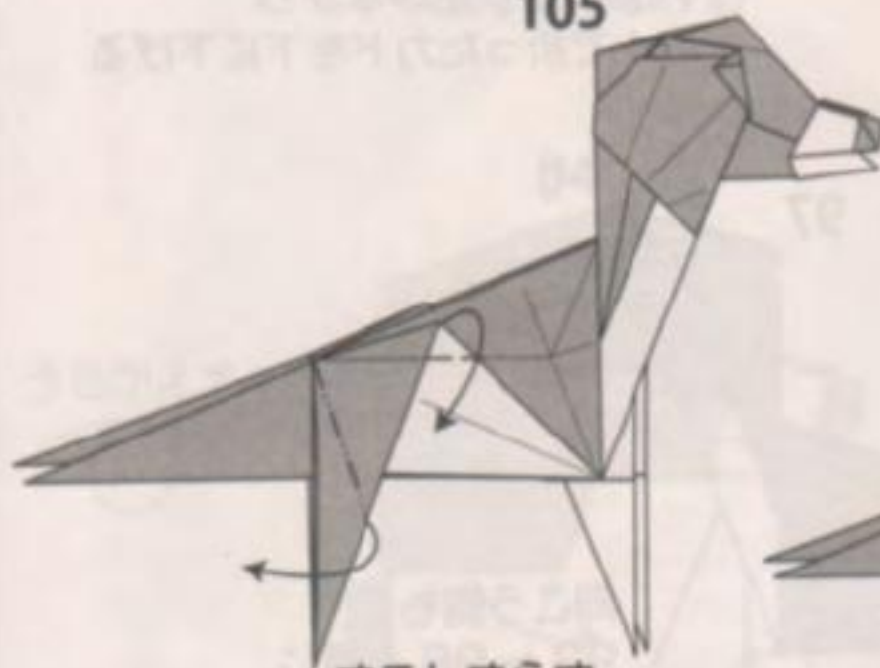
重なっている
紙の上側から
2枚目の下に
差し込む

104



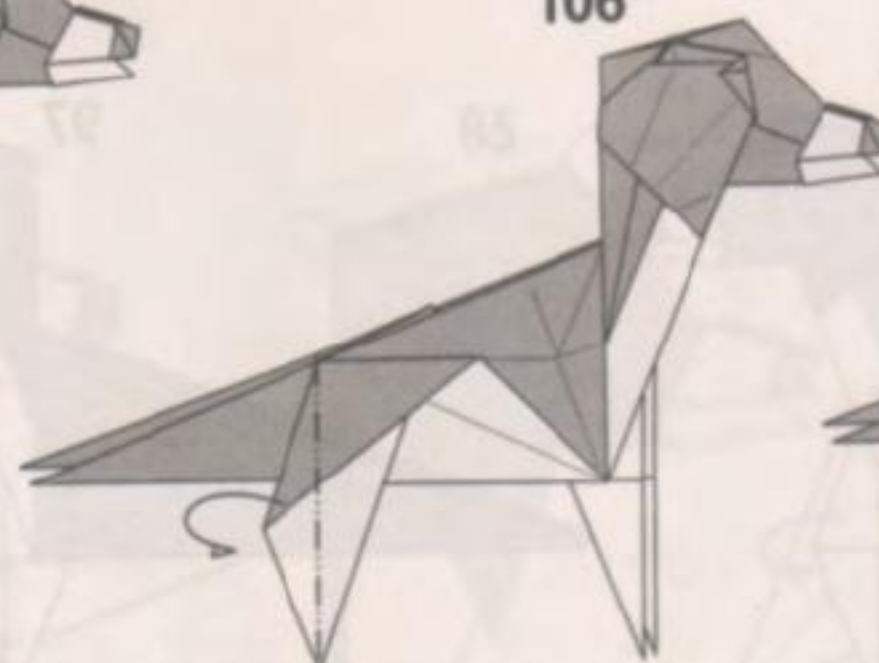
1枚引き出す

105



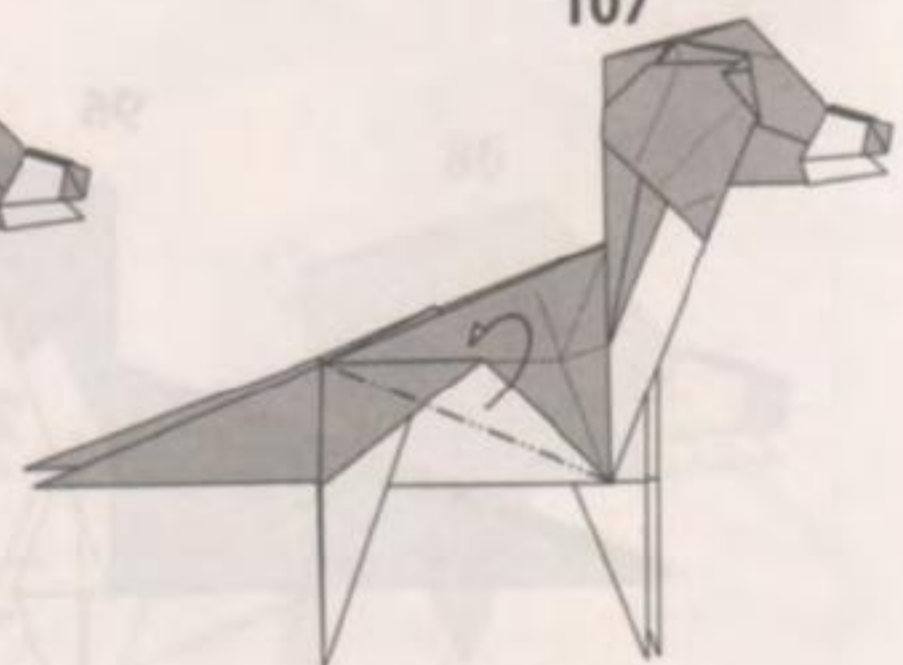
すこしずらす

106

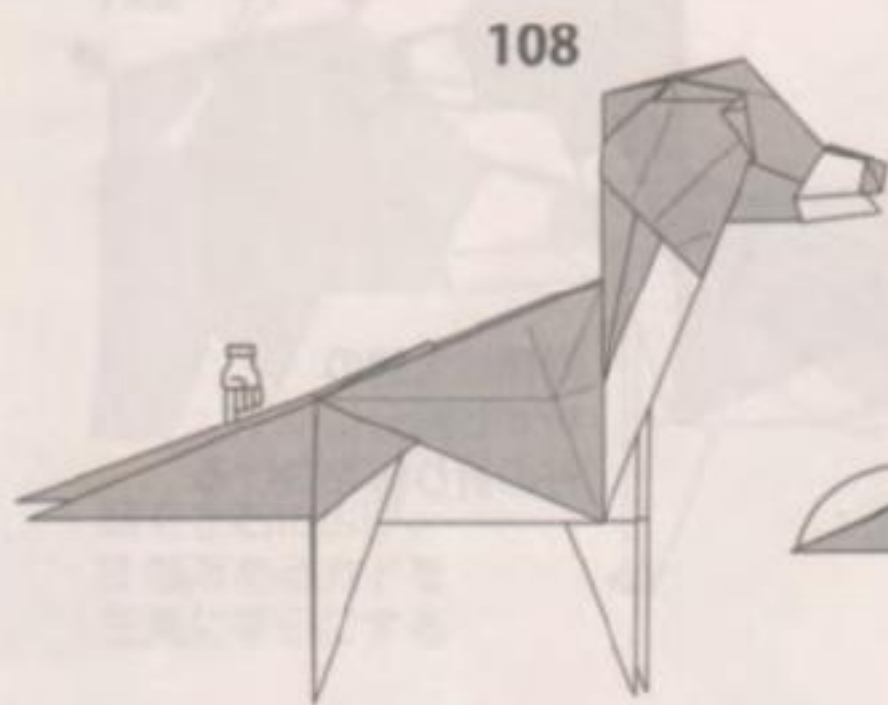


103と同じ部分に差し込む

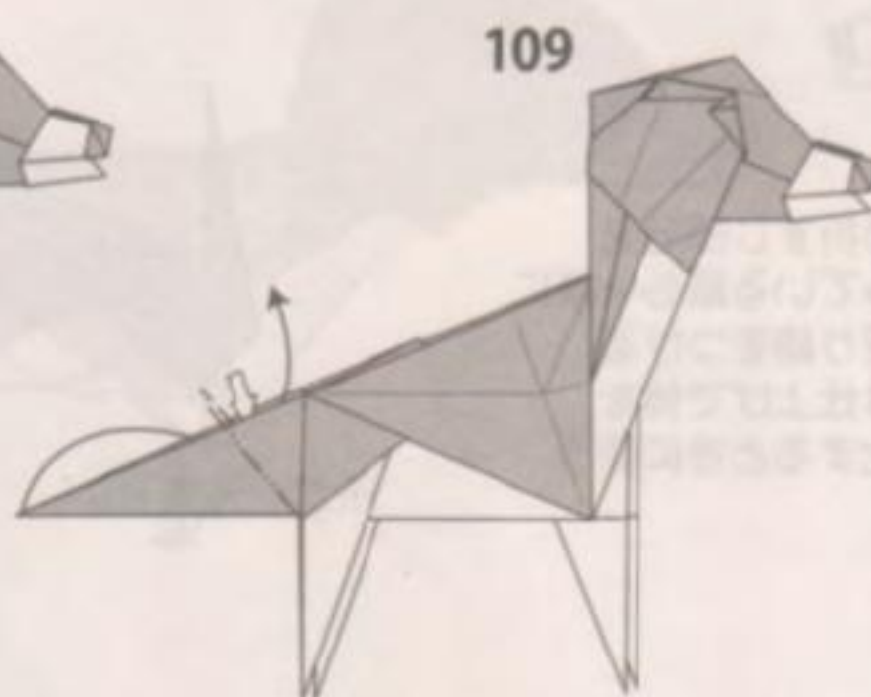
107



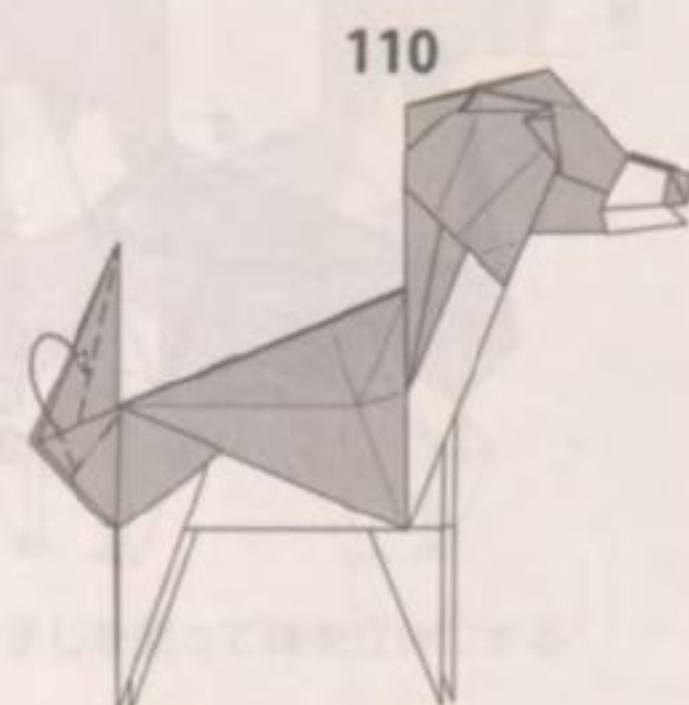
一番向こう側の
すきまに折り込む



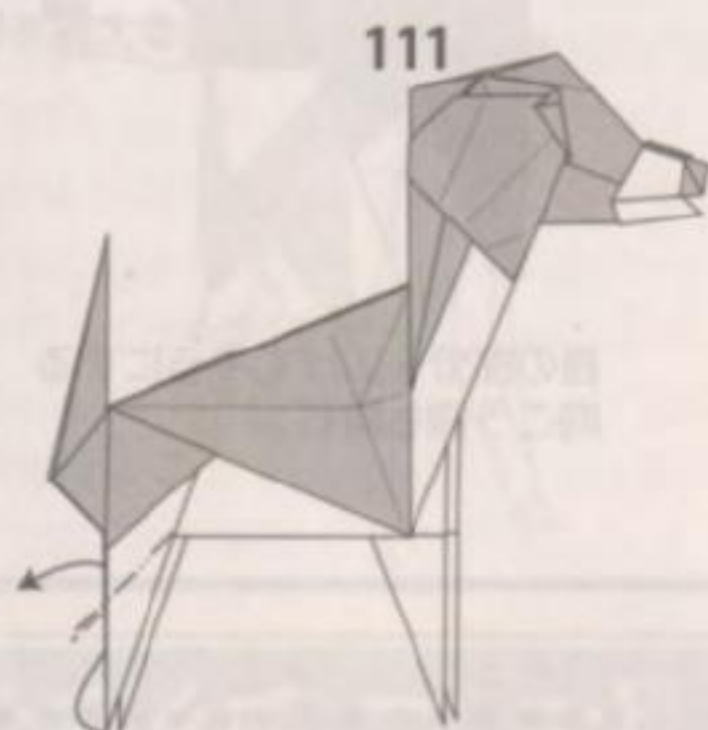
向こう側も 98 ~ 107 までと
同じように折る



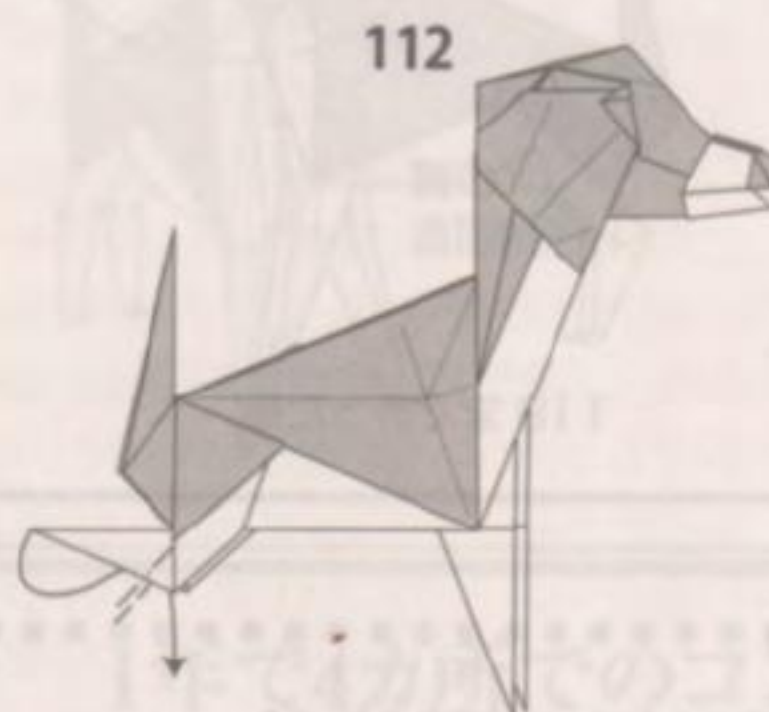
中わり折り



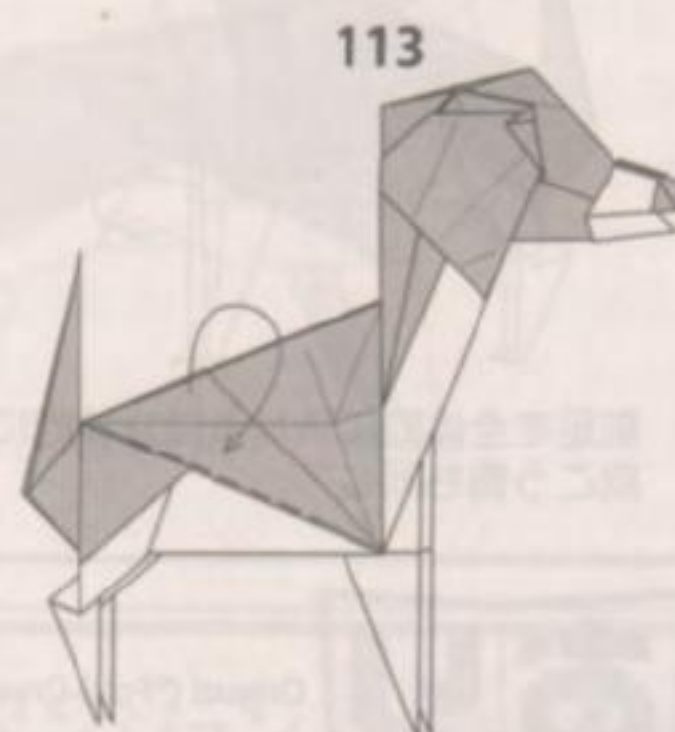
尾が細くなるよう
内側に折り込む
向こう側も同じ



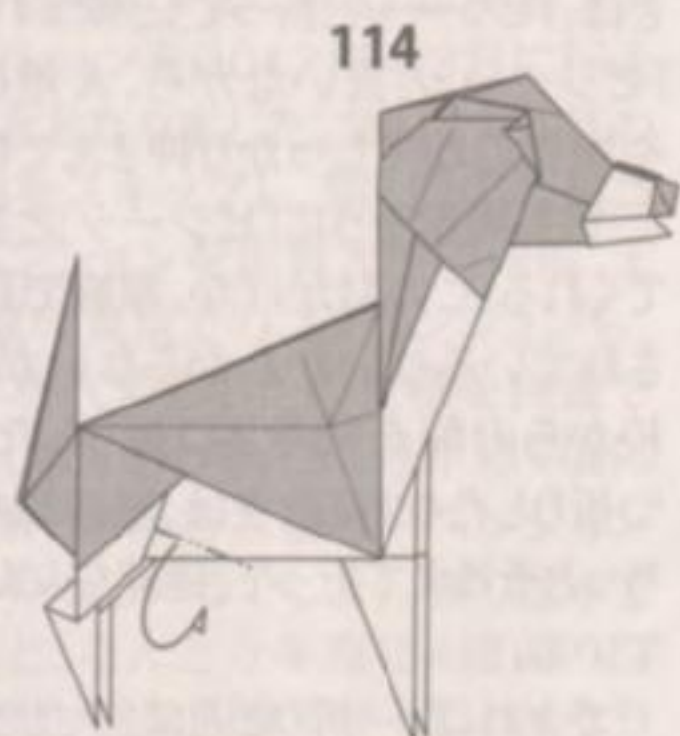
中わり折り
向こう側も同じ



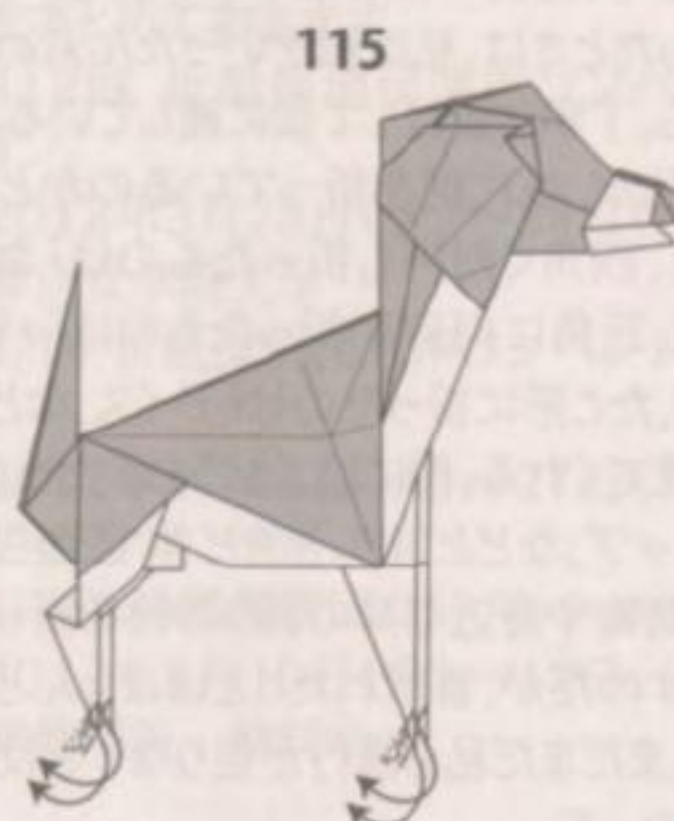
中わり折り
向こう側も同じ



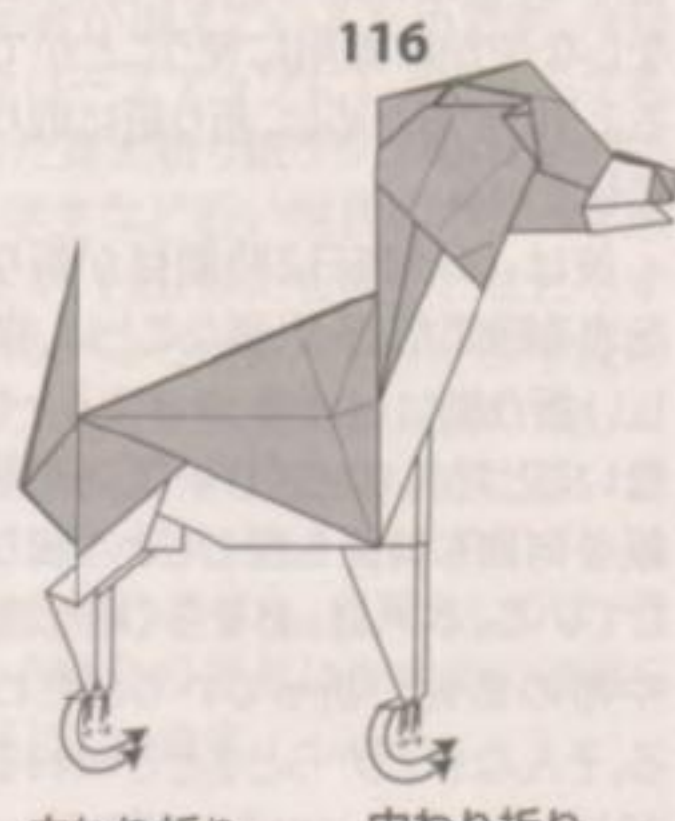
胴体の内側にある
ヒダを折り込むことにより
体の開きを止める



内側に折り込む
向こう側も同じ



中わり折り 中わり折り



中わり折り 中わり折り



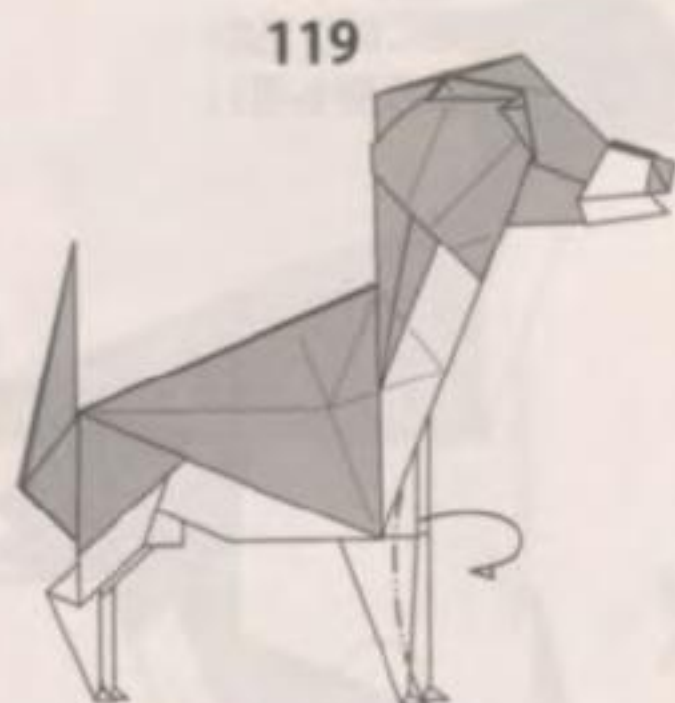
117

太線の折すじ部分を
重なっている紙も一緒に
山の折り線をつける
これは仕上げで体を
3D化するとき使う



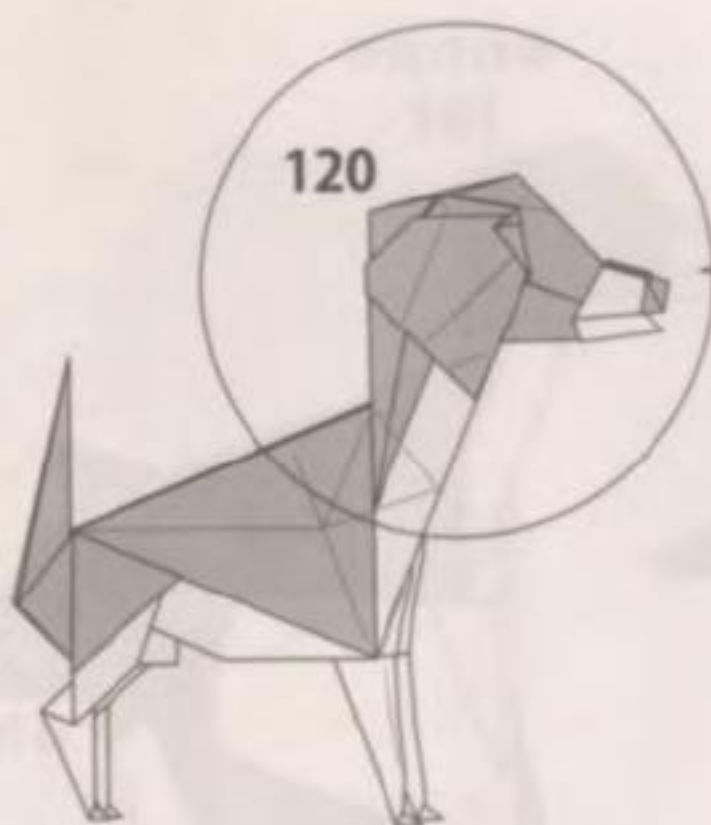
118

同様に太線の
折すじ部分に
谷の折り線をつける



119

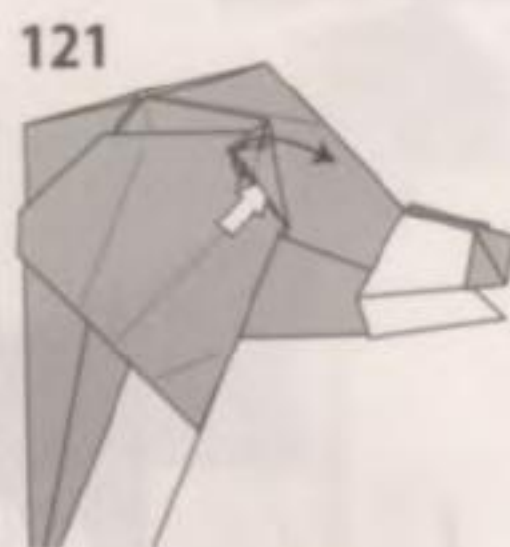
前足を全体的にスリムに立体的に
向こう側も同じ



120

119 まで折った形

拡大



121

目の部分を広げて平らにする
向こう側も同じ

おり すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙の可能性

Origami: Extension and Expansion to
Education and Development

梅本吉広

Umemoto Yoshihiro

今、小学校低学年の折り紙好きのAさんから私が学んでいることを報告する。彼は、知的障害があり、指先をしなやかに器用に使うことができるようにするために、折り紙に取り組ませている。

彼は、ほぼ毎日2時間目が折り紙をする時間だ。不思議なことは、真新しい折り紙には手をつけようともしないことだ。いつもくしゃくしゃの折り紙を何回も何回も畳むことを繰り返している。本人は、おそらく紙を皮膚や布の感覚で折っていると思われる。そんな紙だからときどき破れるのだが、その度にセロテープを貼って、またもくもくと作業するのだ。見た目はつぎはぎのよれよれの紙が彼の

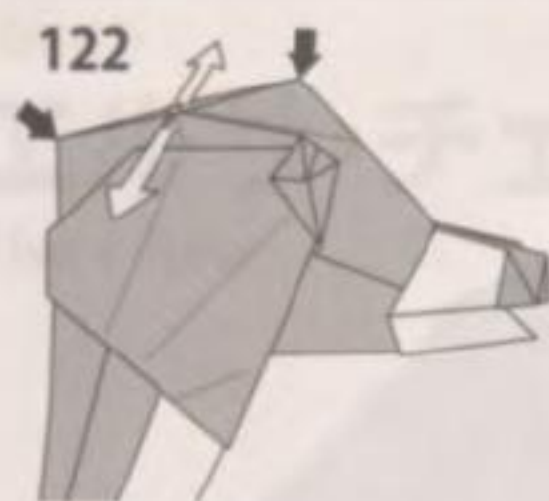
宝物なのだ。私のようにぜいたくに高価な紙を無駄にしているのとは大違いだ。だから、宝物の紙がどうしても使えなくなったときは、私は紙をいったん丸めてから、丁寧に延ばして彼に渡している。

私が、彼に何を折っているのかと聞くと、四角く何回も折ったものは「おもち」、三角に何回か折ったものは「バナナ」、たこ形に折ったのは「アイス」などと答えてくれる。他には、「おうち」「たまご」「コップ」などと言う。ときどき、私から彼に動物や身近な身の回りの物を折って渡すのだが、喜ばれたことはほとんどない。まだまだ私も修行が足りないと反省している。

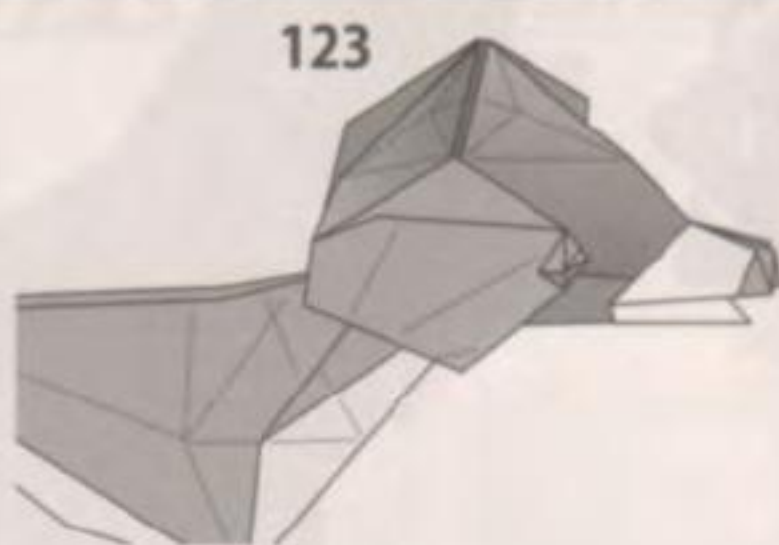
私が、彼に教えたことと言えば、「ビシーッと折る」くらいなことだ。彼がしっ

かり押さえて折ることができないときは、「ビシーッと折って」と頼まれる。「ビシーッ」と言いながら、人差し指や親指の腹でしっかり押さえて折ると、彼も満足そうに「ビシーッ」と答えてくれる。このおかげか、家庭で指導されているせいかわからないが、学校からの配布物を2つ折りしたり4つ折りしたりするとき、紙の端をきちんとそろえて折って、連絡袋にいられている。

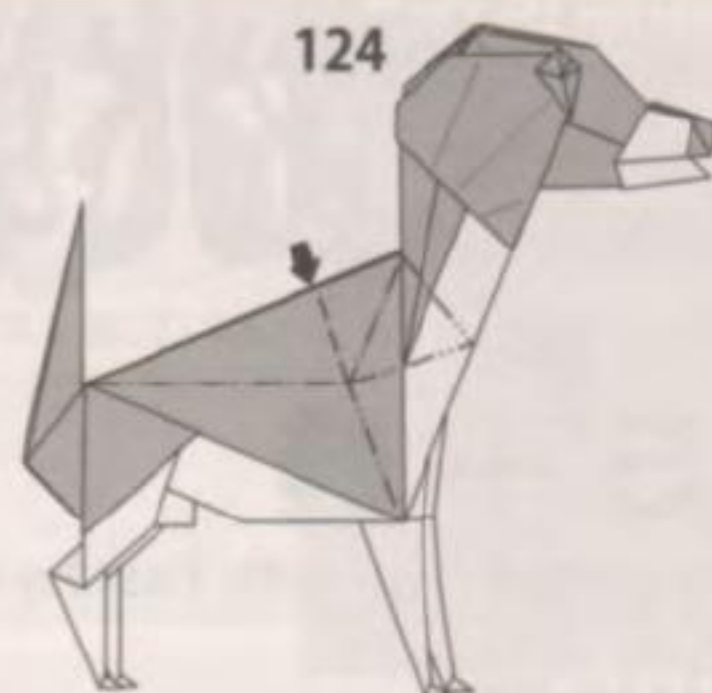
できれば、一折りごとに2人で交替して何か作りたいのだが、彼は一人で折る気持ちが強いのでなかなかうまくいかない。彼がたくさん言葉を覚え、物を「見立て」て自由に折り紙ができる日を楽しみに待つことにする。



122
頭を左右に広げ、
2箇所あるカドを
三角に平らにする



123
122 を折った形



124
折すじを使って体を立体にする



125
胸の部分を
前に押し出して
広げ
同時に首を
左右から押して
形を整える



126
胸の
造形の形



127
できあがり

折紙三昧 57

Origami-Zanmai (This Origami and That)

1年で4カ所でのコンベンション

Four Conventions in a Year?

126号のJOASからのお知らせでは、正式にお伝えすることができなかったのですが、第12回関西コンベンションを2012年の3月に行えることとなりました。2011年5月の関西をスキップし、第1回の九州コンベンションを佐賀大学で開催。また、夏の東京でのコンベンションも、大学を代えて中止の危機を回避できました。そして、この号が届く頃には、第7回の名古屋コンベンションも終わっているでしょう。振り返ってみると、なんと今年度は4度のコンベンションを開催できることになります。東京、九州、名古屋、関西といえば大相撲と同じ開催場所ということになりますね。コンベンションは、毎回、会場の手配やプログラムなど苦労も多いのですが、いっしょに折

り紙を楽しむこの大切な機会を維持すべく、各コンベンションの世話役の皆さんの努力が実を結んでいるのです。以下、これからのコンベンション日程をまとめておきます。

・第12回 折紙探偵団関西コンベンション

2012年3月23日(金)～24日(土)
神戸女学院大学

・第2回 折紙探偵団九州コンベンション

2012年5月26日(土)～27日(日)
佐賀大学 予定

・第18回 折紙探偵団コンベンション
2012年8月10日(金)～12日(日)
開催場所 検討中

さて、東京友の会でも、10月、11月の例会への参加者が50名近くになっ

てJOASホールで友の会例会を行うようになってからの記録更新が続いています。理由は、中高の折り紙部の部員をはじめ小中高の熱心な参加者が増えているためです。今号のクローズアップにレポートしてもらった東大折り紙クラブのOristといい、学生など若い世代のパワーを感じます。128号にも書いたことですがコンベンションや例会、各学校のクラブなど参加型の折り紙の楽しみ方が活況を呈しており、特に若い世代にその傾向が浸透してきているのかも知れません。先輩としては、そういう機会の提供にますます頑張らねばと思います。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第74回

15°- 蛙

15 degrees Frog - with Thanks to Robert

西川誠司

Nishikawa Seiji

Created : 2011/09

Paper Size : 20cm×20cm

Length: 13cm



この8月にRobert Lang氏が、折紙探偵団コンベンション〜韓国折紙協会のコンベンションに続くツアーで来日しました。折紙探偵団コンベンションでは非常に興味深いLang氏の講義を受けることが出来ました。講義の内容は、11月に出た『Origami Design Secrets - Second Edition』でも紹介されています。円領域と帯領域による設計(Circle/river method)を多角形系に洗練する方法論とプログラムに関するもので、円を正六角形に置き換える作例として講義では新作「Frog(蛙)」が披露されました。正六角形の領域を意識することは、15°系の折り紙を考えるための根幹をなす考え方のひとつで、私自身は円領域や帯領域を経て創作することはほとんどありませんが、折り線構造を理解する上でとても参考になりました。本作はその講義とLang氏の作例に触発されて創作したものです。講義を聴きながら、「私ならこうするな」などと心の中で蛙の創作を始めてしまい、基本構想を固めました。9月に作例と展開図をエピソードとともにLang氏に送って、Lang氏の作例とは趣向の異なる構図であるとのコメントをもらいました。その際、メールで疑似正方形(the near-square proportion)って面白いよねと、ひと盛り上がり。本作も展開図の上に記したように、正確には約0.7%横が短い疑似正方形作品となります。15°系を

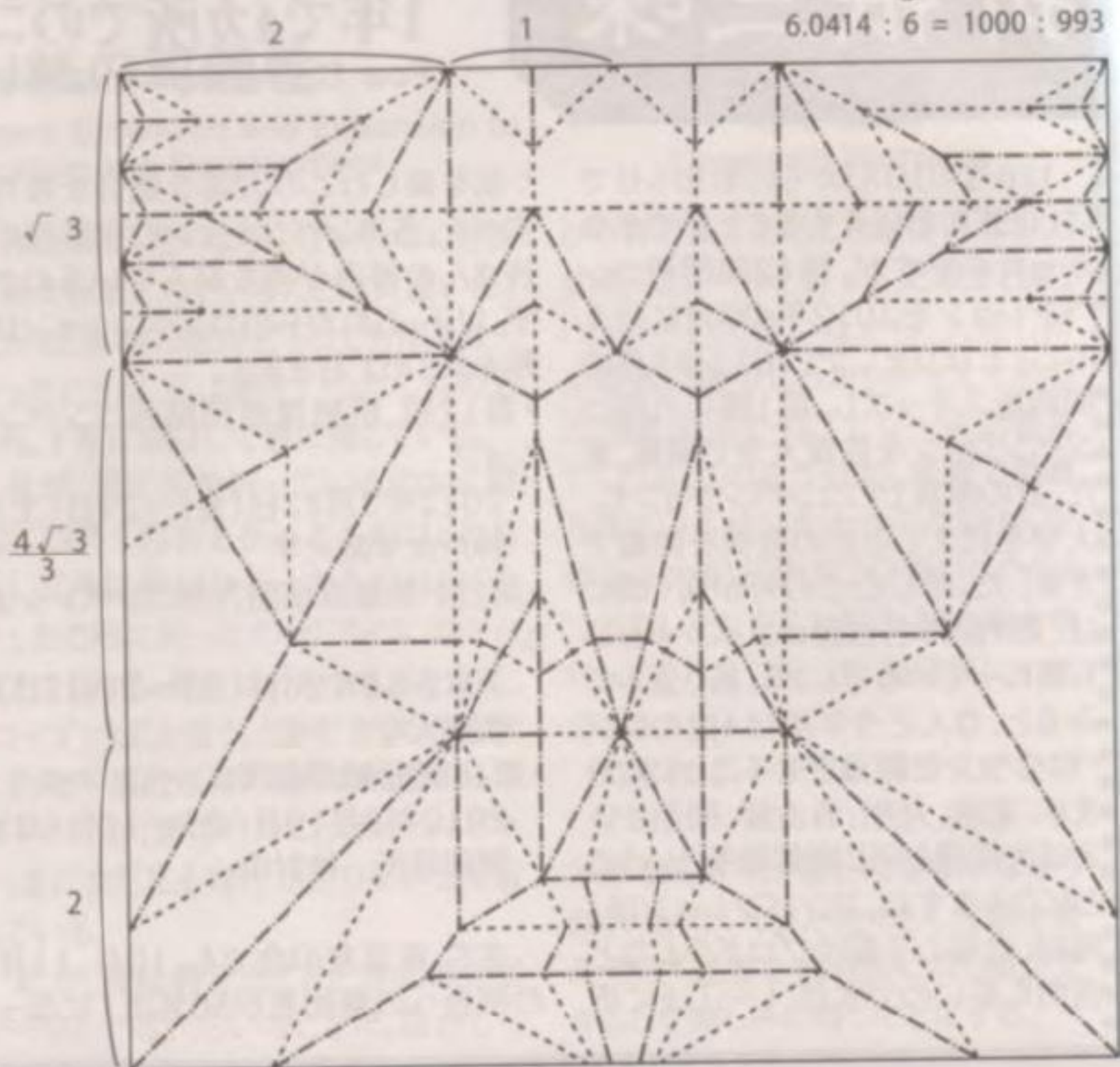
始めて以来Bookタイプの位置取りでは結構出くわす疑似正方形(例えば本誌95号の拙作「ショウリョウバッタ」など)ですが、最近ではピッタリよりちょっとずれるのを期待する傾向もあるくらい。

展開図は山谷も入れてあり、このコーナーとしてはかなりシンプルな部類でしょうから、再現は容易でしょう。閉じた沈め折り(Closed Sink)など、展開図にすると非対称な部分があって、

とまどう人もいるかも知れませんが、Closed Sinkは、折り手順にすると非常にスムーズな場合も多く、本作も結構面白い折り手順があります。Lang氏の「Frog」は、『Origami Design Secrets - Second Edition』には未収録ですが、近いうちに本誌でご紹介出来ると思います。展開図の構図の違い等をあわせて楽しんでいただければと思います。

$$\frac{6+7\sqrt{3}}{3} = 6.0414$$

$$6.0414 : 6 = 1000 : 993$$



File-45

エルサ・チェン

Elsa Chen

○エルサ・チェン(Elsa Chen)= マサチューセッツ州アーリントン在住。世界各地のコンベンションに参加し、特に日本のコンベンションに毎年参加している。



・折り紙を始めたのはいつですか。

子どもの頃に母から教えてもらいました。簡単な伝承作品です。私の父は、台湾、日本、ブラジルなどの大学で教えており、母が日本から、笠原邦彦さんの本を持ってきていました。実は、母は笠原さんの本を中国語に翻訳して出版したことがあります。ただ、私が4歳の頃なので、そのときのことは覚えていません。

・その後も折り紙を続けていましたか。

特に折り紙を続けていたわけではありませんでしたし、笠原さんの本以外の折り紙は知りませんでした。

テネシー州ノックスビルの高校に通っていたときに、同じクラスに転校してきた人が折り紙の好きな人で、ロバート・ハービンさんやエリック・ケネウェイさんの本を教えてもらいました。パトリシア・クロフォードさんの作品や、ちょうどその頃に最初の本を出版したジョン・モンテロールさんの作品が好きになりました。

大学はマサチューセッツ工科大学(MIT)に進み、ジニー・モズリーさんやアン・ラビンさんの折り紙教室にも参加しましたが、折り紙にはそれほど熱心ではありませんでした。折ったり折らなかつたりでした。

就職してから、職場のシステム管理者が折り紙のメーリングリストを

見つけ、知らせてくれました。そこで、OrigamiUSAがコンベンションをしていることや、世界中で折り紙が折られていることを知り、毎日折るだけでは足りないほどになりました。

・どんな作品が好きですか。

コンプレックス作品を折るのが好きです。主に動物や空想上の生き物ですね。ただし、自分ではあまり折るのがうまいとは思っていません。中級レベルだと思います。折り図や展開図から折るのが好きなのですが、展開図からはなかなか完成させることができません。また、ユニット折り紙にも興味があります。

・日本のコンベンションに毎年参加していますね。

それは、コンプレックス作品を折るのが好きなためです。日本はコンプレックス折り紙が始まった地ですし、コンベンションでコンプレックス作品が中心になっているところは、ほかにはあまりありません。

展示されているコンプレックス作品を見るのも好きですし、驚くような作品を作家たちが常に創作しているのを見ることも好きです。工程そのものにも関心があるので、講習を受けるのも楽しみです。ただ、時間内に完成できないこともあります。

最近になって、フランスで「Ultimate Origami Convention」というコンプレックス作品中心のコンベンションが始まりましたが、そこにも参加したことがあります。ニューヨークのコンベンションにも毎回参加していますが、そこでは中級の作品がほとんどで、コンプレックス作品がほとんどありません。

東京とニューヨーク以外のコンベン

ションにも参加してゆきたいと思っています。最近では、オーストラリアのコンベンション、シンガポールの国際会議とその後のコンベンション、東海岸のPCOCにも参加しました。

・コンプレックス作品以外に、日本に対する興味はありますか。

父が日本の教育を受けたこともあり、日本で教育に折り紙がどのように使われているかということに興味があります。また、日本の街を歩くのは好きです。

・MITと言えば、折り紙クラブ「OrigamiMIT」が活動していますね。

OrigamiMITの集まりには、できるだけ参加するようにしています。ただ、私は創作をしませんし、教えるのも苦手なので、本当に参加するだけです。折り紙コンテストがあるときは、審査員の1人を務めています。

OrigamiMITは、ジェイソン・クーさんが代表になってから、活動が年々盛んになり、吉野一生さんの骨格作品で巨大折り紙を作ったり、今年の11月にはミニコンベンションを開く予定です。カリフォルニア大学バークレー校のCal Origamiも同時にミニコンベンションをする予定で、最近の学生たちの活動は素晴らしいと思います。これからもできる限り応援したいと思います。



第17回折紙探偵団コンベンション懇親会にて行われたビンゴでの豪華な景品に驚くエルサさん



作品
「Elsa's Swan」
フォース氏と共同で創作した
マイケル・ラ

Rabbit Ear つまみおり

Information



▲リアル展示の作品投稿者に贈られるWOD記念ストラップ



▲岩佐悠平



▲宮本知英

2011 World Origami Days

マルシオ 野口 (OrigamiUSA評議員)

2005年9月、OrigamiUSAから、British Origami SocietyやOrigamiUSAの創設者のひとりであるリリアン・オッペンハイマー(1898-1992)さんの誕生日である10月24日を「World Origami Day(世界折り紙の日)」としたいとの提案をしました。それに対して、山口真氏は日本には11月11日を「おりがみの日」としてきた歴史があり、10月24日から11月11日の期間を「World Origami Days」にすることを発案しました。

2008年からOrigamiUSAにWOD委員会が創立され、「世界中の多くの人々にもっと折り紙を知ってもらおう」との目的を掲げました。そして10月24日から11月11日の期間、主にウェブサイトで世界中から折り紙イベントや個人的な折り紙活動を収集・発信する活動を続けました。2009年からは、委員会ではWODのためにさまざまなコンテンツを作っています:WODポスター、イベントカレンダー、WODメッセージ入りのテン

プレート、ウェブサイトの写真館などなど。

2010年になって、OrigamiUSAのWOD委員会は小規模ながら本格的に世界に向け「世界中の多くの人々に折り紙を知ってもらおう」というWODのメッセージを広げ始めました。その結果、ハンガリー、インド、コロンビア、ブラジル、パナマ、さまざまな国からWODイベントの報告が届きました。もちろんアメリカ国内でも、ニューヨークの自然史博物館でリリアン・オッペンハイマーの誕生日のイベントを行いました。アリゾナのTucson Origami ClubからはWOD期間中の10月29日に会員のRachel LoubeauとErik Glennの結婚式が行われたという報告が届きました。パーティーには「Kissing Ball」(薬玉)や川崎ローズが飾られたそうです。

今年2011年、このWOD活動をより大きく広げるため、OrigamiUSAとJOASとが連携して進めることとし、具体的な内容がまとまりました。

折紙探偵団コンベンションで山口氏・西川氏らと会議した結果、WODのロゴ、世界中から来年の干支の龍およびドラゴンの作品写真募集、そしてギャラリーおりがみはうすでリアル展示する予定が決まりました。現在



▲上田憲治



▲小野友彰



▲田中幹人

見られるWODのロゴは山口氏がデザインしました。作品写真募集では、OrigamiUSAおよびJOASの写真館のウェブページが作成されました。

今後も、JOAS・おりがみはうす・OrigamiUSAの間の相互協力を続けて「世界中の多くの人々にもっと折り紙を知ってもらおう」メッセージと折り紙の楽しさを広げたいと思います。



第11回折り紙の科学・数学・教育研究集会

担当:前川淳

第11回折り紙の科学・数学・教育研究集会を、下記の要項で開催します。

日時:12月4日(日)10:30から16:00まで
(昼食は各自)

場所:JOASホール(東京都文京区白山
1-33-8 朝日マンション2F)

参加資格:なし

参加費:1000円

主催:日本折紙学会

詳細:<http://www.origami.gr.jp/OSME/1112.html>

発表者・発表内容は、現在調整中ですが、下記を予定(11月7日現在)しています。館氏、川崎氏の発表は数学、三谷氏、鶴田氏の発表はコンピュータサイエンス、三浦氏、奈良氏の発表は工学、松浦氏の発表は教育、上原氏の発表はその他ということになります。このほかにも短時間の発表などが予定されています。要約を読むと、「なんだか難しそうだな」と思われるかたが多いかもしれません。じっさい、専門的な内容も含まれますが、参加・聴講されれば、折り紙への関心がさまざまな世界へつながることが実感できるでしょう。

◎上原隆平:(不)可能折り紙の分類と系譜と作り方

要約:パズルの中には不可能物体と呼ばれる一群がある。一見、作成が不可能に見える「実物」があり、それを再現するパズルである。こうした不可能物体としての折り紙がいくつか知られていて、デザインの的に面白いものもある。本発表では、こうした不可能物体の一部、特に市松模様について、分類や作りかたを紹介する。

◎館 知宏:展開図からの剛体折り判定 - 渡邊予想の反例

要約:折り紙の連続かつ有限範囲の剛体折り条件はその内在的なパラメータである展開図によってのみ決定すると考えられるが、その必要十分条件は未解決の問題である。渡邊はこの条件を、各セルの有向面積が0であるレシプロカル図が存在することと予想した。本発表ではこの予想の反例を示し、零面積レシプロカル条件は剛体折り条件の必要条件であるが十分条件ではないことを示す。この反例の持つ性質に着目し、展開図からの剛体折り判定について考察する。

◎川崎敏和:折り紙作図の普遍化に向けた基本操作の再構築

要約:折り紙作図の基本操作は、平面の場合は8つ、球面の場合は4つある。本発表ではまず、平面と球面の統一を試みる。さらに3次元空間折り紙作図までを統一的に説明するための折り紙操作の再構築を試みる。

◎川崎敏和:ものづくり教育に役立つ幾何折り紙教材の試作品

要約:前回、研究紹介した「ものづくり教育に役立つ幾何折り紙教材」の試作品ができたので参加者に配布・説明する。この幾何折り紙教材は拙作の4枚組みのブロックをベースにしたもので、基本(基本となる作品制作の説明)と課題(演習問題)および用紙(7.5cm角、15cm角)からなる。

◎三谷純:断面線のキネマティクスを用いた軸対称折り紙の変形アニメーション生成

要約:軸対称立体折り紙は剛体折り紙の条件を満たさないため、紙が伸縮せず折り線の位置は変化しないとした場合、開いた状態と折った状態の間を連続的に変形させることができない。本発表では、紙の形は変化しないという制約の下で折れ線位置の連続的な移動を許容することで、軸対称立体折り紙の折った後の形から円筒または円板までの変形を表すスムーズなアニメーションを生成する手法を示す。

◎鶴田直也 三谷純:スリット入り平板素材への折り曲げ操作による形状デザインシステム

要約:平板状の素材にスリット(細長い切りこみ)を入れることで、折り曲げによる形状変形の自由度が増す。本発表では、複数のスリットが平行に入れられた長方形の素材を折り曲げて得られる形状をコンピュータ上に構築し、対話的に形状を変形させながらデザイン支援を行うシステムの提案を行う。

◎奈良知恵:多面体を提灯風に折りたたむ

要約:多面体を破ったり伸ばしたりせずに平らに折りたためるのでしょうか? エリック・ドメインたちによって2001年に提案されたこの問題について、最近までに得られた研究結果(伊藤仁一氏・Costin Vilcu氏との共同研究など)の概略と、ごく最近の私の研究成果の中から、とくに、提灯のように垂直に折りたためる立体について紹介します。

◎松浦英子:教育における折り紙(仮題)

◎三浦公亮:万年ジャバラの話

Yoshino Issei Fund invites foreign origamists to our conventions.

Yoshino Issei Fund, named in commemoration of the talented origami designer, aims at exchanges of ideas with the world's origamists, supported by contributions from Tanteidan members, and we have invited foreign origamists to our conventions.

This time, we would like to invite two foreign origamists to the 18th convention in August 2012.

We are accepting candidates

until the end of the December. We accept both recommendations and direct applications. The selection committee will decide who we invite and announce the conclusion the May in the magazine, our web site and directly to the winners.

The selected guests must attend the 18th convention and instruct some models.

Yoshino Issei Fund offers each of them up to 200,000 yen for traveling and staying expenses.

We also advise on their stay.

Send us your application with the candidate's name, age, address, telephone number, fax number, e-mail address, and some works (photographs of the model, diagrams, or books).

Yoshino Issei Fund

c/o Gallery Origami House
1-33-8-216, Hakusan, Bunkyo-ku,

Tokyo, 113-0001, JAPAN

Email: webman@origami.gr.jp

第12回折紙探偵団 関西コンベンション開催決定!

立石浩一(折紙探偵団関西友の会)

毎年恒例でゴールデンウィークに行っておりました関西コンベンションでしたが、今年の5月は諸般の事情にて開催を見送っておりました。再開の時期を探っておりましたが、

5月半ば九州、8月東京、11月名古屋が恒例化されていますので、いっそ3月末に持ってこようかということで、今回は、2012年3月23日、24日(金、土)に神戸女学院大学文学館で開くことと致しました。春休み間際の微妙な時期でありますので、規模は例年よりやや小さめのものを考えております。海外ゲストなどの招待は例年通り予定しております。

現在考えております仮のスケジュールとしては、

○23日

09時 受付

10時 講習受付

11時半 全体会

12時~13時 昼休み

13時10分~18時 折り紙教室

○24日

09時 受付

09時半 講習受付

10時40分~12時30分 折り紙教室

12時30分~13時30分 昼休み

13時40分~15時30分 折り紙教室

東京友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(中学生以下300円)/時間=14:00~16:00/研究会=16:00~

●12月3日(土)/講師:原 司/作品:手乗りトリケラトプス

●2012年1月7日(土)/講師:未定/作品:未定

静岡友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/講習=10:30~12:00/講習・情報交換=13:00~15:00

●12月4日(日)/講師:鈴木美恵子/作品:タツノオトシゴ

※会場が土足禁止になりました。各自上履き(スリッパ等)をご持参下さい。

15時40分~17時10分 招待者講演会

17時10分~17時40分 全体会

19時30分~21時30分 懇親会

のようなところですよ。

海外招待者等は1月までに決定し、次号にお知らせ致します。また、申し込み用紙等は、以前より郵送で例会等のお知らせを致しておりました皆様には郵送で、それ以外の皆様は、<http://tatekoo.net/>よりダウンロード可能な状態にして、1月末にお知らせ致します。

なお、関西友の会例会は、今回は1月22日(日)、西宮市大学交流センターを予定しております。講師は私、立石で、講習作品は午前にフェルナンド・ヒルガド作「フクロウ」、マーク・カーシェンバウム作「ドラゴン」、そして、クエンティン・トロリップ作「オオアリクイ」を致します。すべて中から高難度となりますので宜しくお願い致します。10時から17時までの予定で、前の2つは1時間強から1時間半、オオアリクイは2時間強を予定しております。大体昼休みが12時半から13時半という見当ですが、進行具合によって調節致しますのでご了承下さい。コンベンション、例会共に、ぜひお誘い合わせの上お越し下さい。

東海友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟403号室/参加費=大人200円(中学生以下は100円)/時間=13:00~16:30

●12月17日(土)/講師:川畑文昭・富永和裕/作品:ユニット作品・生肉

九州友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階第3研修室B/参加費=500円(中学生以下は100円)/時間=13:00~16:00

●12月25日(日)/講師:山北克彦/作品:未定

●2012年1月22日(日)/講師:岡 雅夫/作品:「一分ローズ」(創作:川崎敏和)(予定)

レクサスカード会員誌に連載中

内外の作家による折り紙作品がレクサスカードの会員誌の表紙に連載されている。今年の4月からはじまり、1年間の予定で折り紙作品が紹介される。今後の予定はロバート・ラング氏、マイケル・ラフォース氏、北條高史氏ほか。



ブライアン・チャン



神谷哲史



武田直樹



小松英夫



神谷哲史

JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

12月17日(土)/講師=布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00

アットホームな雰囲気のある教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。

編集後記

■キャラバンレポートの小方さんは益子の陶芸家だ。■じつは、益子も3.11に大きな被害を受けた。■小方さんのところの窯も大変だったそうだ。■のぼり釜が全壊してしまったのだ。■先は見えないそうだが気にしていない素振り。■一見、豪放磊落に見える方だが、実は非常に細やかな神経をお持ちの方である。■そうだ、次のキャラバンは益子にしよう。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2011年11月25日発行 第22巻4号 通巻130号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/神谷哲史、勝田恭平

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.130 / Published on 25, November 2011 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Beagle" Produced by Kawahata Fumiaki: Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Kamiya Satoshi, Katsuta Kyohei / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>
E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17

日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円
B5判 / 全256頁 / 50作品収録

好評発売中

ポリロッド：川村みゆき、サンタのオーナ
メント：小松英夫、非常口：森末 圭、ウ
サギ：萩原 元、ねこ：川畑文昭、フクロウ：
勝田恭平、ハト：ロマン・ディアス、シャコ：
アンドレイ・エルマコフ、ウサギ：ジェイ
ソン・クー、ブロングホーン：クエンティン・
トロリップ等、国内外の50 作品を収録

書籍名／著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判／全228頁／カラー口絵4頁／19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判／全196頁／カラー口絵4頁／32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 著 山口 真 編	3,100円		B5判／全196頁／カラー口絵 4頁／17作品収録 '93～'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判／全196頁／カラー口絵4頁／18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判／全200頁／全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判／全180頁／カラー口絵4頁／18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 一折り紙のマジシャン 立石浩一 訳	4,800円		B5判ハードカバー全144頁／カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,000円		B5判／全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判／全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判／全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回～第9回及び第12回～第15回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

商品名	送 料	内 容
折紙探偵団Tシャツ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手
ORIGAMI Tシャツ 2,300円(税込)		左胸に「折紙・折鶴」、背面には 「ORIGAMI」などの文字が入った Tシャツ。黒のみで布は厚手
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律 1～2セット 440円	35×35cm／10枚入／70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)		恐竜柄おりがみ用紙＋ ドラゴン(北條高史作)の折り図
「折紙探偵団」専用ファイル 750円(税込)	1冊250円 2冊350円 3冊470円	変形B5判／箔押し(緑)ロゴ入り 雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊) と、会員特別配布物が収納可能!

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送) 送料には梱包材代が含まれています

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!

(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。

<http://origamihouse.store-web.net/>

※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

折り紙キャラバン Tシャツ



2,000円(税込)
送料:2着まで500円

折り紙キャラバンのロゴ
が入ったTシャツ。色は黒
で布は厚手です。S、M、
L、XL各サイズあり。
※1着につき500円が東
日本大震災に支援のため
寄付されます。

書籍の送料

書籍 1冊の送料は420円
書籍 2冊の送料は530円

上記以外の場合はお問い合わせください 書籍と紙製品は別発送となります

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を送付させていただきます。ご希望
の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

SOUSAKU SENKA SOUSAKU SENKA SOUSAKU SENKA SOUSAKU SENKA

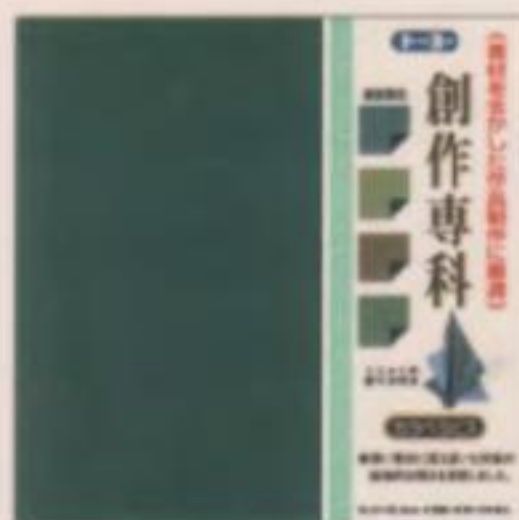
《素材を生かした作品制作に最適》

¥300(税抜き)

創作専科

カラペラピス

◆薄い素材に落ち着いた印象の鉱物的な輝き輝きを表現しました。



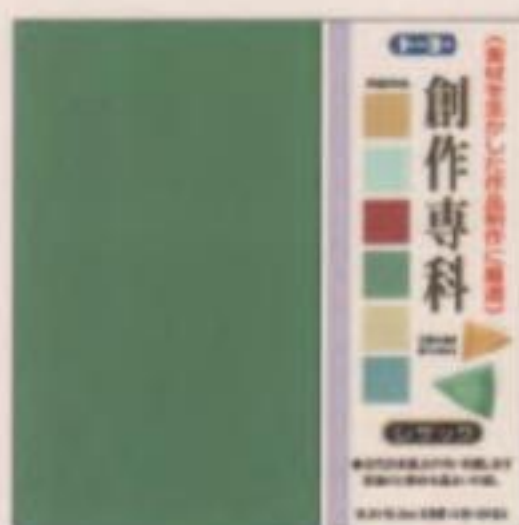
コルキー

◆コルク調の素材でナチュラルな肌と色合いを表現した暖かみのある柔らかい質感。



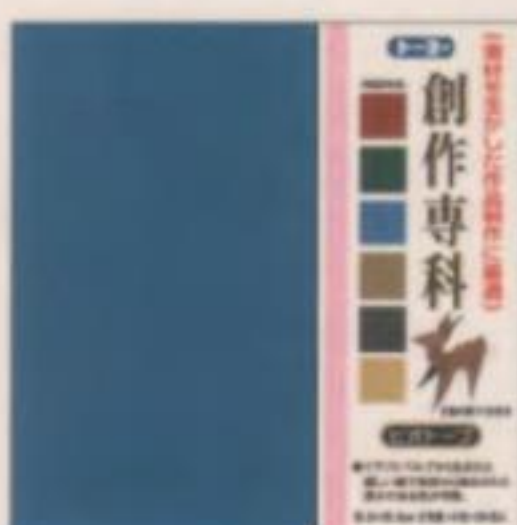
レザック

◆古代日本風土の匂いを醸し出す肌触りと素朴な風合いの紙。



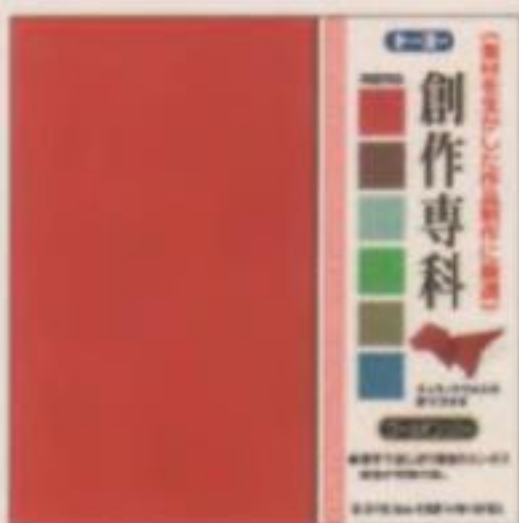
ビオトーブ

◆クラフトパルプから生まれた優しい紙で自然から抽出された深みのある色が特徴。



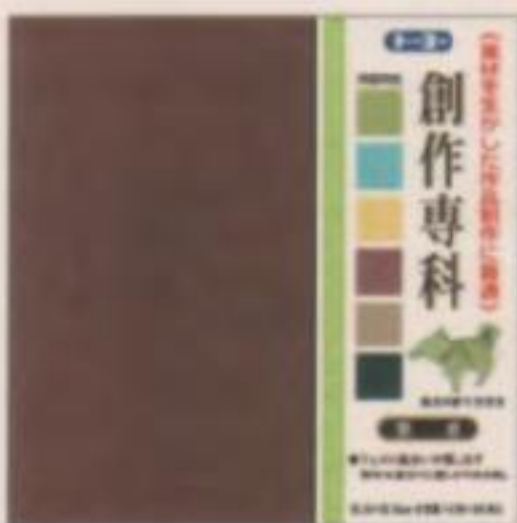
ゴールデンリバー

◆薄手で皮しぼり模様のエンボス感覚が特徴の紙。



里紙

◆フェルト風合いが醸し出す素朴な温もりと優しさのある紙。



株式会社トーヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
 ※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
 本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
 大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所

Origami Caravan

折紙キャラバン

Japan ↔ USA

Origami Caravan Auction Report

Anne LaVin

Following this spring's very successful Origami Caravan trips (reported in Origami Tanteidan issue 126), June Sakamoto and Vicky Mihara-Avery, of Mountain Valley Paper Company in California, ran several fundraising events to benefit the Origami Caravan (reported in issue 127).

But after these events, June and Vicky realized they needed a way to reach more people, and raise even more funds - and the idea of the Origami Caravan Auction was born. They contacted many origami creators throughout the year, and by early autumn had commitments for enough pieces for

to hold a full Auction. I volunteered to act as webmaster for the project, and began building the website <http://origamicaravan.org> and arranged to use the online auction system, eBay, for the project.

But: we needed a date. Finally we realized that the Auction would be a great activity for World Origami Days! It was perfect: origami creators, all over the world, collaborating with the world origami community as bidders, all coming together to support the children of Japan through Origami.

So, as this issue goes to press, we

are in the midst of the first-ever online Origami Auction. The origami community has helped advertise the Auction online, through mailing lists, blogs, websites and social media like Facebook, and the website receives nearly 1,000 visitors a day.

Our heartfelt thanks to the creators for donating their work, and to the generous bidders who are making the Auction a real success!

We hope to hold another Auction next spring - please contact us via the website if you are an origami creator and are interested in donating a piece.

The First Origami Caravan participants and their models include



Peter ENGEL - Great Horned Owl



Bernie PEYTON - Polar Bear



Joseph WU - Owlbear



Jun MAEKAWA - Tiny Devil in Snub Cube



Jason KU - Nazgul 8.1



Michael LAFOSSE and Richard ALEXANDER - Makoto-Cho (a butterfly for Makoto Yamaguchi)



Nicolas TERRY - Cartoon Frog



Brian CHAN - Red Mantis



Robert LANG - Quezadan Pot, opus 603



Tomoko FUSE - Box to the 4th Power



Toshikazu KAWASAKI - Rose



Nick ROBINSON - Crab and Toad



Charles ESSELTINE - "May the Force Be With You" (framed CP art)



Goran KONJEVOD - Discus



Makoto YAMAGUCHI - Ren-Jishi (Kabuki Lion Dancers) and Makoto Rose



Satoshi KAMIYA - Dragonfly 1.1B

2011 World Origami Days

Noguchi Marcio

It was September 2005 when OrigamiUSA contemplated the idea of celebrating October 24th as the Origami Day. This is because that date is the birthday of Lillian Oppenheimer (1898-1992), co-founder of OrigamiUSA (and also of the British Origami Society). Mr. Makoto Yamaguchi hearing about that idea reminded us that Japan already celebrated November 11th as the "Origami Day". So, it was proposed to consider the period from October 24th to November 11th to as the period of "World Origami Days" (or WOD for short.)

Since then, the WOD Committee was created at OrigamiUSA. The objective of the committee was to identify ways of promoting a world-wide celebration of origami by spreading the joy of paperfolding. This committee was not very active up until 2008. Since that year, a basic website was created to provide information about WOD and to share information about WOD events. In 2009 I became a committee member and then appointed WOD committee chair. Gradually the committee helped to reinforce the WOD objectives: a poster about Origami was created, a calendar of events extended with a listing of what was happening in various parts of the world, templates of models with World Origami Day messages, and a basic picture library was created on Flickr.

OrigamiUSA WOD committee continued to promote the celebration in 2010. The committee was finally able

to reach out to other countries in the world to promote the WOD objective of celebration of Origami worldwide. We were quite satisfied with messages of events happening around the world, still in small scale but very significant: in Hungary, India, Colombia, Brazil, Panama, and obviously in various cities in the United States. In NY, a special celebration was hosted as part of WOD at the American Museum of Natural History to celebrate Lillian Oppenheimer birthday. One highlight was a message from the Tucson Origami Club (Arizona). The Club members Rachel Loubeau and Erik Glenn were married at the Saguaro Buttes in Tucson on October 29, 2010. Friends made the kusudama "kissing ball" and bouquet of Kawasaki roses.

However, it was during the Tanteidan

convention in August of this year that I had an excellent meeting with Mr. Yamaguchi and Mr. Nishikawa. We discussed the idea of expanding even more the promotion and celebration of WOD. As a result, it was proposed a creation of the logo (which was designed by Mr. Yamaguchi himself) and a partnership to promote the folding of next year Chinese zodiac animal: the dragon. A virtual photo gallery would make the access easy to share the dragons folded world-wide, and in addition, OrigamiHouse and JOAS agreed to display some models as part of the WOD exhibition. OrigamiUSA is very proud of the WOD partnership with JOAS and OrigamiHouse, and would look into even further collaboration in order to promote Origami and the joy of folding in the world.

